

ほっとスクールにおける運営評価の実施結果について

1 主旨

区内3か所のほっとスクールについて、民間の評価機関による調査、分析及び「教育支援センター（ほっとスクール）運営評価委員会」による運営評価の結果を報告する。

あわせて、評価結果を踏まえた、ほっとスクールにおける運営の質の向上に向けた、今後の取組みの方向性についても報告する。

2 民間の評価機関（第三者評価）による調査・分析結果

別紙1-1「世田谷区立教育支援センター第三者評価業務委託報告書（概要版）」

及び別紙1-2「世田谷区立教育支援センター第三者評価業務委託報告書」のとおり。

3 教育支援センター（ほっとスクール）運営評価委員会による評価

別紙2「教育支援センター（ほっとスクール）運営評価委員会 評価結果報告書」
のとおり。

4 今後の取組み

運営評価委員会の評価結果により、民間導入の効果のほか、直営による有効性も認められたことから、当面の間、現在の体制を継続することとし、今後のほっとスクールの運営については、以下のとおりに取り組んでいく。

(1) ほっとスクール希望丘の民間委託による運営

「ほっとスクール希望丘」においては、民間委託事業者が培ってきたノウハウや人的ネットワークを活用することで、多様で柔軟な自由度の高い活動を展開しており、不登校児童・生徒の多様なニーズに対応し、新たな居場所としての役割を果たしているとの評価を得た。また、費用面においても、第三者評価の結果のとおり、効率的な運営を行っており、民間導入の効果があつたことから、今後も民間委託による運営を継続し、改めて公募型プロポーザル方式による事業者選定を行う。

(2) ほっとスクールの運営の質の向上に向けて

運営評価委員会の意見を踏まえ、ほっとスクールの運営の質の向上に向け、今後、下記
の取組みを進めていく。

①支援機能の強化に向け、児童・生徒一人一人の支援内容を定期的に評価する仕組み
を構築する。

②スタッフの資質と専門性の向上に向け、研修の機会及び内容の充実を図る。また、
民間委託施設においては、委託事業としての運営の質を確保する観点から、運営ス
タッフの資質も含め、区におけるチェック機能のあり方を検討する。

- ③ほっとスクール間の交流や連携の更なる促進を図り、区直営と民営の相互のノウハウやネットワークを共有し、多様な活動を展開することで、ほっとスクール全体の質の向上を図る。
- ④不登校特例校との機能や役割の違いを明確にし、児童・生徒の状態に応じた適切な支援を実施する。
- ⑤不登校の児童・生徒数が増加している状況を踏まえ、定員の拡充や新たな整備など、ほっとスクールにおける受け入れ体制の強化に向けた検討を行う。

上記の内容については、現在策定中の「第2次世田谷区不登校支援アクションプラン」や、民間委託事業者の選定に向けたプロポーザル実施要領に反映し、取り組みを推進していく。

5 今後のスケジュール（予定）

令和3年	11月	評価結果の公表（区ホームページ）
	11月中～下旬	プロポーザル公告
	12月～1月	提案書受付
令和4年	1月	選定委員会（書類審査、ヒアリング審査）
	2月	文教常任委員会報告（選定結果）
	4月	選定事業者によるほっとスクール希望丘の運営開始

世田谷区立教育支援センター
第三者評価業務委託
報告書（概要版）

2021年8月31日

総合システム研究所株式会社

1. 目的

世田谷区立教育支援センター（以下「ほっとスクール」という。）の運営体制を検討するにあたり、区職員が運営するほっとスクール「城山」及びほっとスクール「尾山台」（以下、それぞれ「城山」「尾山台」という。）と、民間企業への業務委託により運営するほっとスクール「希望丘」（以下、「希望丘」という。）に対して、客観的な分析と評価による検証を行うことを目的とする。

【対象施設の概要】

	城山	尾山台	希望丘
所在地	世田谷区豪徳寺 2 - 1 0 - 9	世田谷区尾山台 3 - 1 9 - 3	世田谷区船橋 6 - 2 5 - 1
最寄り駅	東急世田谷線「宮の坂」 駅徒歩 5 分 東急世田谷線「上町」駅 徒歩 10 分 小田急線「豪徳寺」駅徒 歩 15 分 東急・小田急バス「上 町」徒歩 10 分	東急大井町線「尾山台」 駅徒歩 5 分 東急バス「東京都市大 北入口」徒歩 5 分	京王・小田急バス「朝日 新聞社前」徒歩 2 分 京王線「八幡山駅」徒歩 20 分 小田急線「千歳船橋」駅 徒歩 20 分
定員	25 名程度	10 名程度	50 名程度
スタッフの数 ※訪問調査日時点	教育支援嘱託員 1 名 指導員 5 名	教育支援嘱託員 1 名 指導員 4 名	事業責任者 (施設責任者) 1 名 常勤職員 5 名 非常勤スタッフ 3 名

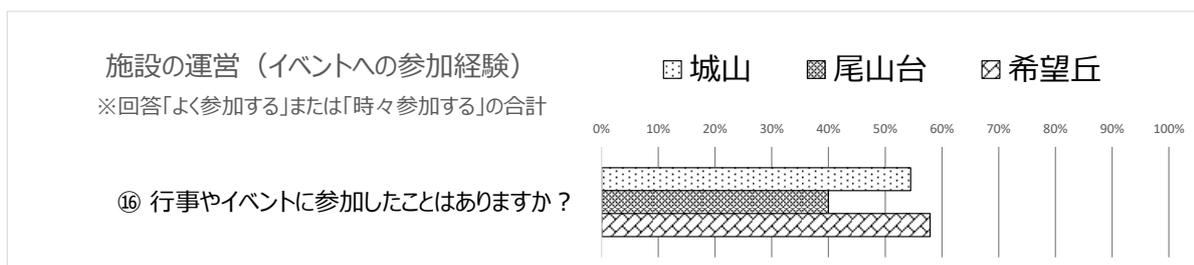
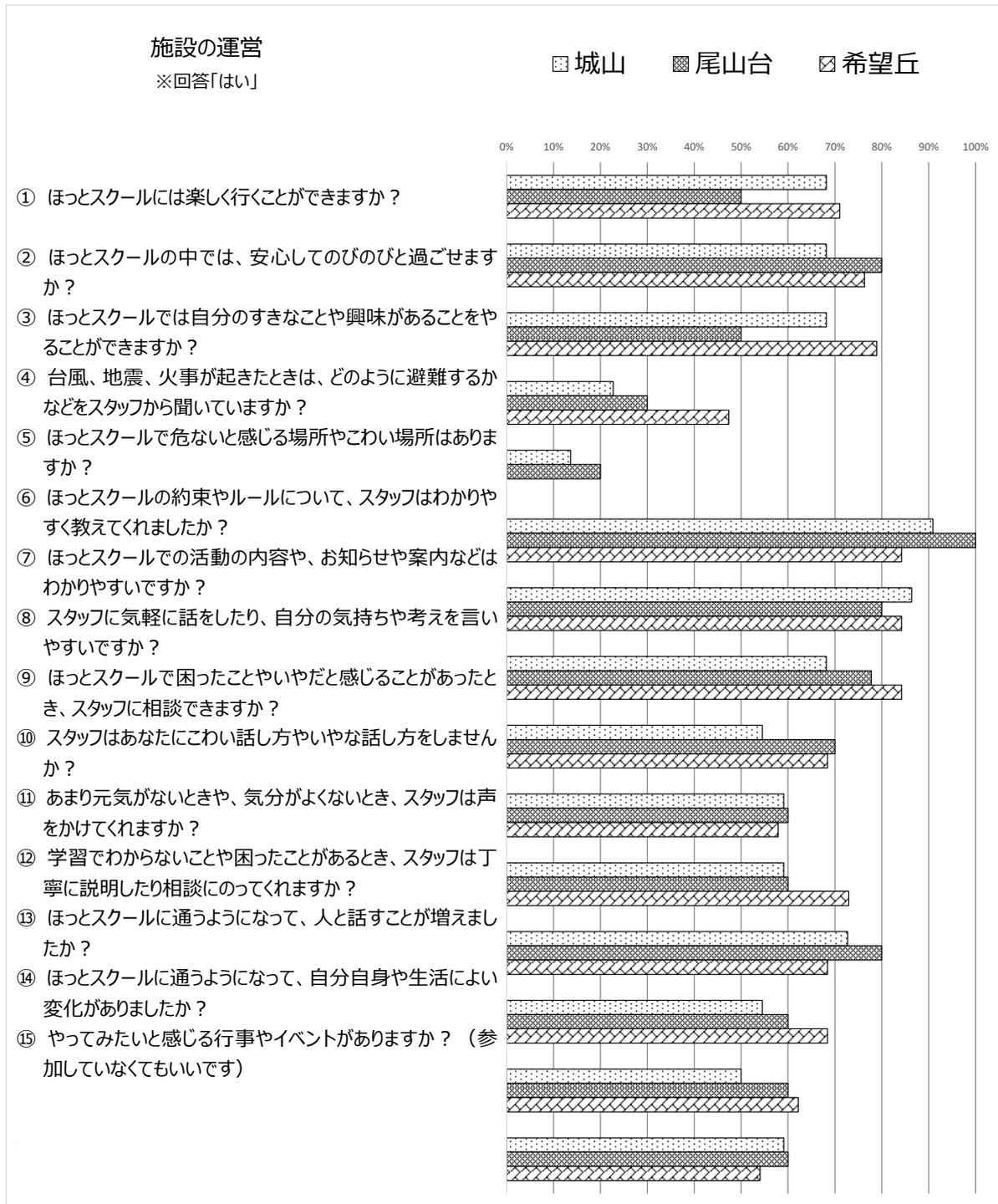
2. 利用者調査

◇各ほっとスクールの通室生及びその保護者に対し、施設の運営に対するアンケート調査を実施

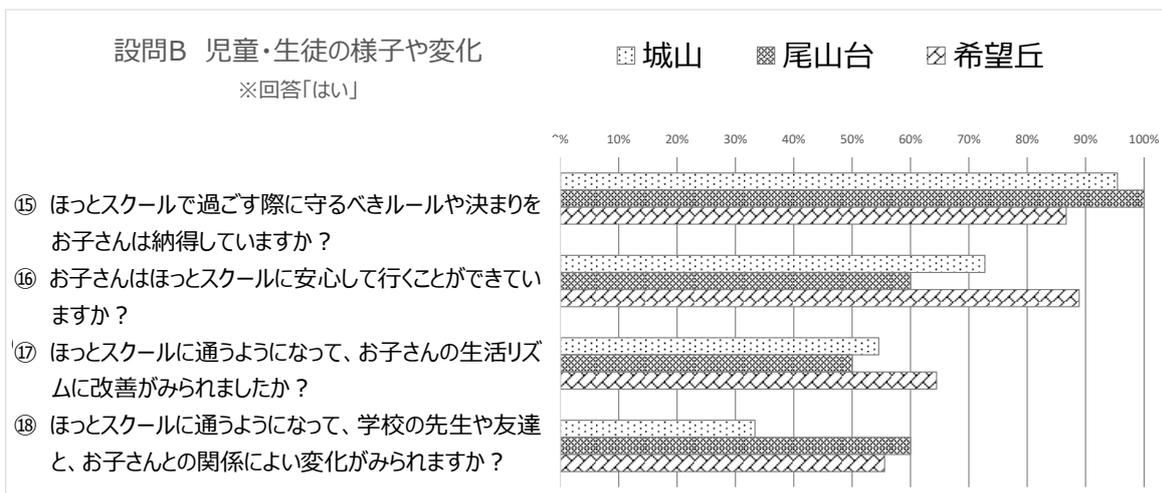
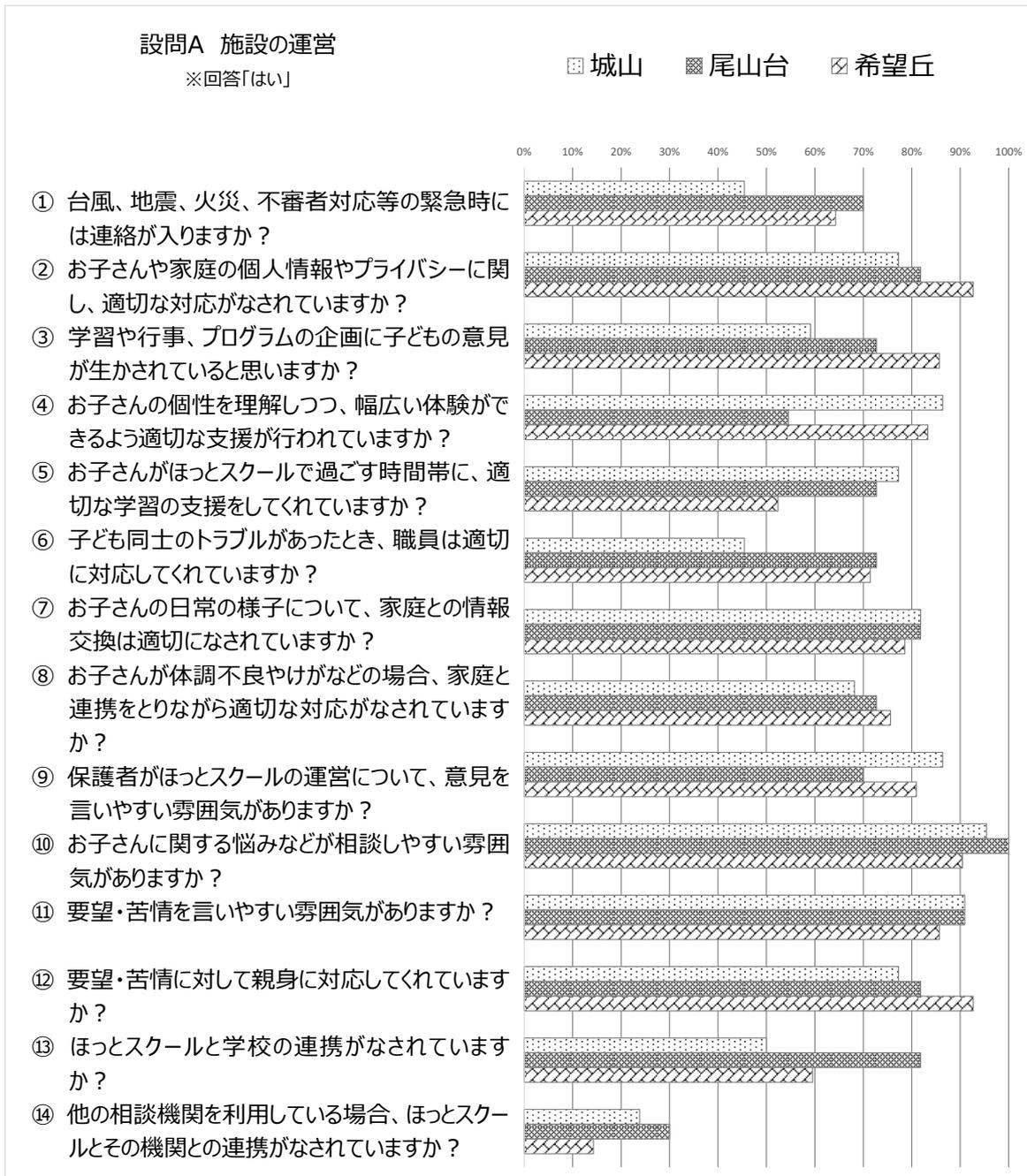
◇アンケートの配布及び回収期間は、令和 3 年 5 月 28 日～6 月 11 日

	保護者		通室生	
	配布数	回収数 (回収率)	配布数	回収数
城山	35	23(65.7%)	37	22(59.5%)
尾山台	20	11(55.0%)	20	10(50.0%)
希望丘	58	46(79.3%)	60	38(63.3%)

【通室生のアンケート集計結果】



【保護者のアンケート集計結果】



3. 第三者評価結果

【評価の基準】

- A 適切に実施している
- B 実施しているが一部不十分な点がある
- C 不備があり十分に実施しているといえない

	No.	評価項目	城山	尾山台	希望丘
I -1	1	管理者は、理念や方針について会議で説明するなど、スタッフの理解を深める取組みをしている。	B	B	A
	2	理念や方針について、保護者や児童・生徒が理解しやすいよう、わかりやすくパンフレット等を作成し、説明している。	A	A	A
I -2	3	事業計画は、スタッフの意見を反映して作成している。	A	A	A
	4	作成した事業計画の内容を会議で説明するなど、全てのスタッフに周知する機会がある。	A	A	A
II -1	5	管理者は、施設の運営に対し、現状を分析し問題点を把握している。	B	B	A
	6	管理者は、施設で行っている全てのことに対して、スタッフの意見を取り入れ、施設の改善を図っている。	B	B	A
II -2	7	管理者は、業務の役割に応じた人材や有資格者の配置等、適正な人材を適正な数で配置している。	B	B	A
	8	管理者は、目的や効果を説明した上で、人事評価（勤務評定）を行っている。	A	A	B
	9	組織全体またはスタッフ一人ひとりについて、教育や研修の計画が作成・実施されている。	A	A	A
	10	教育や研修計画を決めるにあたり、研修後の結果やスタッフの希望・意見を反映し、研修内容の見直しをする仕組みがある。	A	A	A
II -3	11	緊急事態や災害が発生した際の対応マニュアル等が作成され、リーダーや責任者、現場での対応等、スタッフの役割分担が決まっている。	B	B	A
	12	緊急事態や災害が発生した際の連絡先（児童・生徒の保護者、関係機関等）について、全スタッフが把握している。	A	A	A
II -4	13	教育相談室や不登校相談窓口等の関係機関や、民間の不登校支援に関する団体等の連携先について、リストや資料を作成している。	A	A	A
	14	児童・生徒の支援のため、在籍校や関係機関などと連携し、情報を共有する機会がある。	A	A	A
III -1	15	児童・生徒の気持ちを傷つけるようなスタッフの言動や虐待が行われることのないよう、スタッフが会議や研修等で定期的に話をする機会がある。	A	A	A
	16	児童・生徒や保護者の個人情報保護に関する規程・マニュアル等を作成している。	B	B	A
	17	児童・生徒に関する記録を使用するスタッフの範囲や、保管・保存方法、廃棄等に関する決まりがある。	B	B	A
	18	相談スペースを個室に区切るなど、相談や意見を述べやすい環境を作っている。	A	A	A
	19	児童・生徒や保護者から意見等を受けた際の記録の方法や報告の手順、回答の仕方等について決まった仕組みがある。	A	A	A
	20	寄せられた意見等はスタッフも交えて検討し、ほっとスクール運営の改善に反映している。	A	A	A

Ⅲ-2	21	支援の内容や方法について、複数のスタッフで提案や意見交換を行うなど、検討し合う機会がある。	A	A	A
	22	児童・生徒の日頃の活動状況や、特徴的な事等について記録し、書き方に差異が生じないよう、項目や記載の仕方について様式や決まりがある。	A	A	A
Ⅲ-3	23	見学、体験利用等の希望に対応している。	A	A	A
	24	利用案内、利用に際しての決まりごとや活動内容等をわかりやすく資料にまとめ、児童・生徒や保護者に配布や説明をしている。	A	A	A
Ⅲ-4	25	学習計画は児童・生徒一人ひとりについて、児童・生徒や保護者の意向や要望を含めて作っている。	A	C	A
	26	学習計画の内容や進捗について、定期的に確認する機会がある。	A	B	A
A-1	27	児童・生徒が活動する際のきまりやルールをわかりやすく説明したり、見える場所に表示をしている。	A	A	A
	28	児童・生徒が活動する際のきまりやルールに納得できない場合、話を聞いたり、丁寧に説明したり、見直しを行うなどの機会を設けている。	A	A	A
	29	広さに関わらず、スペースや設備・道具などが児童・生徒の発想で自由に活用できるように工夫されている。	A	A	A
	30	特定の使用目的に限定されない、一人でリラックスして過ごせるスペースを作っている。	A	A	A
A-2	31	スタッフは一人ひとりの児童・生徒へ目を配り、スタッフ間で児童・生徒の様子を共有しながら適切に援助をしている。	A	A	A
	32	児童・生徒間のけんかやトラブル、羽目をはずす行為等への対応は、気持ちを荒れさせることなく成長につながるよう適切に援助をしている。	A	A	A
	33	スタッフは、児童・生徒一人ひとりの友人同士の関わりについて把握している。	A	A	A
	34	イベントや行事等の参加型体験活動は、児童・生徒同士の交流が生まれるように工夫している。	A	A	A
	35	イベントや行事等の参加型体験活動は、学習の視点や新たな経験に繋がることを意識して企画している。	A	A	A
	36	イベントや行事等の参加型体験活動は、児童・生徒の自主性・主体性を育てる方法で行っている。	A	A	A
A-3	37	日常的に児童・生徒や保護者から、相談の受付や対応を行っている。	A	A	A
	38	児童・生徒や保護者からの相談内容や対応の経過、回答や情報提供の内容について記録している。	A	A	A
	39	保護者が企画運営やイベントに参加するなど、保護者同士で交流ができる活動がある。	A	A	A
	40	保護者に対して、不登校についての知識を学ぶ機会を設けている。	A	A	A
	41	虐待や家庭での問題を抱える児童・生徒等が発見された場合、児童相談所やソーシャルワーカー等の関係機関と連携する仕組みがある。	A	A	A
A-4	42	ほととスクールに来るときや帰宅時の経路の安全について、児童・生徒に対し、安全確保のための具体的な指導をしている。	A	A	A
A-5	43	児童・生徒や保護者に向け、活動案内等のお便りを定期的に配布している。	A	A	A

4. 第三者評価結果の総評

評価対象Ⅰ 施設運営の基本方針と組織

【城山・尾山台】

- ◇理念や方針を具体的な業務に落とし込む際に、管理者（教育相談・支援課課長）と施設に勤務するスタッフの意識に差が生じることがあり、擦り合わせに時間を要する点がある点は課題である。
- ◇事業計画の作成に当たっては、実施状況を振り返り、通室生の反応や意見を取り入れながら、見直しと計画への反映に繋げている。

【希望丘（業務委託）】

- ◇世田谷区の要求水準や仕様をより一層自社のマネジメントの仕組みに落とし込んでいる。理念や方針を明文化し、常にそこに立ち返りながら業務に当たるようスタッフの意識に浸透させている。
- ◇事業計画の作成に当たっては、実施状況を振り返り、通室生の反応や意見を取り入れながら、施設の理念や方針に立ち返り照らし合わせ、短いサイクルで見直しと計画への反映に繋げている。

【全施設の課題】

- ◇各施設における基本方針の実現に向けた取組みが、施設や職員により方向性が異なる点が見られ、運営方法への違いにも現れているため、定期的に3施設で協議や確認をする場が必要である。

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

【城山・尾山台】

- ◇管理職を経験した教育支援嘱託員が管理者と指導員の中間となる役割を担っているが、実質的に管理者が施設に不在という点は課題。
- ◇スタッフが全て非常勤職員であり、業務に応じて出勤体制を調整することが難しいため、一時的に通室生の支援や学習指導といった面において手薄になることがある。
- ◇教育支援嘱託員や指導員の入れ替わりが多く、不登校支援経験を蓄積したスタッフが継続的に通室生の支援に当たれていない状況も見受けられる。
- ◇スタッフが働きやすい環境の継続的な整備や、専門的人材や経験が豊富な人材の確保、それができない場合はカバーする方策が必要である。
- ◇安全管理については、防災以外の緊急時のフローやマニュアルが整備されていないことや訓練等を実施していないことは、喫緊の課題といえる。

【希望丘（業務委託）】

- ◇不登校支援の経験が豊富な施設責任者が配置されている。また、いずれのスタッフも不登校支援のボランティア勤務を経たのちに、正式に配属される仕組みとなっている。
- ◇法人本部とは、法人が運営する他の支援施設等における事例や、不登校を取り巻く社会的状況等について情報交換や協議を行い、多角的な面から当施設の課題を認識し、運営に活かしている。
- ◇人員が不足する場合には、非常勤スタッフの勤務時間の増加や本部からサポート要員を派遣するなど、臨機応変に対応している。
- ◇スタッフの質の向上は、当施設の課題や通室生の特性に対応するための多彩な研修を行い、具体的な支援に生かすことを見越して計画的に実施されている。
- ◇スタッフの人事評価に関する具体的な仕組みが整っていない点については課題。

【全施設の課題】

- ◇全体として、災害発生時等の引き取り方法が決まっていない点については、大きな課題である。
- ◇アンケートでは緊急時における避難方法等の理解度が低くなっていることから、コロナ禍においても定期的な避難訓練等を実施することにより、通室生の意識の向上を図ることが重要といえる。
- ◇学校との連携は適切に行われているが、保護者へのアンケートでは、学校との連携がされているかの設問に対し、「はい」が低い傾向がある。これは自由意見にあるように、ほっとスクール側の課題ではなく、学校側に対しほっとスクールへの理解と連携を求める意見の表れと考えられる。

評価対象Ⅲ 適切な支援の実施

支援体制

【城山・尾山台・希望丘】

- ◇スタッフは、それぞれが主に担当している通室生に重きをおきつつ、全ての通室生の様子に目を配っている。
- ◇保護者からの意見や相談を受けた場合においても、スタッフ間にて情報共有を図り対応している。
- ◇難しい事例の場合には、教育相談室のスーパーバイザーや外部機関等へ相談し連携を図るなど、関係機関と連携を図り対応に当たっている。
- ◇通室生の状況や状態、相談内容等については、記録用紙や支援シート等へ記録し、個人別のファイルに保管するなど、全スタッフが常に適切な対応を行えるよう体制を整えている。

コンプライアンスや個人情報

【城山・尾山台】

- ◇個人情報については研修や規程の理解はされているが、業務内容に則したマニュアルやフローの整備が不十分である。また、スタッフルームは基本的に通室生の入室を禁止しているが、実際は入室してしまうケースもある点は課題といえる。

【希望丘（業務委託）】

- ◇倫理綱領や行動規範、ガイドライン、マニュアルの策定や、スタッフルームは、通室生が入室できないよう常時施錠するなど、個人情報に対する厳密な管理体制を整えている。

学習計画

【城山】

- ◇学期の始めに学習活動計画として、通室生に対してスタッフが寄り添い、相談しながら「1学期プランニング」を立てている。
- ◇午前中が学習の時間と決められている。通室生の意思を尊重しているが、保護者のアンケートでは、ルールとして設定されていることに対し、通室生によっては負担を感じる様子もうかがえた（例：自習が難しい低学年）。

【尾山台】

- ◇児童・生徒が通室することを最優先とし、施設側からは計画を立てていない。
- ◇午前中は学習の時間となっている。学習の状況については、各通室生の担当スタッフが確認し、把握をするようにしているが、状況が把握できる記録が不十分であるなど、計画的な学習支援の体制は整備されていない。

【希望丘（業務委託）】

- ◇通室生の自主性を尊重し、自発的な取組を重んじながら、学期単位で作成している。また学習の時間として、週2回「学びタイム」を設定している。
- ◇全ての活動を学習の機会と捉え、通室生自らがプロジェクトを立ち上げ、自主的に主体的に学ぶ環境を整えている点があげられる。
- ◇保護者のアンケートでは、学習支援の時間が少ないという意見があり、教科学習の遅れに対する不安を感じる様子がうかがえた。

A 活動に関する事項

活動環境の整備

- ◇いずれの施設でも限られたスペースを工夫して通室生が活動でき、なおかつ一人でくつろげるスペースを設置している。
- ◇通室生同士のトラブル等が生じた場合は、十分に当事者の話を聞き取り、気持ちの落ち着きを取り戻させながら、お互いが過ごしやすくなるようサポートするなど、適切に対応している。

ほっとスクールにおいて過ごす上でのルール等の取決め

【城山・尾山台】

- ◇ほっとスクールで過ごす上でのルールは、通室生の意見を聞き入れたり、制限される内容とその理由の説明やルールの見直しを行うなど、通室生の意見を尊重し対応している。

【希望丘（業務委託）】

- ◇通室生が主体となり行われるミーティングにて話し合われている。通室生自らがミーティングにおいてルールを制定するなど、自主性や主体性を尊重した内容となっている。

イベント・行事

【城山・尾山台】

- ◇通室生の要望も時に踏まえながら、スタッフが企画を行っている。通室生同士が共に作業を行える工夫や活動のねらいについて資料を作成するなど、学習の視点や自主性、主体性を育てている。
- ◇尾山台の保護者アンケートでは、「公立校と比べて体験や経験を積むことが少ないため、個性を生かした幅広い体験をさせてほしい」という意見が見られた。

【希望丘（業務委託）】

- ◇スタッフが企画する多様な講座以外に、通室生自身が企画から運営まで行うプロジェクトサークルタイム（進行するために必要なあらゆることが学びの場 例：植樹と木の家づくり）がある。

通室生や保護者からの相談

【城山・尾山台】

- ◇令和2年度は城山が85件、尾山台が64件となっている。城山では継続通室面談のほかに定期的な個別相談会（保護者面談）はないが、希望があれば随時行っている。尾山台では継続通室面談のほかに、個別相談会（保護者面談）として定期面談を学期末に行うなど、保護者との面談に力を入れている。また令和3年度は、通室生とスタッフの二者面談の実施も予定している。保護者同士が交流できる機会としては、「保護者会」を開催している。

【希望丘（業務委託）】

- ◇令和2年度は468件となっている。継続通室面談のほかに定期的な個別相談会（保護者面談）はないが、希望があれば随時行っている。また、保護者同士が交流できる機会として、「保護者懇親親睦

会」「保護者会」があるほか、施設に来ていない通室生の保護者に対しては電話で様子を聞くなど、保護者へのフォローにも力を入れている。

5. 行政コスト

「令和元年度の行政コスト」を「通室生延べ出席数」で割り返し、単位当たりのコストを比較した。

各施設の情報	ほっとスクール		
	城山	尾山台	希望丘
令和元年度の行政コスト(単位:千円)	30,909	29,814	51,955
通室生延べ出席数(人)	2,681	968	6,445
延べ通室生1人あたりの行政コスト(単位:千円)	11,529	30,800	8,061

◇希望丘、城山、尾山台の順でコストパフォーマンスが高い。

◇延べ通室生1人あたりの行政コストの差は、城山と希望丘では年間約3,500千円となっている。現状では民間活用により、サービスの水準を維持し、またコストを削減することに成功しているといえる。

6. 民営効果

◇教員経験、心理職経験や不登校支援経験があるスタッフなどを雇用し、臨機応変な人員配置を取ることができる。

- ・職員は現場でのボランティア勤務を経て正式に配属されるため、配属時点で法人の採用基準を満たした支援経験者
- ・人員が不足する場合には勤務時間や日数を増やしたり、欠員が生じた場合には法人の本部から人員を派遣するなど、業務の状況に応じた臨機応変な勤務体制をとることで充足

◇法人が運営する他の支援施設等における実績や事例を当施設の運営に応用することができる。

- ・不登校を取り巻く社会的状況についての情報も含め、多角的に当施設の運営に活用
- ・研修コンテンツや子どもの社会的自立の支援に向けた多様なプログラム

◇ほっとスクールを民間委託することについては、優良な事業者を選定し、区が適切にモニタリングやコントロールをすることにより、直営施設への波及効果も含め、導入効果が得られるのではないかと考える。

世田谷区立教育支援センター
第三者評価業務委託
報告書

2021年8月31日

総合システム研究所株式会社

目次

I.目的	1
II.調査分析・評価の方法	1
1.対象施設	1
2.利用者アンケートによる調査・分析	1
3.第三者評価による分析・評価	2
(1) 評価項目	2
(2) 評価の実施	3
III.アンケート調査結果	4
1.城山 アンケート調査結果	4
(1) 城山【通室生】	4
(2) 城山【保護者】	7
2.尾山台 アンケート調査結果	11
(1) 尾山台【通室生】	11
(2) 尾山台【保護者】	13
3.希望丘 アンケート調査結果	16
(1) 希望丘【通室生】	16
(2) 希望丘【保護者】	19
4.アンケート集計結果の総括	24
(1) 通室生	24
(2) 保護者	27
IV.評価結果	32
1.評価結果の一覧	32
2.評価の詳細	35
V.分析・第三者評価結果の総括	46
1.全体の総評	46
(1) 評価対象Ⅰ 施設運営の基本方針と組織	46
(2) 評価対象Ⅱ 組織の運営管理	46
(3) 評価対象Ⅲ 適切な支援の実施	47
(4) A 活動に関する事項	48
2.行政コスト	49
3.業務委託による民間運営の効果	50

I.目的

世田谷区立教育支援センター（以下「ほっとスクール」という。）の運営体制を検討するにあたり、区職員が運営するほっとスクール「城山」及びほっとスクール「尾山台」（以下、それぞれ「城山」「尾山台」という。）と、民間企業への業務委託により運営するほっとスクール「希望丘」（以下、「希望丘」という。）に対して、客観的な分析と評価による検証を行うことを目的とする。

II.調査分析・評価の方法

1. 対象施設

下記のそれぞれの施設について、通室生（児童・生徒）及び保護者へのアンケート調査を行い、その結果を踏まえて第三者評価機関による訪問調査を実施し、総合的に評価を行った。

	城山	尾山台	希望丘
所在地	世田谷区豪徳寺2-10-9	世田谷区尾山台3-19-3	世田谷区船橋6-25-1
最寄り駅	東急世田谷線「宮の坂」駅徒歩5分 東急世田谷線「上町」駅徒歩10分 小田急線「豪徳寺」駅徒歩15分 東急・小田急バス「上町」徒歩10分	東急大井町線「尾山台」駅徒歩5分 東急バス「東京都市大北入口」徒歩5分	京王・小田急バス「朝日新聞社前」徒歩2分 京王線「八幡山駅」徒歩20分 小田急線「千歳船橋」駅徒歩20分
定員	25名程度	10名程度	50名程度
スタッフの数 ※訪問調査日時点	教育支援嘱託員1名 指導員5名	教育支援嘱託員1名 指導員4名	事業責任者（施設責任者）1名 常勤職員5名 非常勤スタッフ3名

2. 利用者アンケートによる調査・分析

各ほっとスクールの通室生（児童・生徒）及びその保護者に対し、施設の運営に対するアンケート調査を実施した。アンケート用紙は通室生用と保護者用を作成し、配布及び回収は郵送で行った。

アンケートの配布及び回収期間は、令和3年5月28日～6月11日である。配布枚数、回収数、回収率については以下のとおりである。

	保護者		通室生	
	配布数	回収数（回収率）	配布数	回収数
城山	35	23(65.7%)	37	22(59.5%)
尾山台	20	11(55.0%)	20	10(50.0%)
希望丘	58	46(79.3%)	60	38(63.3%)

通室生へのアンケートは、回答者の属性に関する設問が5問、施設運営に関する内容が16問と自由記述である。

保護者へのアンケートは、お子さんの属性に関する設問が5問、施設運営に関する設問Aが14問、通室後のお子さん（通室生）の様子や変化についての設問Bが4問と自由記述である。複数の

お子さんがほっとスクールに通室している場合、お子さんの属性及び設問Bについては、お子さんごとの回答となっている。

3. 第三者評価による分析・評価

(1) 評価項目

評価項目は、大項目として組織的なマネジメント分野（評価対象Ⅰ～Ⅲ）と支援活動のプロセスに関する分野（A活動に関する事項）の4つにカテゴリー区分し、さらに中項目として15のカテゴリーに区分し、全体で43の評価項目となっている。

【評価項目の体系】

大項目	中項目	評価項目数
評価対象Ⅰ 施設運営の基本方針と組織	I-1 理念・方針	2
	I-2 計画の策定	2
評価対象Ⅱ 組織の運営管理	Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ	2
	Ⅱ-2 人材の確保・育成	4
	Ⅱ-3 安全管理	2
	Ⅱ-4 地域や関係諸機関との交流や連携	2
評価対象Ⅲ 適切な支援の実施	Ⅲ-1 児童・生徒本位の支援	6
	Ⅲ-2 支援の質の確保	2
	Ⅲ-3 支援の開始・継続	2
	Ⅲ-4 活動実施計画の策定	2
A 活動に関する事項	A-1 活動の環境整備	4
	A-2 児童・生徒への対応（核となる活動）	6
	A-3 児童・生徒や保護者からの相談への対応	5
	A-4 地域社会との取組み	1
	A-5 広報活動	1

(2) 評価の実施

① 自己評価

各評価項目に対する実施状況について、施設のスタッフ一人ひとりに自己評価用紙を配布し、自己評価を行ってもらい、郵送で回収した。

② 訪問調査

アンケート集計結果及び自己評価結果を参考にして、評価員 2 名が各施設の訪問調査を行った。

(ア) 施設での目視による確認

(イ) 管理運営における文書類及び運用記録等記録類

評価期間は、令和 2 年度から訪問調査の実施日までとしたが、取組みの一部については令和元年度以前の実施状況を参考とした。

(ウ) スタッフへのヒアリング

運営の状況や取組内容については、教育支援嘱託員（城山・尾山台）や施設責任者（希望丘）、一般のスタッフに対して、上記の（ア）（イ）の内容及び自己評価の結果を踏まえてヒアリングを行った。

尚、各施設における訪問日は、以下の通りである。

- ・城山 令和 3 年 6 月 29 日(火)
- ・尾山台 令和 3 年 6 月 24 日(木)
- ・希望丘 令和 3 年 7 月 2 日(金)

③ 評価結果の記述

アンケート調査、自己評価及び訪問調査の結果を総合的に判断し、各評価項目に対する評価結果を中項目ごとにまとめて記載をした。併せて各評価項目に対し、下記の基準で評価結果を示した。

- A 適切に実施している
- B 実施しているが一部不十分な点がある
- C 不備があり十分に実施しているといえない

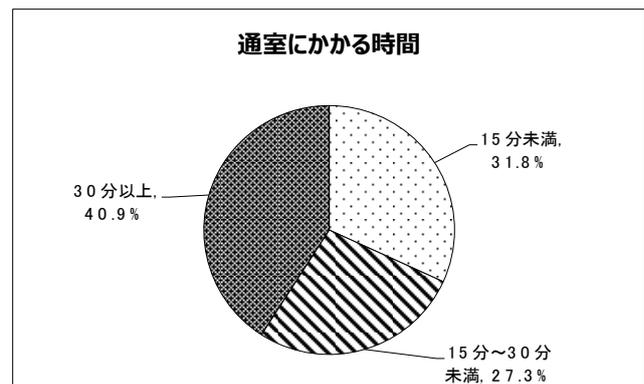
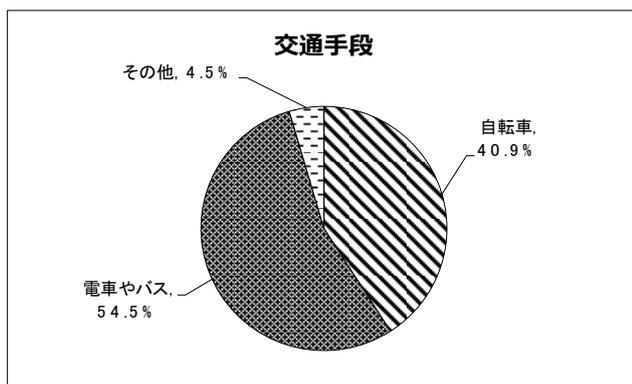
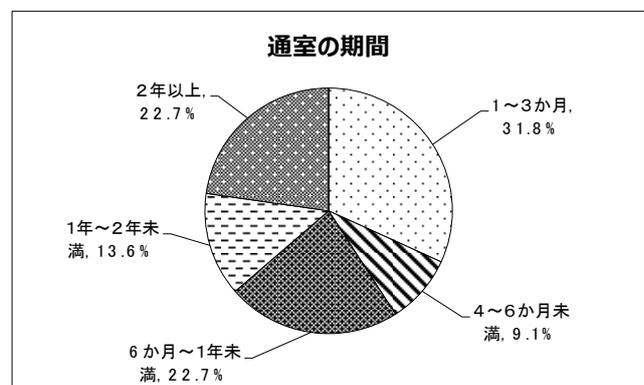
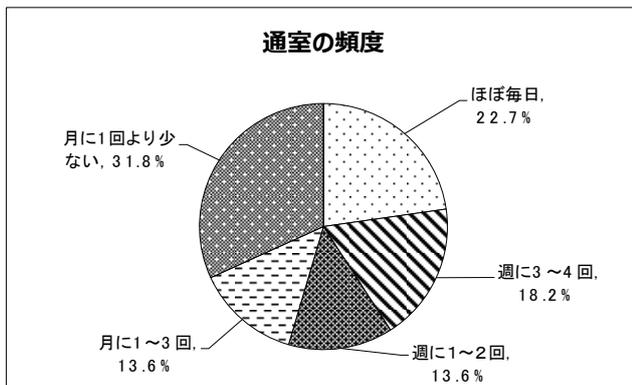
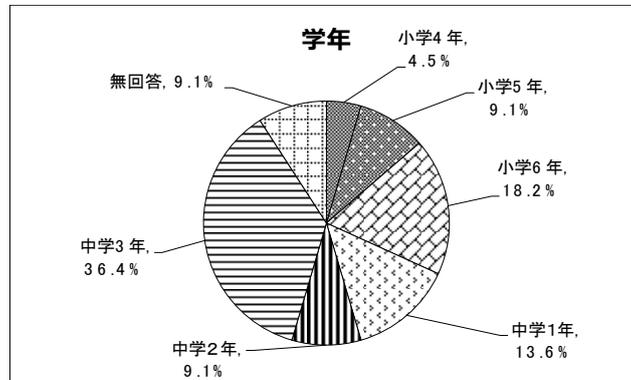
最後に、各評価項目を取りまとめ、大項目ごとに「第三者評価の総括」を記述している。

Ⅲ. アンケート調査結果

1. 城山 アンケート調査結果

(1) 城山【通室生】

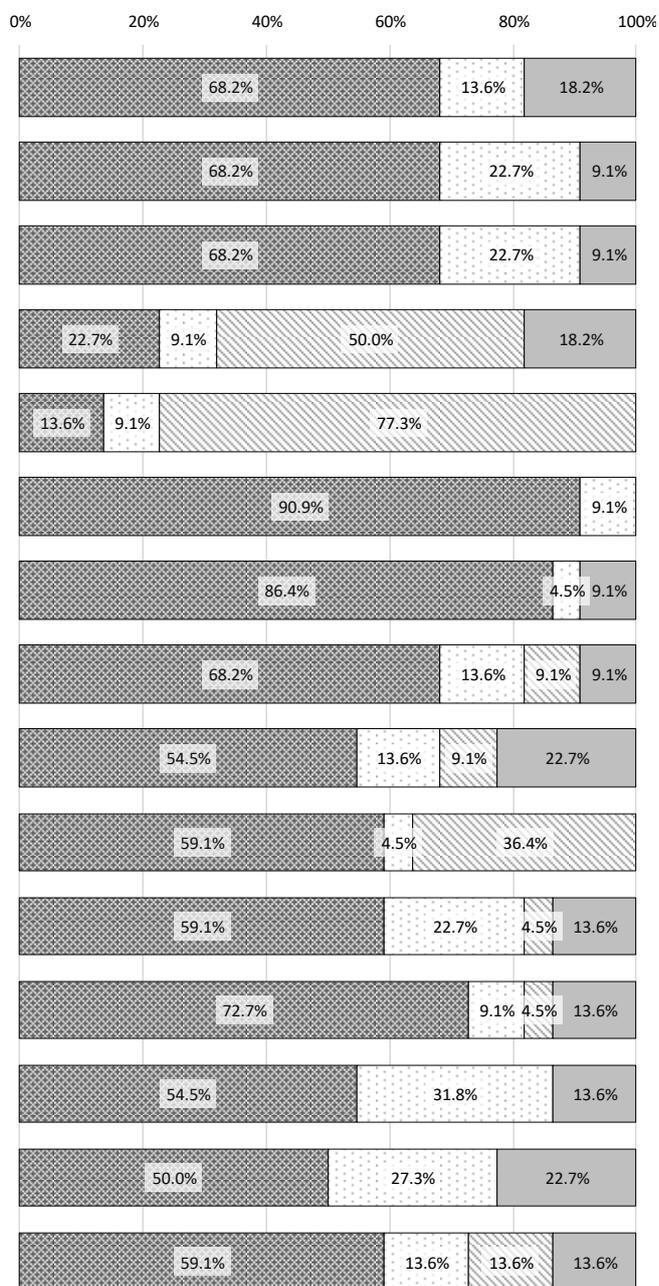
① 回答者属性 (n=22) : 城山【通室生】



② 設問：城山【通室生】

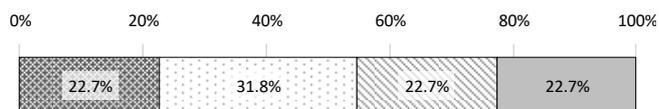
設問	回答数
① ほっとスクールには楽しく行くことができますか？	22
② ほっとスクールの中では、安心してのびのびと過ごせますか？	22
③ ほっとスクールでは自分の好きなことや興味があることをやることができますか？	22
④ 台風、地震、火事が起きたときは、どのように避難するかなどをスタッフから聞いていますか？	22
⑤ ほっとスクールで危ないと感じる場所やこわい場所がありますか？	22
⑥ ほっとスクールの約束やルールについて、スタッフはわかりやすく教えてくれましたか？	22
⑦ ほっとスクールでの活動の内容や、お知らせや案内などはわかりやすいですか？	22
⑧ スタッフに気軽に話をしたり、自分の気持ちや考えを言いやすいですか？	22
⑨ ほっとスクールで困ったことやいやだと感じるがあったとき、スタッフに相談できますか？	22
⑩ スタッフはあなたにこわい話し方やいやな話し方をしませんか？	22
⑪ あまり元気がないときや、気分がよくないとき、スタッフは声をかけてくれますか？	22
⑫ 学習でわからないことや困ったことがあるとき、スタッフは丁寧に説明したり相談にのってくれますか？	22
⑬ ほっとスクールに通うようになって、人と話すことが増えましたか？	22
⑭ ほっとスクールに通うようになって、自分自身や生活により変化がありましたか？	22
⑮ やってみたいと感じる行事やイベントがありますか？（参加していなくてもいいです）	22

■ はい □ どちらともいえない ▨ いいえ ■ わからない



設問	回答数
⑯ 行事やイベントに参加したことはありますか？	22

■ よく参加する □ 時々参加する
▨ あまり参加しない ■ 参加したことがない

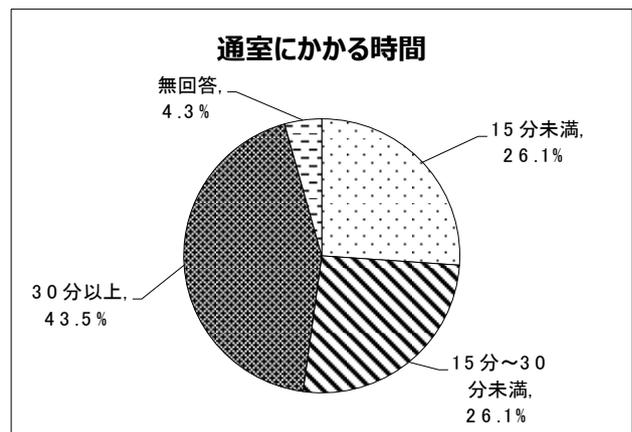
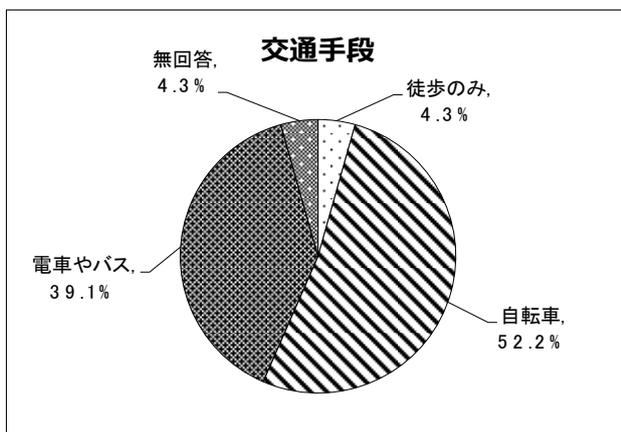
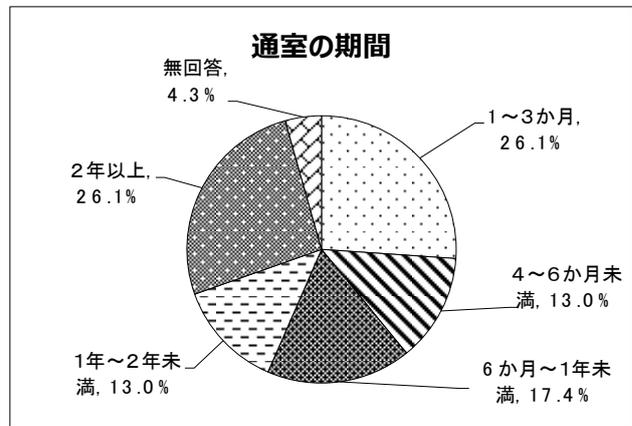
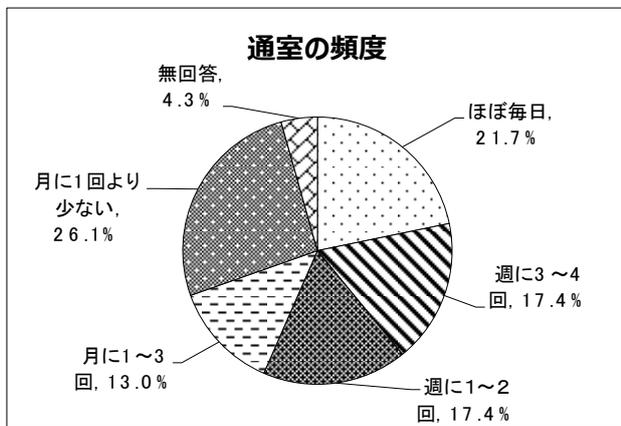
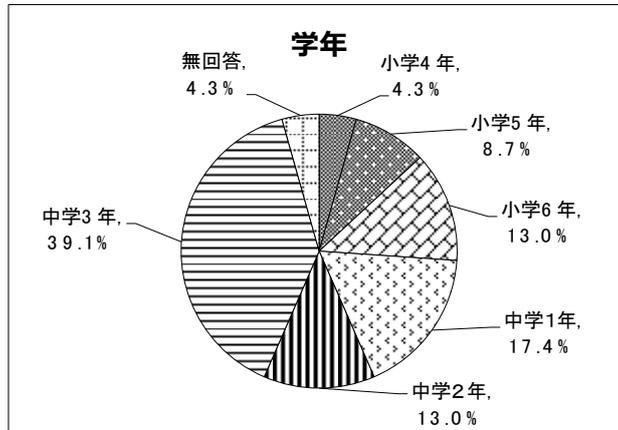


③ 自由意見：城山【通室生】

コミュニケーション	他の生徒さんも自分の事を理解してくれていて、スタッフさんたちにも気軽に話しかけることができる。
コミュニケーション	ほっとスクールの好きなところは、スタッフとも友達のように話せるところです。
コミュニケーション	スタッフや他の通室生と話すこともとても楽しいです。
コミュニケーション	スタッフさんが話しかけてくれることが一番嬉しい。ただどもっと話しかけてほしいです。
過ごし方	好きなところはマンガがいっぱいあるところ。
過ごし方	ほっとスクールに通って、今まで、やったことの無かったスポーツやボードゲーム、カードゲームをやったりして今までよりも好きなことや楽しいと思うことが増えました。
環境	自然が多くて、屋上にも行けて、今まで行ったことのないような、でも行ってみたいような場所でとても楽しいです。
環境	自然があり、のびのびとした場所。
環境	庭が好き！！新しいところでも、庭で遊びたいです！！
プラスの感想	スタッフも生徒もやさしくて、安心できる場所です。そして楽しくて笑えるすてきな場所です。
プラスの感想	好きなところはスタッフの皆様がやさしく、居心地がとてもよく、心が落ちつく所が好きなところでは。
プラスの感想	わかりません。でも、今のかんじがいいです。
プラスの感想	(好きなところは) すべて。
マイナスの感想	危ない場所・こわい場所：ハチがいるから。
マイナスの感想	強いて言うならばミツバチの駆除ですかね。まあまあ飛んでたり飛んでなかったり。
マイナスの感想	体育館がせまい。
その他	まだ慣れていないので緊張はしますが、がんばろうと思います。

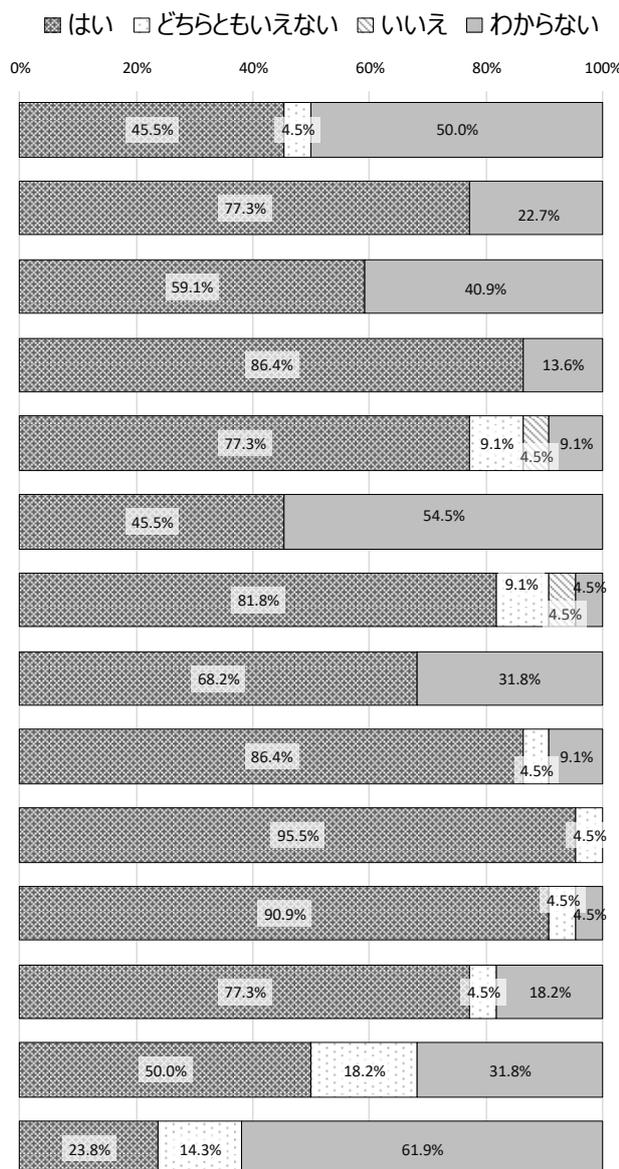
(2) 城山【保護者】

① 回答者属性 (n=23) : 城山【保護者】



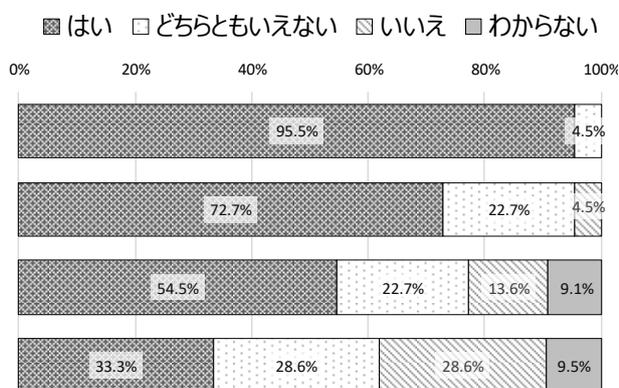
② 設問 A (施設運営) : 城山【保護者】

設問A	回答数
① 台風、地震、火災、不審者対応等の緊急時には連絡が入りますか？	22
② お子さんや家庭の個人情報やプライバシーに関し、適切な対応がなされていますか？	22
③ 学習や行事、プログラムの企画に子どもの意見が生かされていると思いますか？	22
④ お子さんの個性を理解しつつ、幅広い体験ができるよう適切な支援が行われていますか？	22
⑤ お子さんがほっとスクールで過ごす時間帯に、適切な学習の支援をしてくれていますか？	22
⑥ 子ども同士のトラブルがあったとき、職員は適切に対応してくれていますか？	22
⑦ お子さんの日常の様子について、家庭との情報交換は適切になされていますか？	22
⑧ お子さんが体調不良やけがなどの場合、家庭と連携をとりながら適切な対応がなされていますか？	22
⑨ 保護者がほっとスクールの運営について、意見を言いやすい雰囲気がありますか？	22
⑩ お子さんに関する悩みなどが相談しやすい雰囲気がありますか？	22
⑪ 要望・苦情を言いやすい雰囲気がありますか？	22
⑫ 要望・苦情に対して親身に対応してくれていますか？	22
⑬ ほっとスクールと学校の連携がなされていますか？	22
⑭ 他の相談機関を利用している場合、ほっとスクールとその機関との連携がなされていますか？	21



③ 設問 B (お子さんの様子や変化) : 城山【保護者】

設問B	回答数
⑮ ほっとスクールで過ごす際に守るべきルールや決まりをお子さんは納得していますか？	22
⑯ お子さんはほっとスクールに安心して行くことができますか？	22
⑰ ほっとスクールに通うようになって、お子さんの生活リズムに改善がみられましたか？	22
⑱ ほっとスクールに通うようになって、学校の先生や友達と、お子さんとの関係により変化がみられますか？	21



④ 自由意見：城山【保護者】

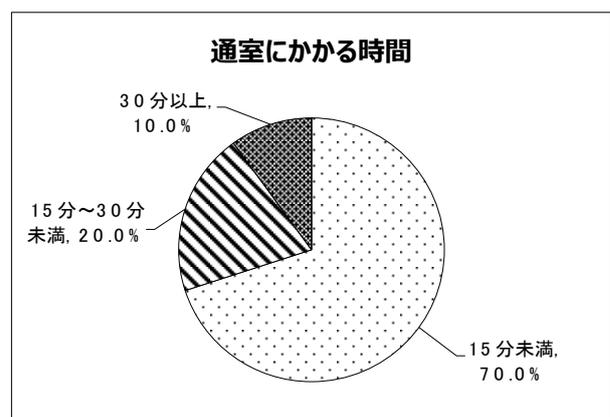
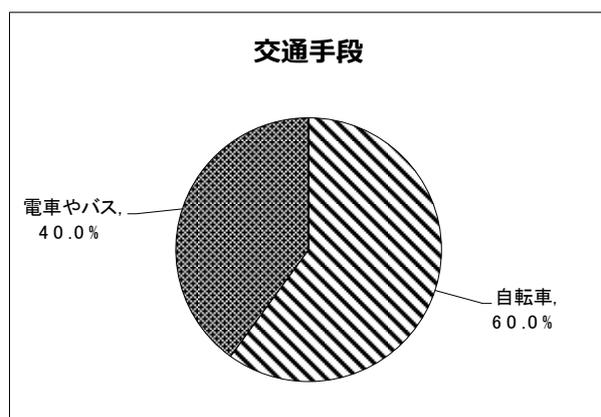
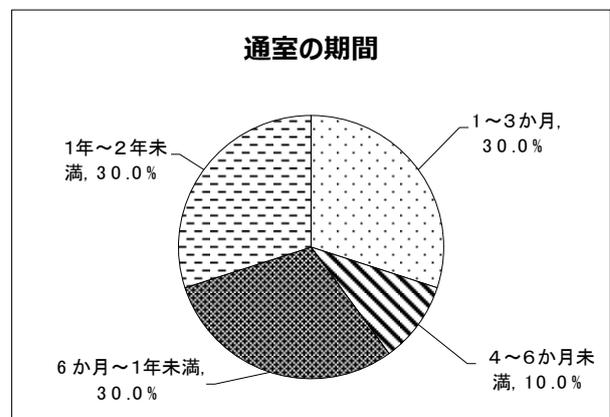
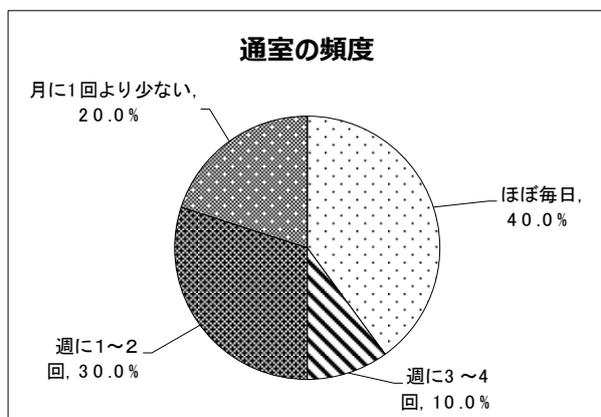
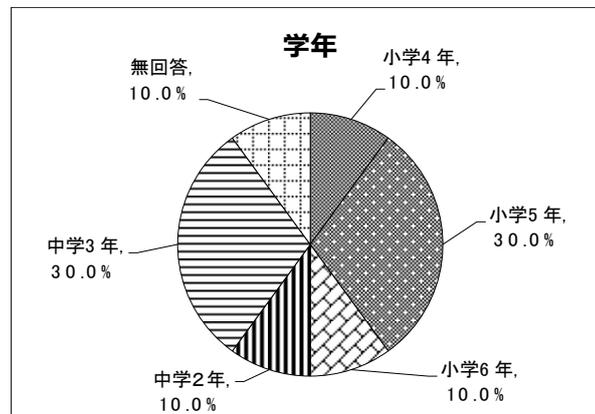
学習	午前中は学習の時間と決まっているのが子どもには苦痛な様です。午後の遊びの時間までいることができないので、友達もできずにいます。
学習	ほっとスクール希望丘のように、興味深いワークショップの様なイベント、自分のやりたい事がもっと出来るように家から物の持ち込み（iPad とか） できたらいいです。まだ小学生なのでほっとスクールで自習はむずかしい。
学習	勉強を教える体制としては不十分で、若いスタッフの中にはきちんと教えることができない方もいる。これは、教員免許を持っていないので仕方ないとは思いますが、もう少し、免許を持っているか、持っていないか、せめて小学校の算数くらいは教えられる（助言できるくらいでよいので） 方が多いとよいかなと思う。以前、子どもが全くの間違いを教えられて帰って来てビックリしたことがあります…。その方を責める気持ちは全くないが、そういう体制を作れたらよいのと思う。例えば、小・中の算数・数学の指導書を置けるようになれば、とりあえず間違いを教えることはないと思うのだが…。
プラスの感想	申し分のない程、良くして頂いております。小さな事にも気付いて頂き、とても有難いです。ほっとスクールへ通う事が出来て、子どもは幸せだと思います。今後、このような場所が増える事を期待しております。
プラスの感想	子どもにとってほっとスクールはとても居心地のよい場所のようで、ほっとスクールに行きたい、という意欲が湧いて体調を整えようと努力するようになりました。ほっとスクールに通えている、という事が自信となって、他の物事にも前向きな発言が増えたと思います。緑豊かな校舎で、優しいスタッフの方々に迎えていただき、大変感謝しております。
プラスの感想	開放的、相談しやすい雰囲気を作ってくださいるスタッフの皆様には大変お世話になっております。おかげ様で通常の学校へも足を運べる様になってきました。我が家からは少し遠いのでなかなか行けませんが、移転により更に遠くなってしまるのが残念です。でも、親身に相談にのってくださいるので、体調をみてこれからも通室できたらと思っています。これからもよろしく願います。
プラスの感想	子どもの個性に合わせて、焦らずじっくりと対応して下さっている気がします。気負いなく、そのままの自分を理解して下さるスタッフの方々に囲まれて、安心して過ごさせて頂けるようになってきました。8ヶ月経ち、ようやく、そして久しぶりに心を開くようになり、とても嬉しく思っております。感謝しております。
プラスの感想	娘がリラックスして過ごすことができるよう、さまざまな角度から、親しみやすい雰囲気です接していただき、たいへん感謝しています。とても難しいことではありますが、こちらのスクールで先生方やお友達とのコミュニケーションを通して、少しでも自信を持てるようになってもらえたらと願っています。
プラスの感想	小学校に全く通えなくなった中、ほっとスクール城山は子どもにとって本当に心から安心できる場所でした。スタッフの先生方の温かい対応に本当に感謝しております。毎日のように2年半通い続け、この春から中学校生活にチャレンジできているのも、ほっとに通わせていただいたおかげだと親子共々感じております。本当にありがとうございます。

プラスの感想	スタッフの方は温かく接して下さるので、親としても学校よりも信頼できる施設だと感じています。
プラスの感想	現在は少ないペースで通室していますが、社会と繋がれる場として有難く思っております。これからも、子どもたちが伸び伸びと本来の自分を取り戻し、充電できる場として、このような機関が続いてくれることを願っています。
プラスの感想	娘は自分の居場所として安心して楽しく通っており、スタッフのみなさまには大変感謝しています。
プラスの感想	まだ通い始めて間もないため、書ける事が少ないのですが、いつも先生方が温かく迎えてくださり、娘は安心して通えるようになりました。感謝しております。これからもよろしくお願ひいたします。
プラスの感想	室長さんはもちろんですが、若いスタッフが素晴らしい。教師ではない、人生の先輩と交流できるのはとても貴重。子どもを評価するのではなく、寄り添ってくれているのがわかる。学校の教師にも、あのような面を学んでほしいと思う。とても感謝している。
プラスの感想	室長はじめスタッフの皆さんが献身的に配慮して下さいます。
プラスの感想	学校に行けなくなり、途方に暮れていましたが、ほっとに通えるようになって安心しました。たくさんのサポートありがとうございます。高校進学にむけて、またよろしくお願ひいたします。
マイナスの感想	親に対して非常に親身になって対応してくれるスタッフと事務的で相談しにくいスタッフとの差が激しい。
その他	親も中に入れたら行きやすい子どももいるだろうと思います。ボランティアで中での仕事や子どもたちに関われたら良いのにとおもいます。
その他	不登校のため学校で学ぶ機会のない、ネットリテラシー、スマートフォンとの適正な付き合い方及び性教育については、是非何らかの指導をお願いしたいです。
その他	まだ仮の状態なのですが、事前に電話をしてから行くことになっているのですが、すごく事前電話をいやがります。行ってから電話とかにしてくださいと助かります。（回線が繋がらず、行かなかったこともあります。）

2. 尾山台 アンケート調査結果

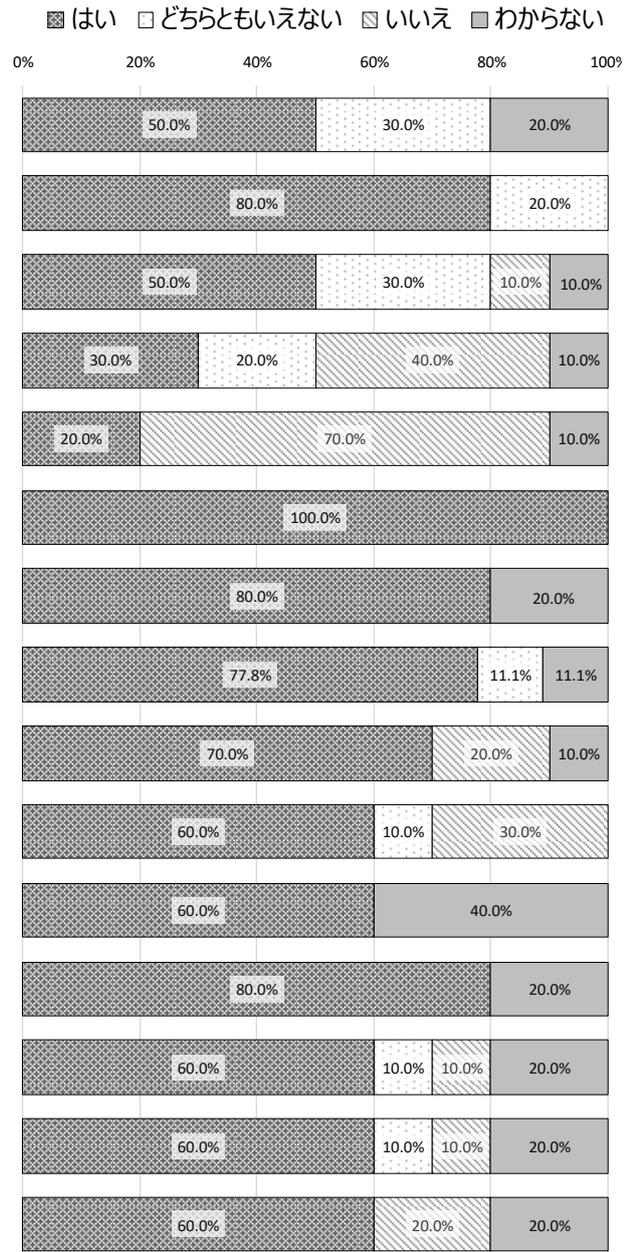
(1) 尾山台【通室生】

① 回答者属性 (n=10) : 尾山台【通室生】

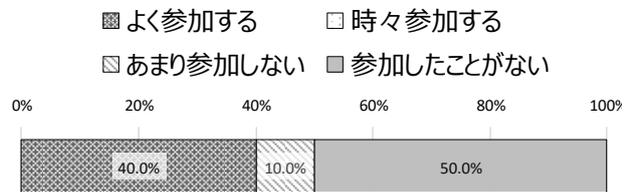


② 設問：尾山台【通室生】

設問	回答数
① ほっとスクールには楽しく行くことができますか？	10
② ほっとスクールの中では、安心してのびのびと過ごせますか？	10
③ ほっとスクールでは自分の好きなことや興味があることをやることができますか？	10
④ 台風、地震、火事が起きたときは、どのように避難するかなどをスタッフから聞いていますか？	10
⑤ ほっとスクールで危ないと感じる場所や怖い場所がありますか？	10
⑥ ほっとスクールの約束やルールについて、スタッフはわかりやすく教えてくれましたか？	10
⑦ ほっとスクールでの活動の内容や、お知らせや案内などはわかりやすいですか？	10
⑧ スタッフに気軽に話をしたり、自分の気持ちや考えを言いやすいですか？	9
⑨ ほっとスクールで困ったことやいやだと感じることがあったとき、スタッフに相談できますか？	10
⑩ スタッフはあなたにこわい話し方やいやな話し方をしませんか？	10
⑪ あまり元気がないときや、気分がよくないとき、スタッフは声をかけてくれますか？	10
⑫ 学習でわからないことや困ったことがあるとき、スタッフは丁寧に説明したり相談にのってくれますか？	10
⑬ ほっとスクールに通うようになって、人と話すことが増えましたか？	10
⑭ ほっとスクールに通うようになって、自分自身や生活により変化がありましたか？	10
⑮ やってみたいと感じる行事やイベントがありますか？（参加していなくてもいいです）	10



設問	回答数
⑯ 行事やイベントに参加したことはありますか？	10

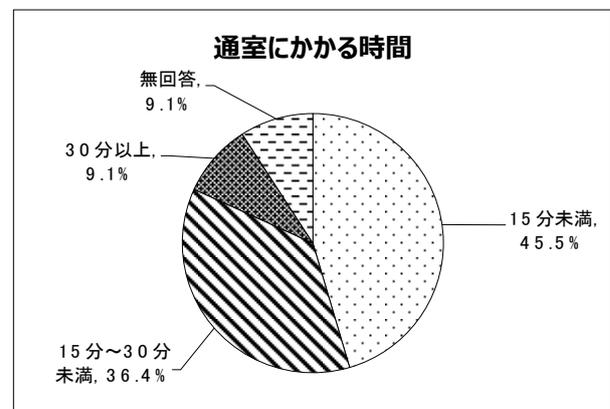
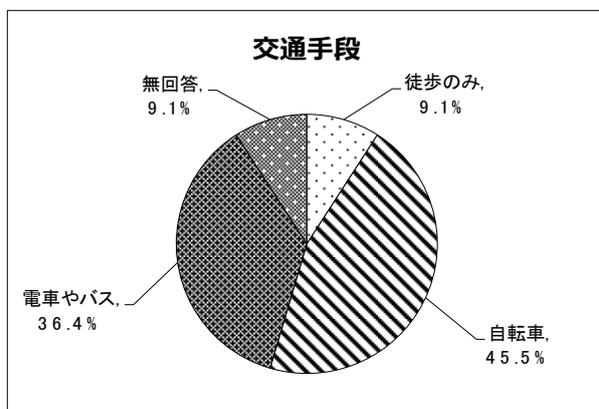
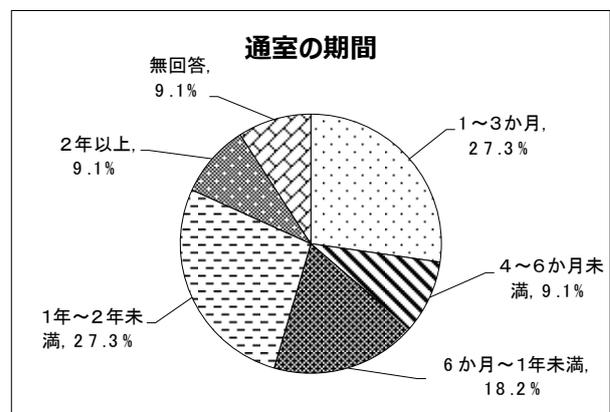
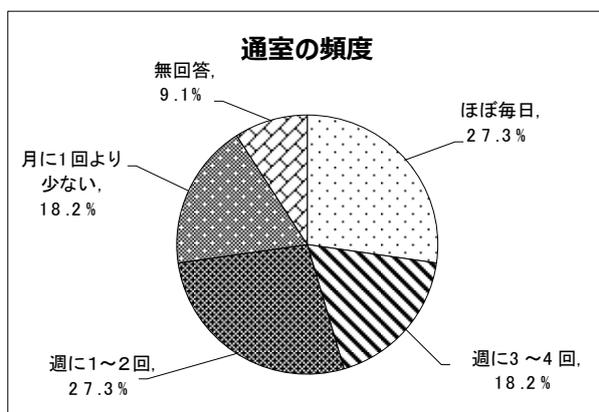
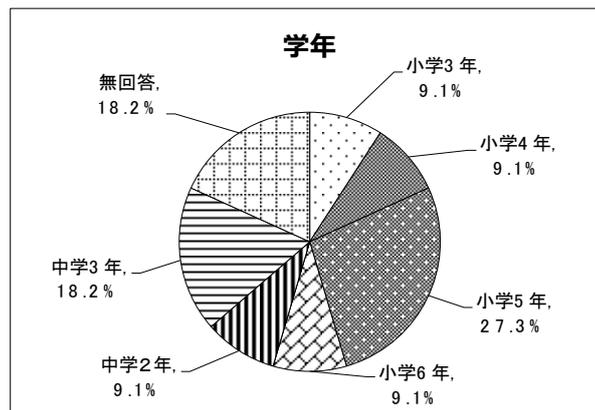


③ 自由意見：尾山台【通室生】

プラスの感想	〇〇先生が毎日きてほしい。ほっとスクール大好き。
プラスの感想	すごく楽しくてすごしやすかったです。
プラスの感想	楽しい。

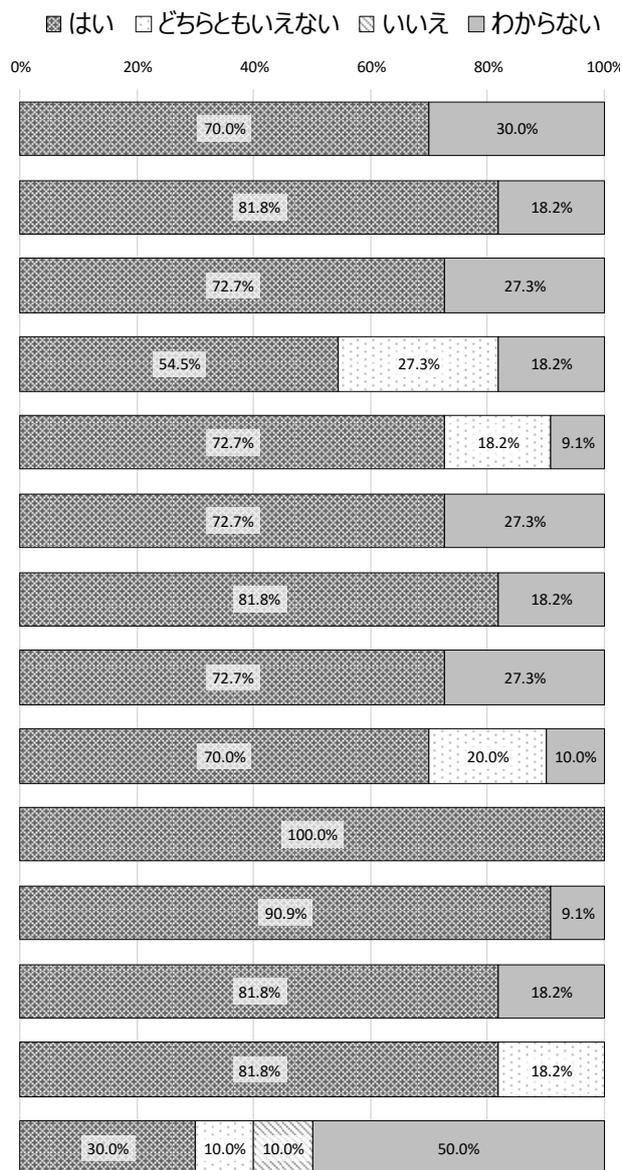
(2) 尾山台【保護者】

① 回答者属性 (n=11) : 尾山台【保護者】



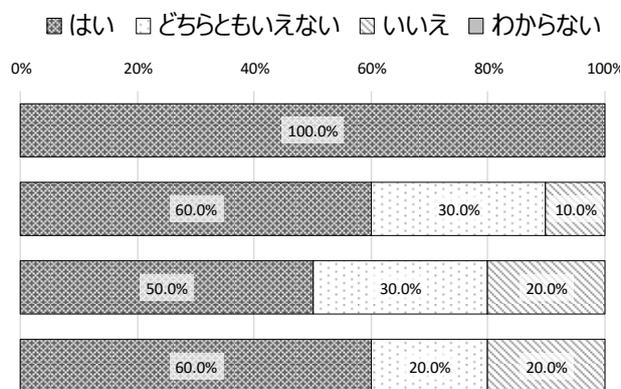
② 設問 A (施設運営) : 尾山台【保護者】

設問A	回答数
① 台風、地震、火災、不審者対応等の緊急時には連絡が入りますか？	10
② お子さんや家庭の個人情報やプライバシーに関し、適切な対応がなされていますか？	11
③ 学習や行事、プログラムの企画に子どもの意見が活かされていると思いますか？	11
④ お子さんの個性を理解しつつ、幅広い体験ができるよう適切な支援が行われていますか？	11
⑤ お子さんがほっとスクールで過ごす時間帯に、適切な学習の支援をしてくれていますか？	11
⑥ 子ども同士のトラブルがあったとき、職員は適切に対応してくれていますか？	11
⑦ お子さんの日常の様子について、家庭との情報交換は適切になされていますか？	11
⑧ お子さんが体調不良やけがなどの場合、家庭と連携をとりながら適切な対応がなされていますか？	11
⑨ 保護者がほっとスクールの運営について、意見を言いやすい雰囲気がありますか？	10
⑩ お子さんに関する悩みなどが相談しやすい雰囲気がありますか？	11
⑪ 要望・苦情を言いやすい雰囲気がありますか？	11
⑫ 要望・苦情に対して親身に対応してくれていますか？	11
⑬ ほっとスクールと学校の連携がなされていますか？	11
⑭ 他の相談機関を利用している場合、ほっとスクールとその機関との連携がなされていますか？	10



③ 設問 B (お子さんの様子や変化) : 尾山台【保護者】

設問B	回答数
⑮ ほっとスクールで過ごす際に守るべきルールや決まりをお子さんは納得していますか？	10
⑯ お子さんはほっとスクールに安心して行くことができますか？	10
⑰ ほっとスクールに通うようになって、お子さんの生活リズムに改善がみられましたか？	10
⑱ ほっとスクールに通うようになって、学校の先生や友達と、お子さんとの関係により変化がみられますか？	10



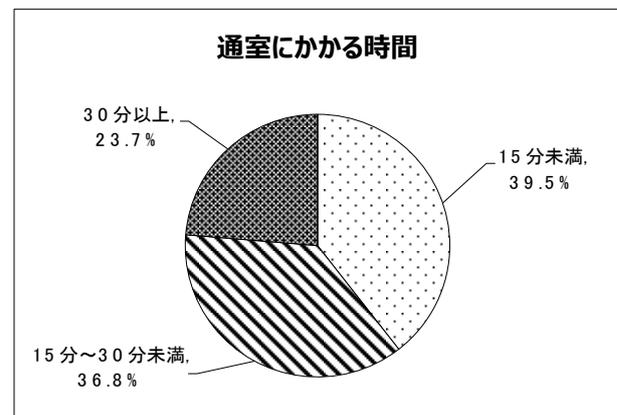
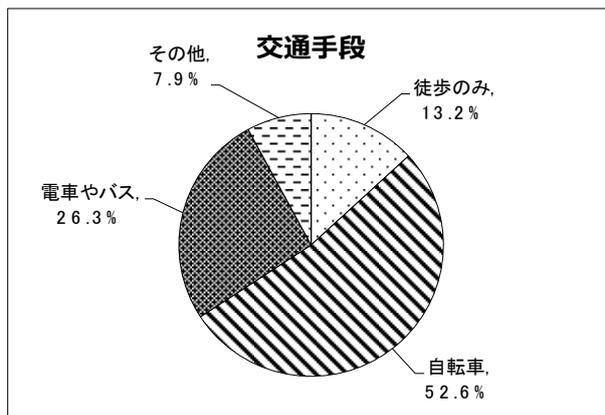
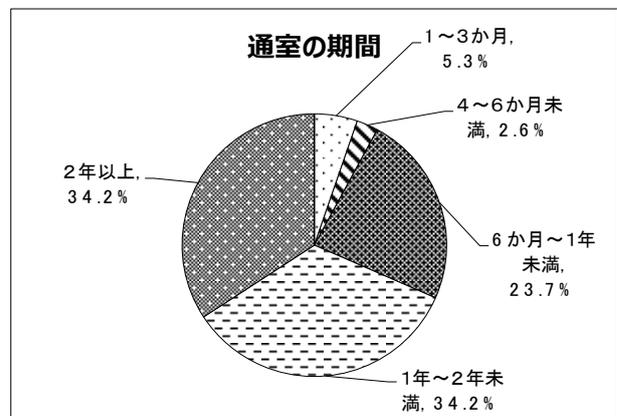
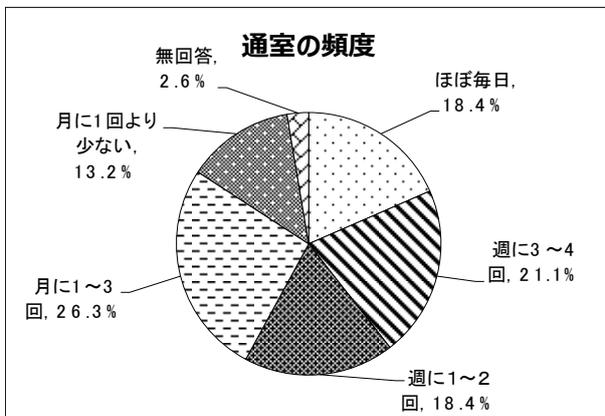
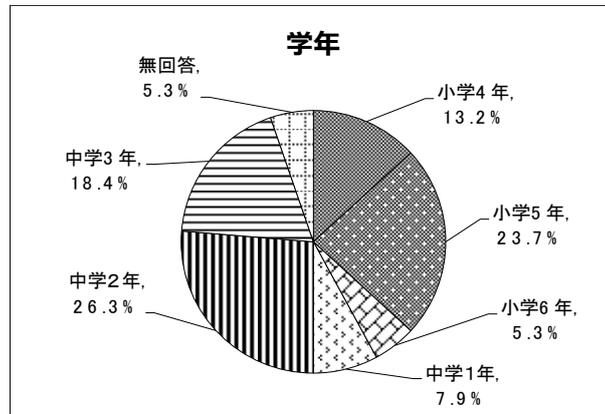
④ 自由意見：尾山台【保護者】

学習	普通の公立校と比べると、体験や経験を積む機会が少ないので、ほっとだからできるその子の個性を生かした様な幅広い体験ができたり、その子の特徴、特技を伸ばせるような時間を持てることを希望します。
施設の増設	ほっとスクールが通いやすいところにあり、助かったという心境です。数が少ないように思います。本人が通室できている回数が少ないので何とも言えません。
施設の増設	尾山台も城山も徒歩で行けないので、本人は遠いからめんどくさいと言っています。もう少し数をふやしてほしいです。
プラスの感想	スタッフの方々が、皆親切で温かく、学校に通えない息子も毎日とても楽しく通っており、とても感謝しています。
プラスの感想	まだ通い始めたばかりですが、本人も少しずつ安心できる場所なんだと感じています。いつも優しく明るく対応してくださりありがとうございます。
プラスの感想	ほっとスクールに通い始めてから、引きこもりが改善され活動的になり友人との関係も楽しいと感じるようになってきたようです。感謝しております。これからも良い居場所であるように、運営をよろしくお願いします。
プラスの感想	いつでも行きたくなくなった時に来ていいよと確保してくださっているので行けてなくても安心してしています。
プラスの感想	日頃から安心して子どもを行かせる事のできる場所で、我が家には本当に必要な場所です。何かあってもご連絡下さり、丁寧な対応に感謝しかありません。子どもも、一人で過ごせるブースがある安心感があり、何とか行く事ができています。
プラスの感想	日頃は一人一人の子供を尊重し、ケアをしつつ、楽しいごこちの良い「いばしょ」を作ってくださいありがとうございます。ほっとスクールから子どもの笑顔をふたたびもらいました。「今」と言う事もあり、はじめて外で遊ぶ事が出来ない事は残念ですが、一日もはやく日常にもどり、子どもたちの楽しい笑顔をもっともっとみたいです。
プラスの感想	ほっとスクールに通う様になって、笑顔が増えた様に感じます。親子の会話も少し増えたように思います。
プラスの感想	昨年度3ヶ月ほど毎日お世話になりました。子どもの気持ちに寄り添い、温かい雰囲気に対応して頂き感謝しております。新年度、所属校に行けるようになったため全く行っていませんが、先生方やお友達には会いたいそうです。
その他	初日とても楽しく過ごし、次も行くと言いながら2度目以降通えてないので回答がこのようになりました。ほっとスクール側に問題があるわけではありません。
その他	責任者の方が毎年交代となるため、通室する上でのルールの細かい部分がある時々で若干変わってしまうことがあった。子供が安心して通えていることは一番大切で有難いが、進級に当たってもう少し具体的に話し合いや指導があるとよいと思う。年度によってその辺りの指導には差があるように思う。

3. 希望丘 アンケート調査結果

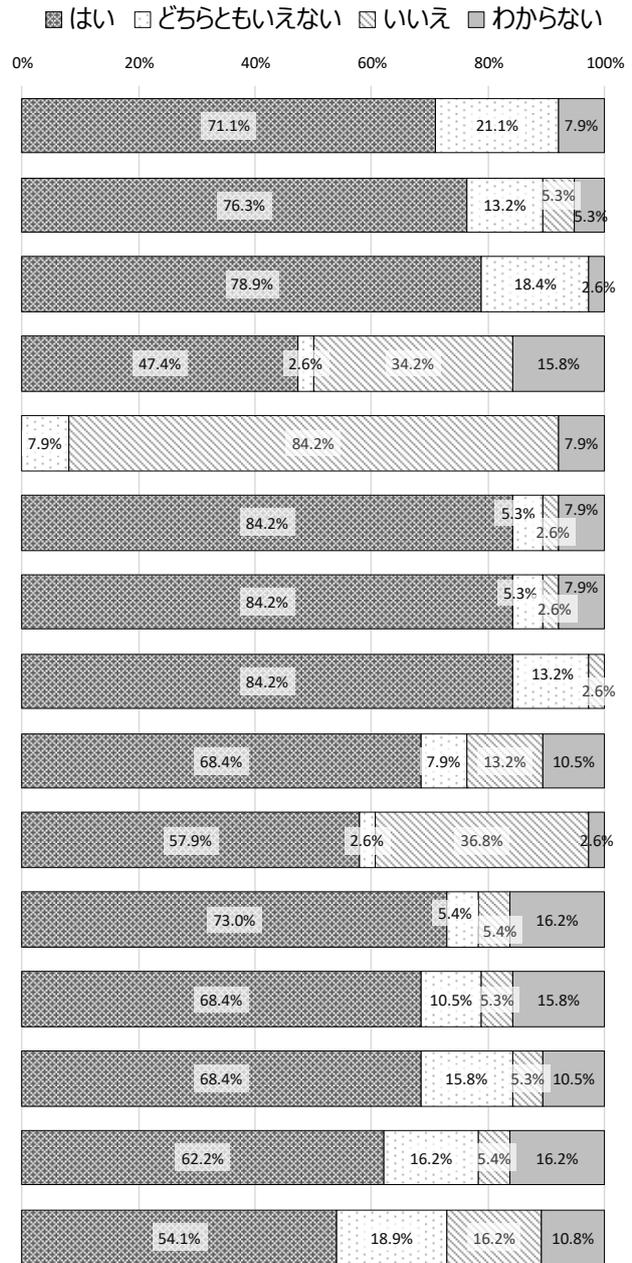
(1) 希望丘【通室生】

① 回答者属性 (n=38) : 希望丘【通室生】

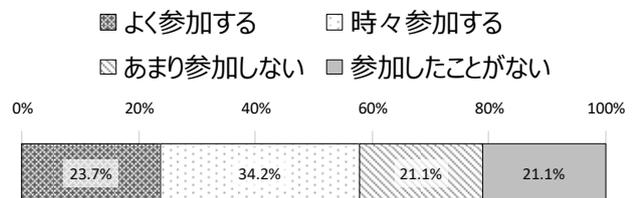


② 設問：希望丘【通室生】

設問	回答数
① ほっとスクールには楽しく行くことができますか？	38
② ほっとスクールの中では、安心してのびのびと過ごせますか？	38
③ ほっとスクールでは自分の好きなことや興味があることをやることができますか？	38
④ 台風、地震、火事が起きたときは、どのように避難するかなどをスタッフから聞いていますか？	38
⑤ ほっとスクールで危ないと感じる場所やこわい場所がありますか？	38
⑥ ほっとスクールの約束やルールについて、スタッフはわかりやすく教えてくれましたか？	38
⑦ ほっとスクールでの活動の内容や、お知らせや案内などはわかりやすいですか？	38
⑧ スタッフに気軽に話をしたり、自分の気持ちや考えを言いやすいですか？	38
⑨ ほっとスクールで困ったことやいやだと感じることがあったとき、スタッフに相談できますか？	38
⑩ スタッフはあなたにこわい話し方やいやな話し方をしませんか？	38
⑪ あまり元気がないときや、気分がよくないとき、スタッフは声をかけてくれますか？	37
⑫ 学習でわからないことや困ったことがあるとき、スタッフは丁寧に説明したり相談にのってくれますか？	38
⑬ ほっとスクールに通うようになって、人と話すことが増えましたか？	38
⑭ ほっとスクールに通うようになって、自分自身や生活により変化がありましたか？	37
⑮ やってみたいと感じる行事やイベントがありますか？ (参加していなくてもいいです)	37



設問	回答数
⑯ 行事やイベントに参加したことはありますか？	38

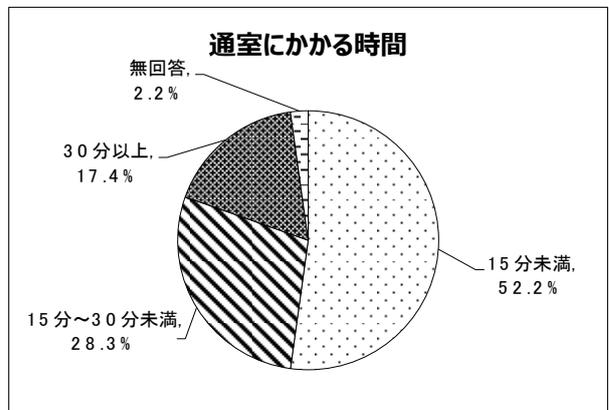
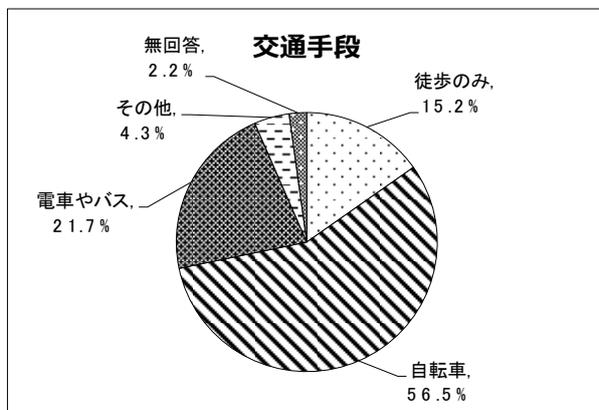
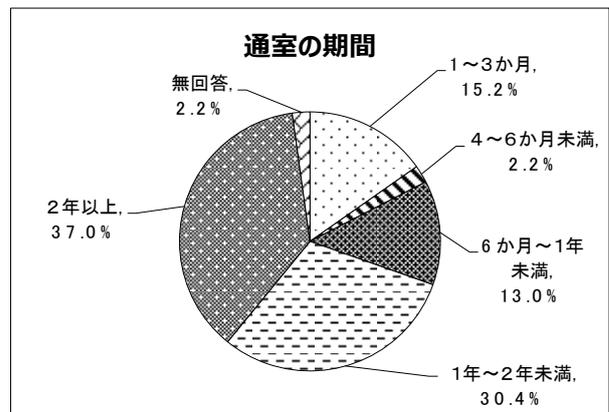
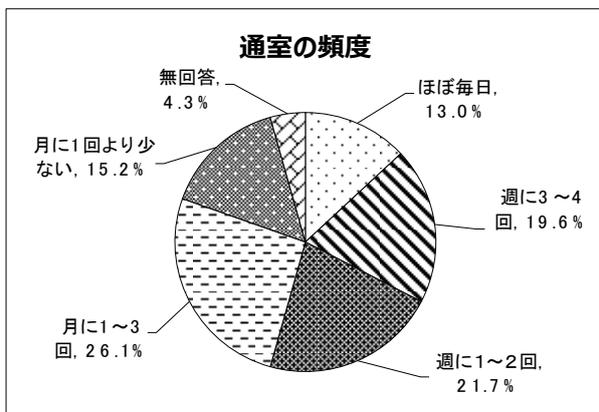
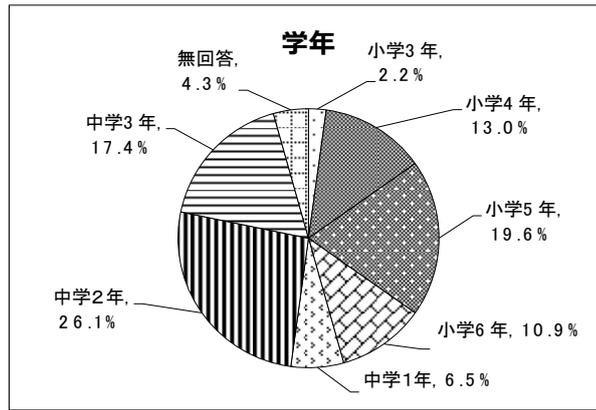


③ 自由意見：希望丘【通室生】

コミュニケーション	好きなところは、しゃべりたい人の意見をちゃんと聞いて、意見で出た行事をやったり、できなくても、できない理由をみんなが納得するまで、きちんと説明しているので「すごいな～」と思います。
コミュニケーション	ほっとに行っていて楽しいところは、何か一緒にしてほしい時に言えばできる時にやってくれて、一人にならなくてさびしくないから楽しい。
コミュニケーション	今年に入ってから、友達が増えたことがうれしい。
コミュニケーション	スタッフさんが気軽に声をかけてくれるので、自分から話しかけに行くのが苦手な私にとってはすごく居心地がいいです。
コミュニケーション	好きなところはスタッフが話しかけてくれるところ。
コミュニケーション	もうちょっと自分の意見をいえない人にチャンスをあたえてほしい！
過ごし方	まんがをずうっと読んでいいのはいい。
過ごし方	スタッフさんたちがやさしくて、いつも好きなこと（読書・工作・塗り絵）をできるからとても楽しくすごせます。ありがとうございます。
過ごし方	ほっとスクールでは、自分のやりたいことができるし、逆にやりたくないことはしなくてもいいので、自由に過ごせて安心できます。
活動の希望	こういう風にしてほしいというところは、一人一人の誕生日を祝ってほしい。
活動の希望	ダンスのイベントをやりたい。塗り絵は楽しい。
活動の希望	イラスト講座増やしてほしいです。
活動の希望	スライム作り、染め物、押し花をやりたいです。
活動の希望	もうちょっとみんな考えて、みんなでおもしろくなるような行事をやりたい。
プラスの感想	ほっとスクールがあってよかった。
プラスの感想	楽しいし、落ち着く場所。
プラスの感想	毎回楽しく過ごしています。
マイナスの感想	ムカつく人がたくさんいる。思っていることをそのままいうと怒られそうでいえず、ストレスがたまっている。
その他	もうちょっと午前と午後の終わる時間をのばしてほしい。

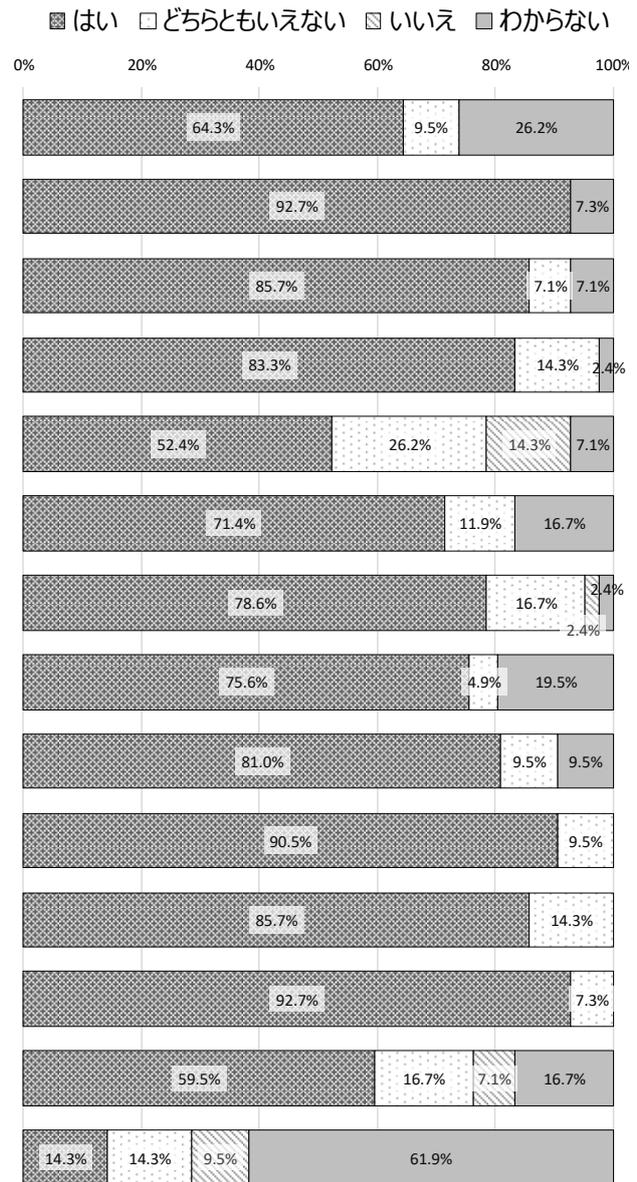
(2) 希望丘【保護者】

① 回答者属性 (n=46) : 希望丘【保護者】



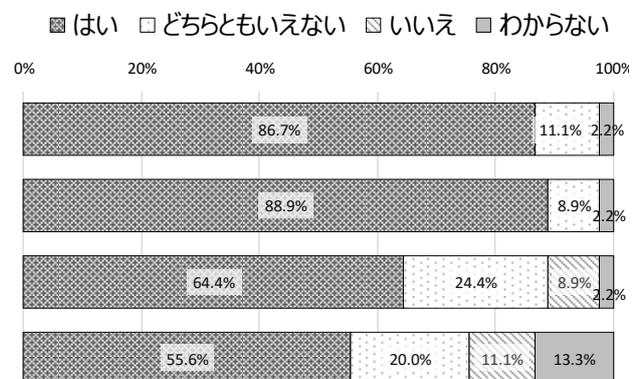
② 設問 A (施設運営) : 希望丘【保護者】

設問A	回答数
① 台風、地震、火災、不審者対応等の緊急時には連絡が入りますか？	42
② お子さんや家庭の個人情報やプライバシーに関し、適切な対応がなされていますか？	41
③ 学習や行事、プログラムの企画に子どもの意見が生かされていると思いますか？	42
④ お子さんの個性を理解しつつ、幅広い体験ができるよう適切な支援が行われていますか？	42
⑤ お子さんがほっとスクールで過ごす時間帯に、適切な学習の支援をしてくれていますか？	42
⑥ 子ども同士のトラブルがあったとき、職員は適切に対応してくれていますか？	42
⑦ お子さんの日常の様子について、家庭との情報交換は適切になされていますか？	42
⑧ お子さんが体調不良やけがなどの場合、家庭と連携をとりながら適切な対応がなされていますか？	41
⑨ 保護者がほっとスクールの運営について、意見を言いやすい雰囲気がありますか？	42
⑩ お子さんに関する悩みなどが相談しやすい雰囲気がありますか？	42
⑪ 要望・苦情を言いやすい雰囲気がありますか？	42
⑫ 要望・苦情に対して親身に対応してくれていますか？	41
⑬ ほっとスクールと学校の連携がなされていますか？	42
⑭ 他の相談機関を利用している場合、ほっとスクールとその機関との連携がなされていますか？	42



③ 設問 B (お子さんの様子や変化) : 希望丘【保護者】

設問B	回答数
⑮ ほっとスクールで過ごす際に守るべきルールや決まりをお子さんは納得していますか？	45
⑯ お子さんはほっとスクールに安心して行くことができますか？	45
⑰ ほっとスクールに通うようになって、お子さんの生活リズムに改善がみられましたか？	45
⑱ ほっとスクールに通うようになって、学校の先生や友達と、お子さんとの関係により変化がみられますか？	45



④ 自由意見：希望丘【保護者】

親へのサポート	親ともすると、不登校の子どもに自分の不安をぶつけてしまいがちですが、月一回の親の会や保護者会で親の不安を聞いてもらい、子どもにぶつける前に落ちつけるので、本当にありがたいです。
親へのサポート	スタッフの方の理解や接し方がとても参考になりますし、初めの頃は、何よりも親の心の支えとなりました。不登校保護者の集いなどで、他の親子さんから話が聞けたり、逆に我が家の体験を通して分かったことなどをお話させてもらったり、ほんとスクールが当人達（親）をつないでくれています。そして、合間に適切なアドバイスをスタッフの方がしてくれて、本当によいスクールです。
親へのサポート	学校では、子どもの心のことを伝えてもよくわかってもらえないので、ほんとスクールのスタッフの方の「今は〇〇の状態かもしれない」の言葉で、気づくことがたくさんあります。
親へのサポート	「親の会」や「保護者会」を開催してくれるおかげで、親もほっとして家に帰ることができ、親子にとって安心できる場所を提供してくれ、とても感謝しています。
親へのサポート	ほんとスクールのスタッフの皆さんは、子どもの成長を親と一緒に喜んだり考えたりしてくれます。とても心強いパートナーだと思っています。
親へのサポート	児童心理や子供の発達に詳しい先生が多いので、子どもも安心できているし、親の相談にも乗ってもらえてありがたいです。進路や学習相談にも乗ってもらえて助かります。職員の異動が少なく、子どもが安心して過ごせます。
親へのサポート	何か困ったことや悩みなど、小さなことでも息子に関することはなるべく相談しています。ほんとスクールは、子どもも親も楽しい空間で、ほんとスクール希望丘に息子が通えて本当に良かったと心から思います。
学習	勉強面では、家庭学習をしていて、学校の先生にお世話になっています。
学習	子どもへの学習支援の時間をもう少し増やしてほしい。
学習	学習の時間が皆無なのでそちらが心配です。子どもは自宅で一人では勉強にやる気がないので、勉強の時間があれば、仲間たちと一緒にやる気も UP すると思います。
学習	学校の授業に代わる学習の時間をもう少し取り入れて頂けるとありがたいと思います。
自主性・主体性	様々な活躍の機会を与えていただき、ほんとスクール以外の場所で一步を踏み出す力になっていると感じています。
自主性・主体性	ルールづくりから子どもと一緒に考えてくれる。自主性を重んじてくれ、子どもも「自分の意見が学校とは違って大切に考えてもらえる」と言っている。希望丘は他のフリースクールとは違うと思いますが、その独自性をこのまま維持してほしい。
自主性・主体性	様々な体験もさせて頂いており、感謝しています。子どもがほんとスクールに通うようになってから、「学習する」ということはなんなのか、常に考えてしまいます。
学校との連携	学校は不登校児に対して、勉強を全く教えてくれないので、学習面がとても心配です。学校の担任との連携を強くしてほしいと思います。
学校との連携	小学校の先生の中には批判的な意見を持っている方もいて、不登校はまだまだ理解が得られる状態ではないんだな、と残念に思っています。

学校との連携	学校との連携という点においては、学校側にもっとほっとスクールへ興味を持ってほしいと感じます。特に中学校ではほっとスクールがどのような場所で、どう過ごしているのか関心がない先生が多いように感じます。
学校との連携	これはほっとスクールが、ということではなく、システム上の問題だと思いますが、すまいるルームとの併用ができるようになったり、学校との合同面談等々、別々の組織として動いていただくのではなく、一緒に支援の方向を考えてもらえるようになると、親としてもとても心強いと思います。
施設の増設	昨年9月に希望し、見学できたのは12月末と、待つ時間があつたのは改善していただきたい点です。同じように困っている子どもたちが利用できるといいと思います。
施設の増設	公立の適応指導教室という制度の中で運営しているため、教室の開所時間や受け入れ年齢には制約がある。通いたい子どもたちが増えているため、希望丘だけでは対応が難しいのではないかと。
プラスの感想	何より、本人が安心して過ごせる居場所をご提供いただいていることに感謝しております。
プラスの感想	毎日、学校へ行くのが大変な息子にとって、「今日はほっとスクールへ行って、明日学校へ行く」と、学校以外の居場所があるのはとてもありがたいです。
プラスの感想	うちの子はほっとスクールに行くと言っています。スタッフの皆さんが全員優しく、ほっとスクールへ通う子どもたちに声をかけサポートしてくれています。
プラスの感想	スタッフの方がいつも子どもの味方でいてくれてとてもありがたいです。
プラスの感想	子どもにとって本当にほっとできる場所です。もちろん、親の私も同じです。
プラスの感想	いろいろな特性を持った子どもたちがいるため、トラブルとなることもありますが、少人数のためお互いを知り、毎日のように顔を合わせるため、対人スキルがあがったと思います。
プラスの感想	ほっとスクールのスタッフの方々は、とても話しやすく相談しやすいです。子どもはかなりの人見知りで心を許すことができないところがありましたが、希望丘のほっとスクールに移って初めて信頼関係が築けるようになったと思います。
プラスの感想	友達も増え、家を行き来できる人もできました。勉強の悩みも性の悩みも相談できる友達も職員さんもいるようです。この時期、親に話しにくいことも話せる場所、人、友があり、本当にありがたいです。
プラスの感想	1月から体験生として、ほっとスクールに毎日行くことで少しずつ明るく元気になり、新年度から休みながらクラスへも行くことができています。
プラスの感想	ほっとスクールの行く頻度、内容、対応、学習など、親の気持ちと本人の状況と、さらにどこまでやらせたり、させたり、本人の要求や訴えを入れるか、日々相談したり考えたりしていますがこれで良いかと思っています。
プラスの感想	ほっとスクール希望丘に通うようになってから、子どもに笑顔が戻りました。合う子、合わない子はいると思いますが、うちの子にはとても合う施設だと思っています。
プラスの感想	プレッシャーなど敏感に感じる子どもですが、気負わず通えていることに感謝しています。

プラスの感想	いつも温かい対応をして下さり感謝しております。ほっとスクールは不登校児童の最後の希望です。親にとってもかけがえのない場所です。どうぞいつまでも継続して頂きます様お願い致します。
プラスの感想	ほっとスクールに通い始めてから、精神的に安定し、学校にも通えるようになりました。
プラスの感想	ほっとスクールに行くようになり、行く回数は少ないですが行った時の出来事を話してくれるようになりました。ダメ・禁止、不公平が多い学校と異なり、子どもの話に耳を傾けてくれる、親ではない大人（先生）がいることが安心できるのではと思っています。
プラスの感想	子どもが安心して通える雰囲気がとても良いと思います。
プラスの感想	親身になって言葉をかけて下さるので安心します。居心地の良い場所となり、楽しく安心して過ごしながら意欲を取り戻しています。心が満たされ、落ち着いてから、やっと勉強する余裕ができるのだらうと思います。
プラスの感想	ほっとスクールに通っている児童は安心して過ごし、自分の居場所となっているように感じます。
プラスの感想	新型コロナウイルスが蔓延する中ではありますが、子どもの心に寄り添った対応をしてくれています。
プラスの感想	息子はいつも楽しくほっとスクールに通っております。スタッフの方々はとても親切で優しくして下さいます。気配りもしっかりとして下さいます。
プラスの感想	コロナ禍で思うように開室できない中で、ほっとスクールの職員の方々には子どもたちが過ごしやすいように工夫して頂き、感謝しています。
新型コロナウイルス感染症対策の影響	今はコロナ対策で半日になってしまったり、行事がなくなってしまったので、子どもはつまらないと言っています。小学校は給食や遠足がOKなのに、ほっとスクールはNGなのは残念です。人数の関係で仕方ないのかもしれませんが、公立の小中学校に比べて、コロナ対策が厳しいように感じます。
新型コロナウイルス感染症対策の影響	いられる時間が短いのは残念だなと思うので、早くコロナが収まってほしいです。
その他	子どもから普段の状況があまり聞き出せないなので、せめて月一回だけでもほっとスクールでの過ごしている状況を知らせていただけると安心です。こちらから毎回、電話で聞くのも悪いと思い、一言でも良いので。また、本人からと、外から見た様子だと、意見や状況に違いがあるかと思いましたので。

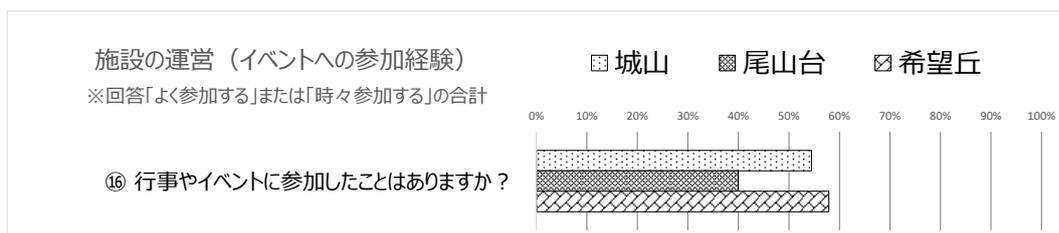
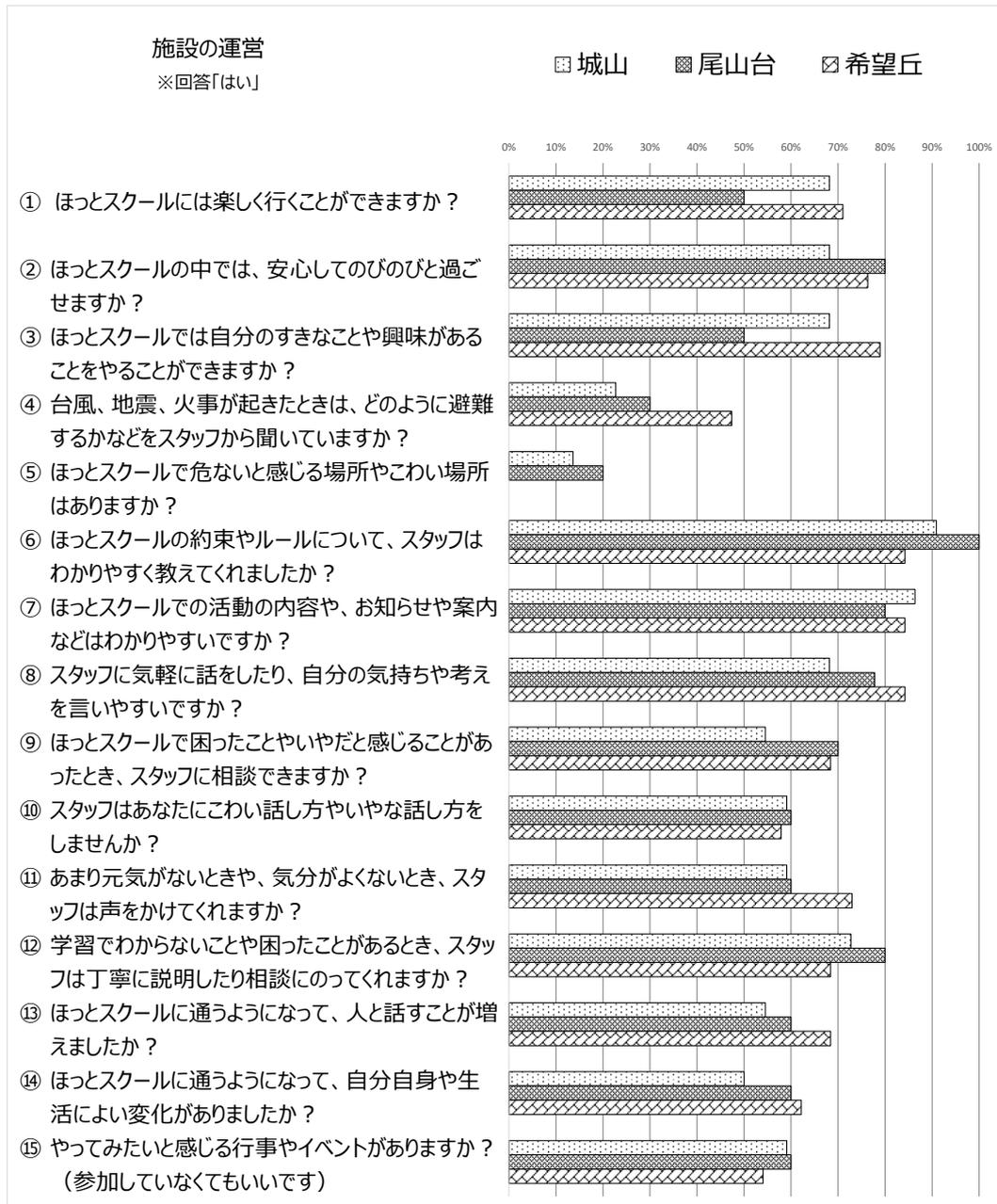
4. アンケート集計結果の総括

設問は、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」の4つの選択肢となっており、下記は「はい」の回答率を示したグラフである。集計結果について、特徴的な点を下記に記す。

※尾山台はサンプル数が少なく、十分に比較ができる回答率ではないという前提がある。

(1) 通室生

【「はい」の回答者のグラフ】



【ほっとスクールでの過ごし方】

① 楽しく行けている

- ・「はい」は、希望丘 71.1%、城山 68.2%、尾山台 50.0%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

② 安心して過ごせている

- ・「はい」は、尾山台 80.0%、希望丘 76.3%、城山 68.2%の順。
- ・尾山台、城山では「いいえ」は一人もいない。希望丘では 5.3%。

③ 自分の好きな活動ができている

- ・「はい」は、希望丘 78.9%、城山 68.2%、尾山台 50.0%の順。
- ・城山、希望丘では「いいえ」は一人もいない。尾山台では 10.0%。

いずれの施設でも「いいえ」はほとんど見られず、安心してのびのび過ごしている傾向にあるといえる。自由意見でも、不安等を訴える意見はなく、「楽しい」「安心」「落ち着く」等というプラスの回答がいずれの施設でも見られた。

【危機管理】

④ 緊急時の避難方法を理解している

- ・「はい」は、希望丘 47.4%、尾山台 30.0%、城山 22.7%の順。
- ・「いいえ」は、城山 50.0%、尾山台 40.0%、希望丘 34.2%の順。

全体的に、理解しているが 3～5 割と低くなっている点は、令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症対策により避難訓練が十分に実施できていない状況が影響していると考えられる。そうした中でも比較的、希望丘の理解度が高い要因は、このような状況においても通室生を交えた避難訓練を定期的に行っている影響と推測される。定期的な訓練等の必要性を改めて認識しておきたい。

⑤ 危ないまたはこわい場所がある

- ・「はい」は、希望丘 0%、城山 13.6%、尾山台 20.0%の順。
- ・「いいえ」は、希望丘 84.2%、城山 77.3%、尾山台 70.0%の順。

いずれの施設でも「はい」はほとんど見られず、安心して過ごしている傾向にあるといえる。城山で「はい」と感じた意見は、自由回答から「蜂の巣」があり蜂が施設内に飛来していたことが影響していると推測される（既に駆除されている）。

【活動に関する説明】

⑥ ほっとスクールの決まりごとの説明はわかりやすい

- ・「はい」は、尾山台 100.0%、城山 90.9%、希望丘 84.2%の順。
- ・尾山台、城山では「いいえ」は一人もいない。希望丘では 2.6%。

⑦ ほっとスクールの活動内容のお知らせは尾山台わかりやすい

- ・「はい」は、城山 86.4%、希望丘 84.2%、尾山台 80.0%の順。
- ・尾山台、城山では「いいえ」は一人もいない。希望丘では 2.6%。

いずれの施設でも「いいえ」はほとんど見られず、活動に関する説明をスタッフから分かりやすく受けているといえる。

【スタッフの対応】

⑧ 気軽に話をしたり気持ちを言いやすい

- ・「はい」は、希望丘 84.2%、尾山台 77.8%、城山 68.2%の順。
- ・尾山台では「いいえ」は一人もいない。城山では 9.1%、希望丘では 2.6%。

⑨ ほっとスクールでいやなことがあった時にスタッフに相談できる

- ・「はい」は、尾山台 70.0%、希望丘 68.4%、城山 54.5%の順。
- ・「いいえ」は、城山 9.1%、尾山台 20.0%、希望丘 13.2%の順。

⑩ スタッフのこわい言動がある

- ・「はい」は、尾山台 60.0%、城山 59.1%、希望丘 57.9%の順。
- ・「いいえ」は、尾山台 30.0%、城山 36.4%、希望丘 36.8%の順。

⑪ 気分が落ち込んでいるときにスタッフは声をかけてくれる

- ・「はい」は、希望丘 73.0%、尾山台 60.0%、城山 59.1%の順。
- ・「いいえ」は尾山台では一人もいない。城山では 4.5%、希望丘では 5.4%。

⑫ 学習の支援をしてくれる

- ・「はい」は、尾山台 80.0%、城山 72.7%、希望丘 68.4%の順。
- ・「いいえ」は尾山台では一人もいない。城山では 4.5%、希望丘では 5.3%。

いずれの施設でも、スタッフへの話しかけや相談について、「いいえ」はほとんど見られず、自由意見からもスタッフに親しみを持っている様子が見られる。スタッフのこわい言動があるかの設問に対して一定の「はい」がいることについては、自由回答でスタッフに問題があるとする意見は全くなかった。このことから、日常の指導上において適正な範囲と推測される。

スタッフからの声掛けや学習を含めた支援については、いずれの施設においても「いいえ」はほとんど見られず、十分に対応している様子が見られる。

【ほっとスクールに通ってからの変化】

⑬ 人と話すことが増えた

- ・「はい」は、希望丘 68.4%、尾山台 60.0%、城山 54.5%の順。
- ・「いいえ」は城山では一人もいない。尾山台では 10.0%、希望丘では 5.3%。

⑭ ほっとスクールに通うことで自分自身や生活により変化があった

- ・「はい」は、希望丘 62.2%、尾山台 60.0%、城山 50.0%の順。
- ・「いいえ」は城山では一人もいない。尾山台では 10.0%、希望丘では 5.4%。

ほっとスクールに通うことによる自身の変化については、いずれの施設でも「いいえ」はほとんど見られず、5~7割の通室生に良い方向への変化を感じている結果となっている。

⑮ 参加してみたいと感じる行事やイベントがある

- ・「はい」は、尾山台 60.0%、城山 59.1%、希望丘 54.1%の順。
- ・「いいえ」は、尾山台 20.0%、希望丘 16.2%、城山 13.6%の順。

⑩ 行事やイベントへの参加

・「よく参加する」「時々参加する」は、希望丘 57.9%、城山 54.5%、尾山台 40.0%の順。

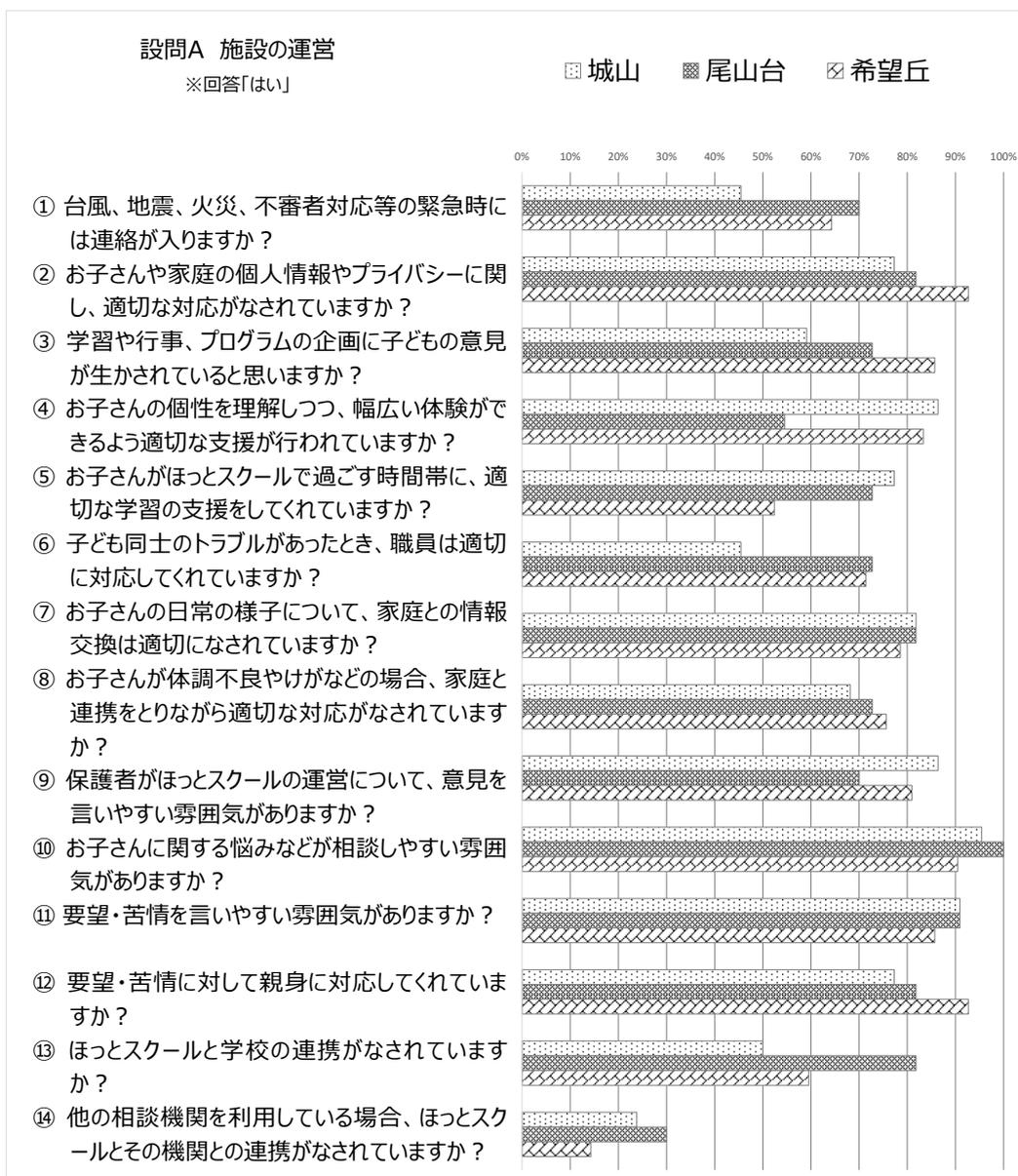
行事やイベントへの関心は、いずれの施設も 4～6 割程度となった。イベントや行事は比較的、希望丘で多く開催されているが、参加した経験のある通室生は、城山とあまり差が出ない結果となった。しかし、自由回答では、希望丘において具体的な活動内容の希望が 5 件あったことから、主体的な活動に繋がっている様子がうかがえる。

【その他：自由回答から】

いずれの施設でも、スタッフのやさしさ、安心感、楽しさをあげる意見が多数あり、もっと声掛けをしてほしいという要望も見られた。また友達と共に活動することが楽しいという意見も多く、スタッフや友達とのコミュニケーションがあることが、施設へ通う喜びに繋がっていることがうかがえる。

(2) 保護者

【「はい」の回答者のグラフ】



【危機管理体制】

① 緊急時に連絡が入る

- ・「はい」は、尾山台 70.0%、希望丘 64.3%、城山 45.5%の順。
- ・「わからない」は、城山 50.0%、尾山台 30.0%、希望丘 26.2%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

いずれの施設も「いいえ」は見られないが、「わからない」の回答が多かった。緊急事態に遭遇していないため、「わからない」とした回答も含まれる可能性がある（とくに城山において多い傾向である）。緊急時の連絡体制について、十分に理解を促進しておくことの必要性を改めて認識しておきたい。

② 個人情報やプライバシー保護に対応している

- ・「はい」は、希望丘 92.7%、尾山台 81.8%、城山 77.3%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

いずれの施設も「いいえ」は見られないため、十分な体制を敷いていると受け取られているといえる。中でも希望丘の「はい」の多さは、各種の徹底した情報保護体制の仕組みが影響したものと推測される。

【活動の内容】

③ 学習や行事、プログラムへ子どもの意見を反映している

- ・「はい」は、希望丘 85.7%、尾山台 72.7%、城山 59.1%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

④ 個性を理解した幅広い体験の支援をしている

- ・「はい」は、城山 86.4%、希望丘 83.3%、尾山台 54.5%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

いずれの施設も「いいえ」は見られないため、子どもに合わせた活動内容になるよう工夫されていると受け取られているといえる。

中でも子どもの意見の反映については、希望丘で「はい」が多く、子どもの主体性を軸に据えたプログラムを構成している結果と推測される。

幅広い体験の支援について、「はい」が少ない尾山台の自由回答では、「公立校と比べて体験や経験を積むことが少ないため、個性を生かした幅広い体験をいれてほしい」という意見が見られる。

⑤ 学習の支援をしている

- ・「はい」は、城山 77.3%、尾山台 72.7%、希望丘 52.4%の順。
- ・尾山台では「いいえ」は一人もいない。城山では 4.5%、希望丘では 14.3%。

城山や尾山台では「はい」が多く、「いいえ」はほとんど見られないことから、いずれの施設も適切に学習の支援を行っていると考えられる。午前中に、学習の時間が定められていると推測される。一方で、自由回答を見ると、「学習の時間を過ごすことが難しい」という意見が 2 件（城山）見られる。

希望丘は、城山や尾山台と比較すると「はい」が少なく、「いいえ」もやや多い。自由回答を見ると、「学習の時間が少ない」という意見が 3 件見られた。一律的な学習の時間が定められていないことによるものと推測される。

【スタッフの対応】

⑥ 子ども同士のトラブルに対応している

- ・「はい」は、尾山台 72.7%、希望丘 71.4%、城山 45.5%の順。

・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

⑦ 家庭との情報交換をしている

- ・「はい」は、城山 81.8%、尾山台 81.8%、希望丘 78.6%の順。
- ・尾山台では「いいえ」は一人もいない。城山では 4.5%、希望丘では 2.4%。

⑧ 子どもの不調時に家庭と連携している

- ・「はい」は、希望丘 75.6%、尾山台 72.7%、城山 68.2%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

いずれの施設でも「いいえ」はほとんど見られず、児童・生徒の見守りや保護者との情報共有、連携を適切に行っていると受け取られているといえる。
通室生同士のトラブルの項目では、城山は「はい」が少ないが「わからない」も多くなっている。まだトラブルに遭遇していないため、「わからない」とした回答も含まれる可能性がある。

【相談・要望】

⑨ 運営について意見を言いやすい雰囲気がある

- ・「はい」は、城山 86.4%、希望丘 81.0%、尾山台 70.0%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

⑩ お子さんに関する悩みが相談しやすい

- ・「はい」は、尾山台 100%、城山 95.5%、希望丘 90.5%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

⑪ 要望・苦情をいやすい雰囲気がある

- ・「はい」は、城山 90.9%、尾山台 90.9%、希望丘 85.7%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

⑫ 要望・苦情に親身に対応している

- ・「はい」は、希望丘 92.7%、尾山台 81.8%、城山 77.3%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

いずれの施設でも「いいえ」は見られず、「はい」が非常に多い結果となっている。自由意見からも、保護者が相談や意見をスタッフに伝えやすく、親身に対応しているという意見が多数見られた。

【外部との連携】

⑬ ほっとスクールと学校の連携

- ・「はい」は、尾山台 81.8%、希望丘 59.5%、城山 50.0%の順。
- ・城山、尾山台では「いいえ」は一人もいない。希望丘では 7.1%。

いずれの施設でも「いいえ」はほとんど見られない。
尾山台で「はい」が多い理由として、昨年度は正式生だけでなく、体験生にも学校訪問や担任連絡会を行ったことが影響している可能性がある。
「はい」がそれほど多くない希望丘の自由意見では、ほっとスクール側の問題ではなく、「学校側における不登校やほっとスクールへの理解、関心の薄さ」を指摘する意見が4件見られた。

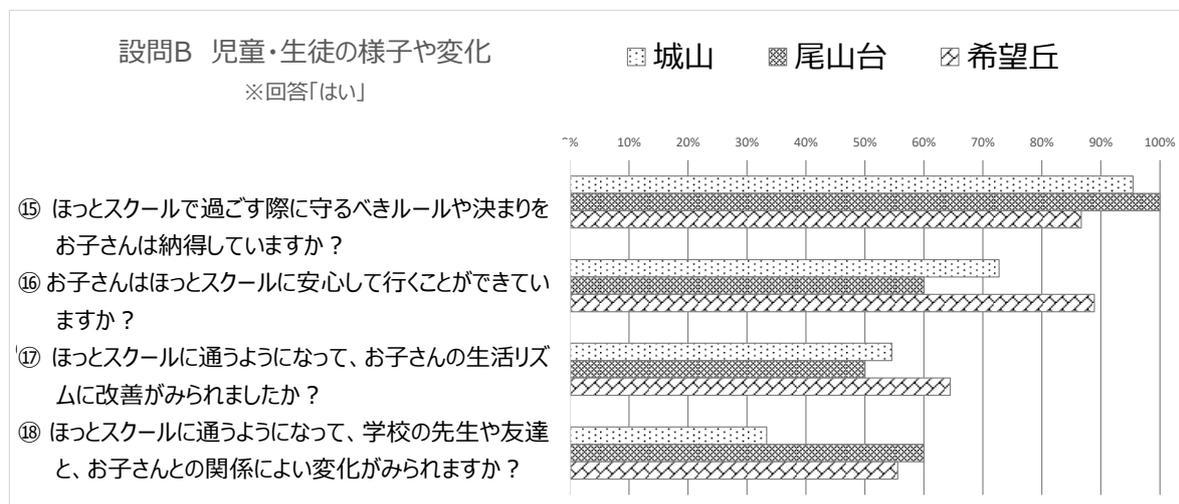
⑭ 他の相談機関との連携

- ・「はい」は、尾山台 30.0%、城山 23.8%、希望丘 14.3%の順。

- ・城山では「いいえ」は一人もいない。尾山台では 10.0%、希望丘では 9.5%。

いずれの施設でも「いいえ」はほとんど見られず、「わからない」が半分以上を占めている。連携が不足しているのではなく、外部との連携の必要性がない保護者が多いことによると推測される。

【お子さんの様子】



⑮ ほっとスクールで過ごす決まり事を理解している

- ・「はい」は、尾山台 100%、城山 95.5%、希望丘 86.7%の順。
- ・いずれの施設も「いいえ」は一人もいない。

⑯ ほっとスクールに安心して行くことができる

- ・「はい」は、希望丘 88.9%、城山 72.7%、尾山台 60.6%の順。
- ・希望丘では「いいえ」は一人もいない。城山では 4.5%、尾山台では 10.0%。

いずれの施設でも「いいえ」はほとんど見られず、「はい」が非常に多い結果となっている。中でも希望丘は、特に多くなっている。
また、いずれの施設においても自由意見では、「安心して居心地がよい」「楽しい」といった様子を感じている意見が非常に多く見られた。

【ほっとスクールに通ってからの変化】

⑰ ほっとスクールに通うことで生活リズムが改善した

- ・「はい」は、希望丘 64.4%、城山 54.5%、尾山台 50.0%の順。
- ・「いいえ」は、尾山台では 20.0%、城山では 13.6%、希望丘では 8.9%の順。

⑱ ほっとスクールに通うことで学校との関係に良い変化があった

- ・「はい」は、尾山台 60.0%、希望丘 55.6%、城山 33.3%の順。
- ・「いいえ」は、城山では 28.6%、尾山台では 20.0%、希望丘では 11.1%の順。

生活リズムの改善は、いずれの施設でも半分以上が感じている。
学校との関係の改善は、尾山台や希望丘では 5 割以上、城山では 3 割程となっている。
自由意見では、「前向きに取り組むようになった」「心を開くようになった」「学校に通えるようになった」「活動的になった」「笑顔や会話が增えた」「対人スキルが上がった」「友達ができた」など、ほっとスクールに通うことにより、子どもの様子により変化があったと感じる意見が多く見られた。

【その他：自由回答から】

いずれの施設でも、スタッフによる子どもへの手厚い支援と、ほっとスクールを設置していることに対する感謝の声が非常に多く見られた。また、施設の運営体制やスタッフの対応に対する批判的な意見は、ほとんど見られない。

マイナス面の指摘としては、「保護者に対する態度がスタッフにより差がある（城山）」「責任者の交代頻度の高さによるルールや進級指導の変更（尾山台）」などが見られた。

要望としては、「ネットリテラシーやスマートフォンとの適正な付き合い方、性教育についての指導（城山）」「施設の増設（尾山台・希望丘）」等が見られた。

IV. 評価結果

1. 評価結果の一覧

【評価の基準】

- A 適切に実施している
- B 実施しているが一部不十分な点がある
- C 不備があり十分に実施しているとえない

	No.	評価項目	城山	尾山台	希望丘
I - 1	1	管理者は、理念や方針について会議で説明するなど、スタッフの理解を深める取組みをしている。	B	B	A
	2	理念や方針について、保護者や児童・生徒が理解しやすいよう、わかりやすくパンフレット等を作成し、説明している。	A	A	A
I - 2	3	事業計画は、スタッフの意見を反映して作成している。	A	A	A
	4	作成した事業計画の内容を会議で説明するなど、全てのスタッフに周知する機会がある。	A	A	A
II - 1	5	管理者は、施設の運営に対し、現状を分析し問題点を把握している。	B	B	A
	6	管理者は、施設で行っている全てのことに対して、スタッフの意見を取り入れ、施設の改善を図っている。	B	B	A
II - 2	7	管理者は、業務の役割に応じた人材や有資格者の配置等、適正な人材を適正な数で配置している。	B	B	A
	8	管理者は、目的や効果を説明した上で、人事評価（勤務評定）を行っている。	A	A	B
	9	組織全体またはスタッフ一人ひとりについて、教育や研修の計画が作成・実施されている。	A	A	A
	10	教育や研修計画を決めるにあたり、研修後の結果やスタッフの希望・意見を反映し、研修内容の見直しをする仕組みがある。	A	A	A
II - 3	11	緊急事態や災害が発生した際の対応マニュアル等が作成され、リーダーや責任者、現場での対応等、スタッフの役割分担が決まっている。	B	B	A
	12	緊急事態や災害が発生した際の連絡先（児童・生徒の保護者、関係機関等）について、全スタッフが把握している。	A	A	A
II - 4	13	教育相談室や不登校相談窓口等の関係機関や、民間の不登校支援に関する団体等の連携先について、リストや資料を作成している。	A	A	A
	14	児童・生徒の支援のため、在籍校や関係機関などと連携し、情報を共有する機会がある。	A	A	A
III - 1	15	児童・生徒の気持ちを傷つけるようなスタッフの言動や虐待が行われることのないよう、スタッフが会議や研修等で定期的に話をする機会がある。	A	A	A

	16	児童・生徒や保護者の個人情報保護に関する規程・マニュアル等を作成している。	B	B	A
	17	児童・生徒に関する記録を使用するスタッフの範囲や、保管・保存方法、廃棄等に関する決まりがある。	B	B	A
	18	相談スペースを個室に区切るなど、相談や意見を述べやすい環境を作っている。	A	A	A
	19	児童・生徒や保護者から意見等を受けた際の記録の方法や報告の手順、回答の仕方等について決まった仕組みがある。	A	A	A
	20	寄せられた意見等はスタッフも交えて検討し、ほっとスクール運営の改善に反映している。	A	A	A
Ⅲ-2	21	支援の内容や方法について、複数のスタッフで提案や意見交換を行うなど、検討し合う機会がある。	A	A	A
	22	児童・生徒の日頃の活動状況や、特徴的な事等について記録し、書き方に差異が生じないよう、項目や記載の仕方について様式や決まりがある。	A	A	A
Ⅲ-3	23	見学、体験利用等の希望に対応している。	A	A	A
	24	利用案内、利用に際しての決まりごとや活動内容等をわかりやすく資料にまとめ、児童・生徒や保護者に配布や説明をしている。	A	A	A
Ⅲ-4	25	学習計画は児童・生徒一人ひとりについて、児童・生徒や保護者の意向や要望を含めて作っている。	A	C	A
	26	学習計画の内容や進捗について、定期的に確認する機会がある。	A	B	A
A-1	27	児童・生徒が活動する際のきまりやルールをわかりやすく説明したり、見える場所に表示をしている。	A	A	A
	28	児童・生徒が活動する際のきまりやルールに納得できない場合、話を聞いたり、丁寧に説明したり、見直しを行うなどの機会を設けている。	A	A	A
	29	広さに関わらず、スペースや設備・道具などが児童・生徒の発想で自由に活用できるように工夫されている。	A	A	A
	30	特定の使用目的に限定されない、一人でリラックスして過ごせるスペースを作っている。	A	A	A
A-2	31	スタッフは一人ひとりの児童・生徒へ目を配り、スタッフ間で児童・生徒の様子を共有しながら適切に援助をしている。	A	A	A
	32	児童・生徒間のけんかやトラブル、羽目はずす行為等への対応は、気持ちを荒れさせることなく成長につながるように適切に援助をしている。	A	A	A
	33	スタッフは、児童・生徒一人ひとりの友人同士の関わりについて把握している。	A	A	A
	34	イベントや行事等の参加型体験活動は、児童・生徒同士の交流が生まれるように工夫している。	A	A	A

	35	イベントや行事等の参加型体験活動は、学習の視点や新たな経験に繋がることを意識して企画している。	A	A	A
	36	イベントや行事等の参加型体験活動は、児童・生徒の自主性・主体性を育てる方法で行っている。	A	A	A
A-3	37	日常的に児童・生徒や保護者から、相談の受付や対応を行っている。	A	A	A
	38	児童・生徒や保護者からの相談内容や対応の経過、回答や情報提供の内容について記録している。	A	A	A
	39	保護者が企画運営やイベントに参加するなど、保護者同士で交流ができる活動がある。	A	A	A
	40	保護者に対して、不登校についての知識を学ぶ機会を設けている。	A	A	A
	41	虐待や家庭での問題を抱える児童・生徒等が発見された場合、児童相談所やソーシャルワーカー等の関係機関と連携する仕組みがある。	A	A	A
A-4	42	ほっとスクールに来るときや帰宅時の経路の安全について、児童・生徒に対し、安全確保のための具体的な指導をしている。	A	A	A
A-5	43	児童・生徒や保護者に向け、活動案内等のお便りを定期的に配布している。	A	A	A

2. 評価の詳細

評価対象 I 施設運営の基本方針と組織

I-1 理念・方針

理念や方針（施設が目指す方向性やあるべき姿）を周知している。

1	管理者は、理念や方針について会議で説明するなど、スタッフの理解を深める取り組みをしている。
2	理念や方針について、保護者や児童・生徒が理解しやすいよう、わかりやすくパンフレット等を作成し、説明している。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山・尾山台】 施設運営の理念や方針については、管理者である教育相談・支援課課長からスタッフに対して、年度初めに理念や当該年度の重要方針等を説明している。しかし、管理者は施設に常駐はしていないため、スタッフに対し日常的に理念に基づく指導や説明、協議をする機会を持っていない。また、管理者が施設を実見する機会が少なく、管理者の方針と、施設における実際の業務の擦り合わせにやや時間を要する場合があるという点は一部不十分といえる。 保護者や児童・生徒への理念・方針の説明は、見学時や面談時に説明し、適切に対応している。</p> <p>【希望丘】 施設運営の理念や方針については、受託する法人本部の倫理要領や行動規範に基づき、当施設における運営方針を立て、方針と日々の運営状況にずれがないかを確認している。また、管理責任者がスタッフに対し、日常業務の中で方針へ立ち返るよう指南することで、意識への浸透と理解に基づいた業務の実践に繋がっている。 保護者や児童・生徒への理念・方針の説明には重きをおいており、保護者に向けた説明会の開催や、見学時に保護者と児童・生徒のそれぞれにスタッフを配置するなどの配慮を行い、適切に対応している。</p>	

I-2 計画の策定

事業計画（年間の予算編成やイベント企画、研修計画など）を適切に作成し実行している

3	事業計画は、スタッフの意見を反映して作成している。
4	作成した事業計画の内容を会議で説明するなど、全てのスタッフに周知する機会がある。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山】 前年度までの振り返りを基に、翌年度の計画をスタッフ全員で協議し作成している。 スタッフは計画作成に携わることで施設運営の全体像を把握し、その中で自らの役割を理解しながら業務に携わっているなど、適切に対応している。</p> <p>【尾山台】 前年度までの振り返りを基に、翌年度の計画をスタッフ全員で協議し作成している。 スタッフは計画作成に携わることで施設運営の全体像を把握し、適切に対応している。また、令和2年度は年度計画のほかに学期毎に振り返りを行い、次の学期の計画と役割分担の確認を行っている。</p> <p>【希望丘】 年度計画については、前年度までの振り返りを基に、翌年度の計画をスタッフ全員で協議し作成している。 スタッフは計画作成に携わることで施設運営の全体像を把握している。また法人本部主催「親の会」への参加後等に、スタッフは取組みに対する振り返りを行い、適宜計画の見直しを行っているなど、適切に対応している。</p>	

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

管理者は不登校等を取り巻く事業環境の把握や、施設の質の向上に指導力を発揮している

5	管理者は、施設の運営に対し、現状を分析し問題点を把握している。
6	管理者は、施設で行っている全てのことに對して、スタッフの意見を取り入れ、施設の改善を図っている。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山・尾山台】 管理者は区全体の施策の方向性に基づく施設の現状と課題を理解しているが、施設に常駐していないため、学校管理職を経験した教育支援嘱託員が管理者とスタッフの間となる役割を担っている。しかし、管理者が日常的な施設の運営状況や通室生の様子を仔細に把握することは難しいという点で、一部不十分といえる。 管理者は施設の問題点の把握と改善に取り組んでいるが、一時的にスタッフとの方向性に乖離が見られたり、迅速な対応や解決をすることが難しい側面があるという点で、一部不十分といえる。</p> <p>【希望丘】 施設責任者が常駐しており、通室生の状況や様子を仔細に把握している。また、受託する法人本部との会議に参加し、当施設や事業者が運営する他の支援施設等の事例や不登校を取り巻く状況等、情報交換や協議を行っている。こうした多角的な面から当施設の新たな課題を認識し、翌年度に重点計画とするなど、適切に対応している。 管理者とスタッフは密に情報を共有し、スタッフらの意見は運営改善に速やかに反映している。</p>	

Ⅱ-2 人材の確保・育成

Ⅱ-2-(1)

人事管理体制の整備を行っている

7	管理者は、業務の役割に応じた人材や有資格者の配置等、適正な人材を適正な数で配置している。
8	管理者は、目的や効果を説明した上で、人事評価（勤務評定）を行っている。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山・尾山台】 城山は、教育支援嘱託員 1 名、指導員 5 名の業務体制、尾山台は教育支援嘱託員 1 名、指導員 4 名の業務体制となっている。勤務体制は 3～5 名で、見学者対応や電話相談がある場合には、通室生の支援や学習指導といった面で手薄になる時間もある。また、ここ数年、教育支援嘱託員や指導員の入れ替わりが多く、不登校支援経験のあるスタッフが継続的に通室生の支援に当たれていない状況も見受けられる。また、尾山台では保護者アンケートで、スタッフの入れ替わりによる支援方法の変化に戸惑う回答も 1 件見られた。以上のことから、一時的な人員の不足が生じる場合もあるという点で、一部不十分とした。 人事評価や管理者との面談については定期的に行い、適切に対応している。</p> <p>【希望丘】 施設責任者 1 名、常勤職員 5 名、非常勤スタッフ 3 名の業務体制となっている。スタッフは不登校支援にボランティアから携わり、法人で経験を積んだのちに採用される仕組みとなっている。人員が不足する場合には、非常勤スタッフの勤務の増加や、欠員が生じた場合には、事業者本部から人員を派遣するなど、適切な人員配置を行っている。 人事評価については、施設責任者も含めスタッフ間で相互に日常業務で見直しを行い確認を取り合っている。スタッフは試用期間に適性を把握した上で採用しており、適切でない点が見受けられる場合は、口頭での注意や面談を行う方針であるが、法人全体として定期的な人事評価の仕組みがないという点で、一部不十分でといえる。</p>	

II-2-(2)

スタッフの質の向上に向けた体制を確立している

9	組織全体またはスタッフ一人ひとりについて、教育や研修の計画が作成・実施されている。
10	教育や研修計画を決めるにあたり、研修後の結果やスタッフの希望・意見を反映し、研修内容の見直しをする仕組みがある。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山・尾山台】</p> <p>教育相談・支援課が開催する合同研修会と、各施設が独自で行う内部研修会がある。合同研修会は、スタッフにアンケートを行い、それを基に計画を策定している。内部研修会は、関係機関の施設訪問や通室生の特徴や背景に伴う課題を職員で協議し、研修内容の決定を行っている。令和2年度は、コロナ感染症対策のため研修を実施はしていないが、計画は策定しており、適切に対応している。</p> <p>【希望丘】</p> <p>施設の運営の中で生じる課題に対し、スタッフの意見を踏まえて研修内容を決定し、さらに研修した内容を通室生への具体的な支援に活かしているなど、適切に対応している。全スタッフが参加する研修と、常勤スタッフ向けの研修に分かれており、令和2年度も計画に応じた研修を実施している。</p>	

II-3 安全管理

緊急時（事故、感染症の発生時等）・災害時や日常において、児童・生徒の安全を確保する取り組みが行われている

11	緊急事態や災害が発生した際の対応マニュアル等が作成され、リーダーや責任者、現場での対応等、スタッフの役割分担が決まっている。
12	緊急事態や災害が発生した際の連絡先（児童・生徒の保護者、関係機関等）について、全スタッフが把握している。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山・尾山台】</p> <p>城山では、消防署に依頼し、通室生を交えて防災訓練（避難誘導、消火器訓練、救急介護、AED体験等）を行っている。令和2年度はコロナ感染症対策により訓練ができなかったため、通室生も参加させた「防災訓練ゲーム」を行っている。尾山台では、施設1階の地域体育館との合同避難訓練を行っている。</p> <p>しかし、防災以外の緊急事態については、係からの事案別の通知文はあるが、緊急事態全体の把握ができるものがなく、発生時に運用がしづらい状態となっている点が不十分といえる。防災訓練以外の緊急時のフローやマニュアルが整備されていないことや、対応訓練あるいはシミュレーションを行っていないことは、喫緊の課題といえる。</p> <p>【希望丘】</p> <p>施設で起こりうるあらゆる危機（火災、震災、荒天、光化学スモッグ、けが・病気、感染症、食中毒、アレルギー対応、不審者等）を想定した「スタッフ業務マニュアル」を策定している。令和2年度は、複合施設全体で計画していた訓練がコロナ感染症対策により実施されていないが、保育園との合同訓練およびほっとスクール単独での訓練を行っている。単独の訓練は通室生も参加させており、火災・地震・不審者訓練とテーマを変えてシミュレーションを行っている。またそれ以外に、スタッフのみで施設におけるリスクの洗い出しを実地検分しながら行うなど、適切に対応している。</p>	

【全施設共通】

いずれの施設においても、災害時等の通室生の引き取り方法が決まっていない点は、大きな課題といえる。

また保護者へ緊急連絡をする場合についても、緊急連絡カードの使用については、コロナ発生時は教育委員会から直接保護者へメールが送信されているが、災害時には施設から保護者へ連絡する必要がある、緊急時を想定した連絡方法（電話、メール）が十分に検討されていない点も課題といえる。

Ⅱ-4 地域や関係諸機関との交流や連携

地域や関係諸機関との関係を適切に確保し連携している

13	教育相談室や不登校相談窓口等の関係機関や、民間の不登校支援に関する団体等の連携先について、リストや資料を作成している。
14	児童・生徒の支援のため、在籍校や関係機関などと連携し、情報を共有する機会がある。
判断した理由・特記事項	
【城山】【尾山台】【希望丘】 いずれの施設も、不登校に関係する各種の機関等の情報については、スタッフが全体像を把握するとともに、出入口付近の目につきやすい場所に、パンフレットやチラシ等を設置し、見学者や保護者、通室生が自由に手に取れるようにするなど、適切に対応している。 在籍校との連携については、学校への通室状況報告書の提出のほか、必要に応じて通室生の様子や対応方法について話をしている。また、正式通室生については、スタッフによる学校訪問と、教員がほっとスクールに入室する担任連絡会で定期的な情報交換を行うとともに、ほっとスクールに対する学校の理解促進を図るなど、適切に対応している。 尾山台では、学校訪問は例年、正室生のみであったが、令和2年度は体験生にも行っている。 保護者へのアンケートでは、ほっとスクールへの要望ではなく、学校側に対しほっとスクールへの理解と連携を求める意見が4件見られた。	

評価対象Ⅲ 適切な支援の実施

Ⅲ-1 児童・生徒本位の支援

Ⅲ-1-(1)

児童・生徒の意思を尊重する体制を整備している

15	児童・生徒の気持ちを傷つけるようなスタッフの言動や虐待が行われることのないよう、スタッフが会議や研修等で定期的に話をする機会がある。
判断した理由・特記事項	
【城山・尾山台】 毎日夕方のミーティングにおいて、個々の通室生の様子や状況に対し、スタッフが適切な対応をとれるよう職員間で話し合いを行っている。通室生へのアンケートにおいても、スタッフの言動や態度について問題がある趣旨の回答はなく、スタッフが「やさしい」または「好き」という意見が城山で6件、尾山台で1件見られた。 【希望丘】 受託する法人として、倫理綱領・行動規範・ガイドラインを定めており、着任時の研修や日々の業務において、常に振り返りを行っている。また、毎日夕方のミーティングにおいて、個々の通室生の様子や状況に対し、スタッフが適切な対応をとれるようスタッフ間で話し合いを行っている。施設内のみで解決が難しい事例の場合には、適切な対応が行えるよう、スーパーバイザーへの相談や協力を仰ぐなど、適切に対応している。児童・生徒へのアンケートにおいても、スタッフの言動や態度について問題がある趣旨の回答はなく、スタッフが「やさしい」「好き」という意見が3件見られた。	

Ⅲ-1-(2)

児童・生徒や保護者の個人情報保護の体制を整備している

16	児童・生徒や保護者の個人情報保護に関する規程・マニュアル等を作成している。
17	児童・生徒に関する記録を使用するスタッフの範囲や、保管・保存方法、廃棄等に関する決まりがある。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山・尾山台】 スタッフは新規採用時に、個人情報保護に関する研修を受講している。個人情報については、データ・紙媒体ともに、世田谷区の個人情報保護条例等に基づき、適切に情報保護の手段を取っているが、マニュアル等はスタッフに十分周知されていない。また、スタッフルームは基本的に通室生の入室を禁止しているが、入室して来ってしまうケースもあるという点は一部不十分といえる。</p> <p>【希望丘】 世田谷区情報セキュリティ対策基準を遵守するとともに、情報セキュリティ対策基準を定め、マニュアルを作成しスタッフに周知している。また、常勤スタッフは年1回、情報セキュリティ研修を受講している。個人情報については、データ・紙媒体ともに、世田谷区の個人情報保護条例等に基づき、適切に情報保護の手段を取っている。スタッフルームは、通室生が入室できないよう常時施錠し、スタッフは常に鍵を携帯して使用の都度、開錠及び施錠をするなど、適切に対応している。</p>	

Ⅲ-1-(3)

児童・生徒や保護者からの相談や意見等に対応する体制が確保されている。

18	相談スペースを個室に区切るなど、相談や意見を述べやすい環境を作っている。
19	児童・生徒や保護者から意見等を受けた際の記録の方法や報告の手順、回答の仕方等について決まった仕組みがある。
20	寄せられた意見等はスタッフも交えて検討し、ほっとスクール運営の改善に反映している。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山】【尾山台】 相談室は施設のやや奥まった場所に設け、扉で区切られ落ち着いて安心して話ができる環境を整えているなど、適切に対応している。 通室生や保護者から意見や相談を受けた場合は、スタッフ間で情報共有を図り対応方法等を協議している。ほっとスクール内だけで解決できない場合は、教育相談室や学校、その他の関係機関にも連絡及び相談するなど、連携して対応にあたっている。相談内容や対応の経緯は個人別のファイルに綴り、適切に対応している。 通室生や保護者から受け付けた意見は、スタッフミーティングで検討し、対応可能な内容については運営に反映させ、対応が困難な内容についてはその理由を説明するなど、適切に対応している。</p> <p>【希望丘】 相談室は施設のやや奥まった場所に設け、扉で区切られ落ち着いて安心して話ができる環境を整えるなど、適切に対応している。 通室生や保護者から意見や相談を受けた場合は、スタッフ間で情報共有を図り、対応方法等を協議している。ほっとスクール内だけで解決できない場合は、スーパーバイザーや学校、その他の関係機関にも連絡及び相談するなど連携して対応に当たっている。相談内容や対応の経緯は個人別のファイルに綴り、適切に対応している。 通室生や保護者から受け付けた意見は、スタッフミーティングで検討し、常に施設の運営方針や理念に立ち返り、そぐう内容の場合には反映するよう努めている。対応が困難な内容については理由を説明するなど、適切に対応している。</p>	

Ⅲ-2 支援の質の確保

支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われている。

21	支援の内容や方法について、複数のスタッフで提案や意見交換を行うなど、検討し合う機会がある。
22	児童・生徒の日頃の活動状況や、特徴的な事から等について記録し、書き方に差異が生じないように、項目や記載の仕方について様式や決まりがある。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山】【尾山台】【希望丘】</p> <p>いずれの施設も、スタッフはそれぞれが主に担当している通室生に重きをおきつつ、全ての通室生の様子に目を配り、夕方のミーティングでの話し合いと、翌日への申し送りによりスタッフ間で共有している。とりわけ支援が必要な通室生の場合は、その対応方法についても協議し、通室生への接し方に反映するなど、適切に対応している。</p> <p>通室生の日頃の活動状況については簡易的に記録し、特徴的な事柄や重要な事柄については、支援シートに記録している。保護者や学校、その他の外部機関との話の経緯など、全てを取りまとめた個人別のファイルに保管している。</p>	

Ⅲ-3 支援の開始・継続

施設利用の適切な情報を提供し、児童・生徒や保護者に理解を促している。

23	見学、体験利用等の希望に対応している。
24	利用案内、利用に際しての決まりごとや活動内容等をわかりやすく資料にまとめ、児童・生徒や保護者に配布や説明をしている。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山】</p> <p>見学、体験利用は随時受け入れを行っている。令和2年度は78件の見学があり、適切に対応している。正式通室生は、定員内（25名）での受け入れを行っている。</p> <p>利用に際しては、利用の仕方や活動内容、ルール等を資料配布や見学・面談時に説明し、適切に対応している。</p> <p>【尾山台】</p> <p>見学、体験利用は随時受け入れを行っている。令和2年度は54件の見学があり、適切に対応している。正式通室生は定員に達していないが体験通室生が多く、安心して落ち着いて過ごす環境の維持が難しくなりつつある。</p> <p>利用に際しては、利用の仕方や活動内容、ルール等を資料配布や見学・面談時に説明し、適切に対応している。保護者のアンケートでは、教育支援嘱託員の交代による細かなルールの変更があるとの指摘があった。ルールについては、施設の運営方針に則り一貫した内容とし、説明と理解を促すことが必要とされている様子もある。</p> <p>【希望丘】</p> <p>希望丘では、保護者に向けた説明会を開催し、施設の方針を理解した上で見学の受け入れを行っている。令和2年度は142件の見学があり、適切に対応している。正式通室生は、定員内での受け入れを行っているが、既に通室している児童・生徒が安心して過ごすことができるよう、新たな入室生は徐々に増えるよう調整をしている。</p> <p>利用に際しては、利用の仕方や活動内容、ルール等を資料配布や見学・面談時に説明し、適切に対応している。</p>	

Ⅲ-4 活動実施計画の策定

児童・生徒に対する学習計画を適切に作成している。

25	学習計画は児童・生徒一人ひとりについて、児童・生徒や保護者の意向や要望を含めて作っている。
26	学習計画の内容や進捗について、定期的に確認する機会がある。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山】 学期の始めには学習活動計画を立てている。日常的には午前中が学習の時間となっている。保護者のアンケートでは、学習の時間と定められていることや、自習して過ごすことが難しいという意見が見られた。学習の強要はしてはならず、通室生の意思を尊重しているが、枠組みとして設定されていることに対して負担を感じる様子が伺えた。 学習計画の進捗については日々の記録や、各月の目標や達成度を記録している。</p> <p>【尾山台】 学習計画については、児童・生徒が通室することを最優先としているため、ほととスクール側からは立てていない。日常的には午前中が学習の時間となっており、通室生が持参した学習素材を行う中で、学習内容にわからないところがある場合はスタッフが相談に乗っている。 学習の状況については、スタッフが確認し把握をしているが、通室生の取り組み状況を把握できる記録はしていない点で、一部不十分といえる。</p> <p>【希望丘】 学習計画は学期単位で作成している。日常的には、学習の時間として週 2 回の学習の時間と、希望制の時間を設けている。全ての活動を学習の機会と捉え、通室生ミーティングや通室生自らがプロジェクトを立ち上げ、自ら学ぶ内容を決める環境を整えている。保護者アンケートでは、こうした自主性があり多様な体験ができる機会を感謝する意見が 3 件ある一方で、学習時間が少ないという意見が 3 件あり、教科学習の遅れに対する不安を感じる様子がうかがえた。 学習計画の進捗については、月単位で個別学習実施状況報告書を作成し、スタッフ間で回覧している。</p>	

A 活動に関する事項

A-1 活動の環境整備

児童・生徒が安心して過ごせ、主体的に活動しやすい環境を整備している

27	児童・生徒が活動する際のきまりやルールをわかりやすく説明したり、見える場所に表示をしている。
28	児童・生徒が活動する際のきまりやルールに納得できない場合、話を聞いたり、丁寧に説明したり、見直しを行うなどの機会を設けている。
29	広さに関わらず、スペースや設備・道具などが児童・生徒の発想で自由に活用できるように工夫されている。
30	特定の使用目的に限定されない、一人でリラックスして過ごせるスペースを作っている。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山】 ほととスクールで過ごす上でのルールは、通室生の意見を聞き入れたり、できない理由の説明やルールの見直しをしている。 スペースについては、活動するにも一人で過ごすにも十分な環境があり、それに合わせた道具等を配備している。通室生のアンケートでは、自然が豊かな環境について良い感想をもつ意見が3件見られた。</p> <p>【尾山台】 ほととスクールで過ごす上でのルールは、通室生の意見を聞き入れたり、できない理由の説明やルールの見直しをしている。 スペースについては、城山や希望丘と比較して面積が小さいが、通室生は一人一台の机が使えるようになっており、活動するための道具は工夫して配備している。また週1回、階下の地域体育館を利用できる時間も設けられている。アンケートでは特にそれに関わる自由意見はないが、「自分の好きな活動ができている」という割合が少ない傾向との関連する可能性もある。</p> <p>【希望丘】 ほととスクールで過ごす上でのルールは、通室生の意見を聞き入れたり、できない理由の説明やルールの見直しをするほか、様々な場面において通室生によるミーティングでルール等の話し合いをする場を設け、通室生の自主性や主体性を尊重している。 スペースについては、活動するにも一人で過ごすにも十分な環境があり、それに合わせた道具等を配備している。また、通室生による製作物やプロジェクトの等の掲示が至る所にされている。</p>	

A-2 児童・生徒への対応（核となる活動）

児童・生徒一人ひとりに適した活動の支援を行っている

31	スタッフは一人ひとりの児童・生徒へ目を配り、スタッフ間で児童・生徒の様子を共有しながら適切に援助をしている。
32	児童・生徒間のけんかやトラブル、羽目をはずす行為等への対応は、気持ちを荒れさせることなく成長につながるように適切に援助をしている。
33	スタッフは、児童・生徒一人ひとりの友人同士の関わりについて把握している。
34	イベントや行事等の参加型体験活動は、児童・生徒同士の交流が生まれるように工夫している。
35	イベントや行事等の参加型体験活動は、学習の視点や新たな経験に繋がることを意識して企画している。
36	イベントや行事等の参加型体験活動は、児童・生徒の自主性・主体性を育てる方法で行っている。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山】</p> <p>スタッフはそれぞれが主に担当している通室生に重きをおきつつ、各通室生の様子に常に目を配り、声掛けや通室生と共に活動を行っている。日常的な活動の様子を記録するとともに、特記すべき事項がある場合には個人の「支援シート」へ記録し、スタッフミーティングで情報共有を行っている。また、スタッフと通室生が1対1で世間話をする「トークトーク」を学期ごとに設けているなど、スタッフと気軽に話をする機会を設けている。児童・生徒のアンケートでは、スタッフと話すことや声掛けしてくれることがうれしいという意見が3件あり、スタッフとの交流がほっとスクールに通う喜びとなっている様子が伺える。</p> <p>イベントは、通室生同士が共に作業が行えるよう内容や工程を工夫し、スタッフも関わりに入りながら個々のつながりを深めることを意識して行っている。また、スタッフが活動のねらいについて資料を作成したり、事前学習や通室生自身に調べものをしてもらうことにより、学習の視点や自主性、主体性を育てる取り組みとしている。</p> <p>【尾山台】</p> <p>スタッフはそれぞれが主に担当している通室生に重きをおきつつ、各通室生の様子に常に目を配り、声掛けや通室生と共に活動を行っている。日常的な活動の様子を記録するとともに、特記すべき事項がある場合には個人の「支援シート」へ記録し、スタッフミーティングで情報共有を行うなど、適切に対応している。</p> <p>イベントは、通室生同士が共に作業が行えるよう内容や工程を工夫し、スタッフも関わりに入りながら個々のつながりを深めることを意識して行っている。また、スタッフが活動のねらいについて資料を作成したり、事前学習や通室生自身に調べものをしてもらうことにより、学習の視点や自主性、主体性を育てる取り組みとしている。</p> <p>【希望丘】</p> <p>スタッフはそれぞれが主に担当している通室生に重きをおきつつ、各通室生の様子に常に目を配り、声掛けや通室生と共に活動を行っている。日常的な活動の様子を記録するとともに、特記すべき事項がある場合には個人の「支援シート」へ記録し、スタッフミーティングで情報共有を行っている。また、施設にきていない通室生へのフォローとして保護者に電話し、様子を聞くことにも力を入れるなど、適切に対応している。児童・生徒のアンケートでは、スタッフの声掛けがうれしいという意見が2件あり、ほっとスクールに通う喜びとなっている様子が伺える。</p> <p>イベントは、スタッフが企画する多様な講座以外に、通室生自身が企画から運営まで行うプロジェクトサークルタイムがある。プロジェクトを進行するために必要なあらゆることが学びの素材となり、通室生が自主的・主体的に進める中で、必然的に交流も生まれている。</p>	

A-3 児童・生徒や保護者からの相談への対応

児童・生徒や保護者からの相談対応や問題を抱える家庭への支援を行っている

37	日常的に児童・生徒や保護者から、相談の受付や対応を行っている。
38	児童・生徒や保護者からの相談内容や対応の経過、回答や情報提供の内容について記録している。
39	保護者が企画運営やイベントに参加するなど、保護者同士で交流ができる活動がある。
40	保護者に対して、不登校についての知識を学ぶ機会を設けている。
41	虐待や家庭での問題を抱える児童・生徒等が発見された場合、児童相談所やソーシャルワーカー等の関係機関と連携する仕組みがある。
判断した理由・特記事項	
<p>【城山】 通室生や保護者から相談がある場合には、常時、受け付けている。保護者からの相談は電話が多く、令和 2 年度は 85 件であった。相談を受けた場合には個人の支援シートに記録し、スタッフミーティングでも情報共有するなど、適切に対応している。保護者との面談は継続通室面談以外にないが、希望があれば随時行っており、適切に対応している。 保護者同士が交流できる機会としては、「保護者会」の開催と、保護者がイベントへ参加する機会を設けるなど、適切に対応している（令和 2 年度はコロナ感染症対策のためイベントへの参加は中止）。 家庭の福祉的課題を抱えている通室生については、子ども家庭支援センターや児童相談所と連携をとるほか、総合教育相談室の専門家による相談や助言を受けるなど、関係機関と協力をしながら解決に当たり、適切に対応している。</p> <p>【尾山台】 通室生や保護者から相談がある場合には、常時、受け付けている。保護者からの相談は電話が多く、令和 2 年度は 64 件であった。相談を受けた場合には個人の支援シートに記録し、スタッフミーティングでも情報共有するなど、適切に対応している。保護者との面談は、継続通室面談のほかに個別相談会として学期末に定期面談を行っており、保護者へのフォローにも力を入れている。令和 3 年度は、通室生とスタッフの二者面談も実施を予定している。 保護者同士が交流できる機会としては、「保護者会」の開催と、保護者がイベントへ参加する機会を設けるなど、適切に対応している（令和 2 年度はコロナ感染症対策のためイベントへの参加は中止）。 家庭の福祉的課題を抱えている通室生については、子ども家庭支援センターや児童相談所と連携をとるほか、総合教育相談室の専門家による相談や助言を受けるなど、関係機関と協力をしながら解決に当たり、適切に対応している。</p> <p>【希望丘】 通室生や保護者から相談がある場合には、常時、受け付けている。保護者からの相談は電話が多く、令和 2 年度は 468 件であった。相談を受けた場合には個人の支援シートに記録し、スタッフミーティングでも情報共有するなど、適切に対応している。 継続通室面談のほかに、定期的な個別相談会（保護者面談）はなく、希望があれば随時行うなど、適切に対応している。 保護者同士が交流できる機会としては、希望丘通室生の保護者がつながる「保護者懇親親睦会」（令和 2 年度はコロナ感染症対策のため中止）を行っている。また、「保護者会」は保護者からの要望があったことから、令和 3 年度は開催を計画している。また、施設に来ていない通室生の保護者に電話し様子を聞くなど、保護者へのフォローにも力を入れている。保護者へのアンケートでも、親へのサポートに感謝する意見が 5 件見られた。 家庭の福祉的課題を抱えている通室生については、子ども家庭支援センターや児童相談所と連携をとるほか、総合教育相談室の専門家やスーパーバイザーによる相談や助言を受けるなど、関係機関と協力をしながら解決に当たり、適切に対応している。</p>	

A-4 地域社会との取組み

地域社会で児童・生徒が安全に過ごせるような取組をしている

42	ほっとスクールに来るときや帰宅時の経路の安全について、児童・生徒に対し、安全確保のための具体的な指導をしている。
判断した理由・特記事項	
【城山】【尾山台】【希望丘】 いずれの施設においても、通室生の自宅とほっとスクールまでの通室経路図の提出を受け確認を行っている。日常的には通室の事前連絡をスタッフ間で共有し、通室の確認を行うなど、適切に対応している。 また、自転車での通室生が多いことから、日常的に口頭で注意喚起を行うほか、天候に注意を払い荒天になる前に帰宅を促すなど、適切に対応している。	

A-5 広報活動

広報活動が適切に行われている

43	児童・生徒や保護者に向け、活動案内等のお便りを定期的に配布している。
判断した理由・特記事項	
【城山】【尾山台】【希望丘】 いずれの施設も、月1回、施設の活動内容等を広報紙として発行しており、適切に対応している。	

V.分析・第三者評価結果の総括

1. 全体の総評

(1) 評価対象Ⅰ 施設運営の基本方針と組織

城山・尾山台では、理念や方針の理解はされているが、具体的な業務に落とし込む際に、管理者（教育相談・支援課課長）と施設に勤務するスタッフの意識に差が生じることがあり、擦り合わせに時間を要する点がある点は課題である。事業計画の作成に当たっては、実施状況を振り返り、通室生の反応や意見を取り入れながら、見直しと計画への反映に繋げている。

希望丘（業務委託）では、世田谷区の要求水準や仕様をより一層自社のマネジメントの仕組みに落とし込んでいく。理念や方針を明文化し、常にそこに立ち返りながら業務に当たるようスタッフの意識に浸透させている。事業計画の作成に当たっては、実施状況を振り返り、通室生の反応や意見を取り入れながら、施設の理念や方針に立ち返り照らし合わせ、短いサイクルで見直しと計画への反映に繋げている。

全体として、各施設で基本方針の実現に向けた取組みが行われているものの、施設や職員により、細部において方向性が異なる点が見られる。これは運営方法への違いにも現れ、保護者のアンケートでは戸惑いや違いを指摘する意見が見られている。同じ区の教育支援センターとして、基本方針やそれに基づく事業の推進について、定期的に3施設で協議や確認をする場が必要と考える。

(2) 評価対象Ⅱ 組織の運営管理

城山・尾山台では、管理職を経験した教育支援嘱託員が管理者と指導員の間となる役割を担っているが、実質的に管理者が施設に不在という点は課題である。また、見学者対応や電話相談がある場合には、一時的に通室生の支援や学習指導といった面において手薄になることがある。これはスタッフが全て非常勤職員であり、業務に応じて出勤体制を調整することが難しいことによる。そしてここ数年、教育支援嘱託員や指導員の入れ替わりが多く、不登校支援経験を蓄積したスタッフが継続的に通室生の支援に当たっていない状況も見受けられる。尾山台の保護者アンケートにおいても、教育支援嘱託員が交代するサイクルの短さを指摘する意見が見られた。スタッフが働きやすい環境の継続的な整備や、専門的人材や経験が豊富な人材の確保、それができない場合はカバーする方策が必要である。安全管理については、防災以外の緊急時のフローやマニュアルが整備されていないことや訓練等を実施していないことは、喫緊の課題といえる。

希望丘（業務委託）では、不登校支援の経験が豊富な施設責任者が配置されている。また、いずれのスタッフも不登校支援のボランティア勤務を経たのちに、正式に配属される仕組みとなっている。法人本部とは、法人が運営する他の支援施設等における事例や、不登校を取り巻く社会的状況等について情報交換や協議を行っており、多角的な面から当施設の課題を認識し、運営に活かしている。人員が不足する場合には、非常勤スタッフの勤務時間の増加や本部からサポート要員を派遣するなど、臨機応変に対応している。スタッフの質の向上についても、当

施設の課題や通室生の特性に対応するための多彩な研修を行い、具体的な支援に生かすことを見越して計画的に実施されている。なお、スタッフの人事評価に関する具体的な仕組みが整っていない点については課題であり、今後の管理体制の中で必要性を検討されたい。安全管理については、施設で起こりうるあらゆる危機を想定した「スタッフ業務マニュアル」を策定し、定期的な対応訓練を実施している。

全体として、災害発生時等の引き取り方法が決まっていない点については、大きな課題である。通室生の帰宅経路が様々で、自宅までの距離がある通室生もいることから、保護者に安心してもらえるよう、早急に解決を図る必要がある。また、アンケートでは緊急時における避難方法等の理解度が低くなっていることから、コロナ禍においても定期的な避難訓練等を実施することにより、通室生の意識の向上を図ることが重要といえる。

学校との連携については、いずれの施設も学校訪問や担任連絡会のほか、通室生の様子に応じて適宜、連絡をしている。一方、保護者へのアンケートでは、学校との連携がされているかの設問に対し、「はい」は希望丘で 59.5%、城山で 50.0%と低い傾向がある。これは自由意見にあるように、ほっとスクール側の課題ではなく、学校側に対しほっとスクールへの理解と連携を求める意見の表れと考えられる。

(3) 評価対象Ⅲ 適切な支援の実施

支援体制については、いずれの施設でも大きな差は見られない。スタッフは、それぞれが主に担当している通室生に重きをおきつつ、全ての通室生の様子に目を配っている。とりわけ支援が必要な通室生は、対応方法をスタッフ間にて協議を行い、接し方へ反映させている。また通室生だけではなく、保護者からの意見や相談を受けた場合においても、スタッフ間にて情報共有を図り対応している。難しい事例の場合には、教育相談室のスーパーバイザーや外部機関等へ相談し連携を図るなど、関係機関と連携を図り対応に当たっている。このような通室生の状況や状態、相談内容等については、記録用紙や支援シート等へ記録し、個人別のファイルに保管するなど、全スタッフが常に適切な対応を行えるよう体制を整えている。

コンプライアンスや個人情報については、希望丘（業務委託）では、倫理綱領や行動規範、ガイドライン、マニュアルを定め、スタッフに周知し、日々の業務の中で振り返りを行っている。またスタッフルームは、通室生が入室できないよう常時施錠し、スタッフは入退室の都度、開錠及び施錠を行うなど、個人情報に対する厳密な管理体制を整えている。

城山・尾山台では、個人情報については研修や規程の理解はされているものの、業務内容に則したマニュアルやフローが不十分である。また、スタッフルームは基本的に通室生の入室を禁止しているが、実際は入室してしまうケースもある点は課題といえる。

希望丘（業務委託）では、学習計画については、通室生の自主性を尊重し、自発的な取組を重んじながら、学期単位で作成している。また学習の時間として、週2回「学びタイム」を設定している。大きな特徴としては、全ての活動を学習の機会と捉え、通室生自らがプロジェクトを立ち上げ、自主的に主体的に学ぶ環境を整えている点があげられる。保護者のアンケートでは、こうした自主性の尊重や幅広い体験は、子どもの意見を反映しながら取り入れられているとする前向きな意見が見られる。また通室生のアンケートにおいても、やりたい活動内容を具

体的に上げるといった活発な意見が見られた。一方で保護者のアンケートでは、学習支援の時間が少ないという意見があり、教科学習の遅れに対する不安を感じる様子がうかがえた。今後は、学習計画を保護者と共有していくことを予定しており、取組内容が保護者に伝わることで不安が解消されることが期待される。

城山・尾山台ではそれぞれに特徴が見られた。

城山では、学期の始めに学習活動計画として「1学期プランニング」を立てている。計画を立てるに当たっては、通室生に対してスタッフが寄り添い、相談しながら無理のない範囲で行っている。午前中が学習の時間と決められており、学習内容に分からないところがある場合は、スタッフが相談に乗っている。学習の強要は行っておらず、通室生の意思を尊重している。しかし、保護者のアンケートでは、学習の時間を過ごすことが難しいという意見があり、ルールとして設定されていることに対し、通室生によっては負担を感じる様子もうかがえた（例：自習が難しい低学年）。

尾山台では、児童・生徒が通室することを最優先とし、施設側からは計画を立てていない。午前中は学習の時間となっており、学習内容に分からないところがある場合はスタッフが相談に乗っている。学習の状況については、各通室生の担当スタッフが確認し、把握をするようにしているが、状況が把握できる記録が不十分であるなど、計画的な学習支援の体制は整備されていない。

(4) A 活動に関する事項

活動環境の整備については、いずれの施設でも限られたスペースを工夫して通室生が活動でき、なおかつ一人でくつろげるスペースを設置している。また、通室生同士のトラブル等が生じた場合は、十分に当事者の話を聞き取り、気持ちの落ち着きを取り戻させながら、お互いが過ごしやすくなるようサポートするなど、適切に対応している。

ほっとスクールにおいて過ごす上でのルール等の取決めは、希望丘（業務委託）では、通室生が主体として行われるミーティングにて話し合われている。「あらゆる活動が学びの機会」という運営方針に基づき、ゲームやスマートフォンの使用も可能となっているが、通室生自らがミーティングにおいて使用する時間の規制を設けるなど、自主性や主体性を尊重した内容となっている。

城山・尾山台では、ほっとスクールで過ごす上でのルールは、通室生の意見を聞き入れたり、制限される内容とその理由の説明やルールの見直しを行うなど、通室生の意見を尊重し対応している。

イベント・行事については、希望丘（業務委託）では、スタッフが企画する多様な講座以外に、通室生自身が企画から運営まで行うプロジェクトサークルタイムがある。プロジェクトを進行するために必要なあらゆることが学びの場となり、通室生が主体となって進める中で、必然的に交流も生まれている。当初は講座形式が中心であったが、通室生の要望により、自主性や主体性が高まるプロジェクトサークルタイム（例：植樹と木の家づくり）に主軸が移行しつつある。

城山・尾山台では、通室生の要望も時に踏まえながら、スタッフが企画を行っている。通室生同士が共に作業を行えるよう内容や工程を工夫し、個々の繋がりを深められるようスタッフも関わりに入りサポートしている。また、活動のねらいについて資料を作成し、学習の視点や自主性、主体性を育てる取組みとして、通室生自身に事前学習や調べもの学習を行わせる場合もある。尾山台の保護者アンケートでは、「公立校と比べて体験や経験を積むことが少ないため、個性を生かした幅広い体験をさせてほしい」という意見が見られた。断定はできないが、希望丘と比較すると企画の数や多様性が少ないことが影響している可能性がある。

通室生や保護者からの相談については、いずれの施設においても常時受け付けている。

希望丘（業務委託）では、保護者からの相談は電話が多く、令和2年度は468件となっている。継続通室面談のほかに定期的な個別相談会（保護者面談）はないが、希望があれば随時行っている。また、保護者同士が交流できる機会として、「保護者懇親親睦会」「保護者会」があるほか、施設に来ていない通室生の保護者に対しては電話で様子を聞くなど、保護者へのフォローにも力を入れている。保護者のアンケートにおいても、親へのサポートに感謝する意見が多く見られた。

城山・尾山台では、令和2年度は城山が85件、尾山台が64件であった。城山では継続通室面談のほかに定期的な個別相談会（保護者面談）はないが、希望があれば随時行っている。尾山台では継続通室面談のほかに、個別相談会（保護者面談）として定期面談を学期末に行うなど、保護者との面談に力を入れている。また令和3年度は、通室生とスタッフの二者面談の実施も予定している。保護者同士が交流できる機会としては、「保護者会」を開催している。

2. 行政コスト

令和元年度の行政コストの合計としては、城山 30,909 千円、尾山台 29,814 千円、希望丘 51,955 千円となっている。ここでは、下記の単位当たりのコストを比較する。

各施設の情報	ほっとスクール		
	城山	尾山台	希望丘
令和元年度の行政コスト（単位：千円）	30,909	29,814	51,955
通室生延べ出席数（人）	2,681	968	6,445
延べ通室生1人あたりの行政コスト（単位：千円）	11,529	30,800	8,061

【延べ通室生1人あたりの行政コスト】

令和元年度の延べ通室生の数は、城山 2,681 人、尾山台 968 人、希望丘 6,445 人となっている。通室生の数で割り返すと、希望丘、城山、尾山台の順でコストパフォーマンスが高い。尾山台が、城山や希望丘の3倍以上となっているのは、委託料が含まれている点や、施設規模が小さく通室生の数が少ないことも要因と考えられる。

延べ通室生1人あたりの行政コストの差は、城山と希望丘では年間約3,500千円となっている。アンケート調査や分析、第三者評価結果とコストを比較して見る限り、現状では民間活用により、サービスの水準を維持し、またコストを削減することに成功しているといえる。

3. 業務委託による民間運営の効果

評価及びアンケート実施の結果から、業務委託による民間運営の効果は大きく二つあると考える。

一つ目として、教員経験、心理職経験や不登校支援経験があるスタッフなどを雇用し、臨機応変な人員配置を取ることができることである。職員は現場でのボランティア勤務を経て正式に配属されるため、配属時点で法人の採用基準を満たした支援経験者となっている。また、人員が不足する場合には勤務時間や日数を増やしたり、欠員が生じた場合には法人の本部から人員を派遣するなど、業務の状況に応じた臨機応変な勤務体制をとることで充足させている。

二つ目として、法人が運営する他の支援施設等における実績や事例を当施設の運営に応用できることである。不登校を取り巻く社会的状況についての情報も含め、多角的に当施設の運営に活かしている。研修コンテンツや子どもの社会的自立の支援に向けた多様なプログラムはその代表といえる。

ほっとスクールを民間委託することについては、優良な事業者を選定し、区が適切にモニタリングやコントロールをすることにより、直営施設への波及効果も含め、導入効果が得られるのではないかと考える。

令和3年度
教育支援センター（ほっとスクール）運営評価委員会
評価結果報告書

1 運営評価の概要

(1) 評価目的

区内3か所のほっとスクールへの訪問調査を実施し、各ほっとスクールにおける「居場所機能」、「学習支援機能」、「社会適応支援機能」の支援機能等について評価し、ほっとスクールにおける民間委託制度の導入効果を明らかにするとともに、各ほっとスクールにおける運営体制や支援の実施状況等を比較検証し、運営評価の総括を行う。

(2) 運営評価委員会 構成員

委員長	東京学芸大学 特別支援教育・教育臨床サポートセンター、 教職大学院教授	小林 正幸
委員	さくら国際高等学校学園長	荒井 裕司
委員	教育監	栗井 明彦
委員	教育政策部参与	平沢 安正
委員	教育相談専門指導員	今村 泰洋
委員	副参事 (学校経営・教育支援担当)	塚本 桂子

(3) 実施経過

令和3年8月24日(火)	第1回教育支援センター運営評価委員会 (第三者評価結果確認、訪問調査に向けた調査項目の検討)
9月17日(金)	訪問調査(1回目)
9月21日(火)	訪問調査(2回目)
9月22日(水)	訪問調査(3回目)
10月21日(木)	第2回教育支援センター運営評価委員会 (調査結果の確認、評価結果の検討)

2 運営評価の方法

(1) 評価項目

評価項目は以下のとおり、全7項目23問により構成する。

	評価項目	設問数
①	居場所機能	4問
②	学習支援機能	4問
③	社会適応支援機能	3問
④	学校との連携	2問
⑤	保護者への支援	3問
⑥	他のほっとスクールとの連携	3問
⑦	職員・スタッフの資質向上に向けた取り組み	4問

(2) 評価方法

各ほっとスクールへ訪問のうえ、上記(1)の各評価項目について施設スタッフに対するヒアリングを実施し、支援内容等について確認、評価を行った。

その後、「教育支援センター(ほっとスクール)運営評価委員会」を開催し、事前に実施した民間機関(総合システム研究所株式会社)による第三者評価の結果報告書も参考にしながら、各委員の協議により、運営評価委員会としての評価結果及び全体講評をとりまとめた。

(3) 評価基準

評価の判断基準は以下のとおりとし、設問ごとに評価点及び改善点を記載した。

- | |
|---|
| A：良好な取り組みを実施している
B：おおむね適切に実施している
C：一部改善を要する点がある |
|---|

3 運営評価の結果

別添1-1「ほっとスクール城山訪問調査 運営委員会評価結果」のとおり。

別添1-2「ほっとスクール尾山台訪問調査 運営委員会評価結果」のとおり。

別添1-3「ほっとスクール希望丘訪問調査 運営委員会評価結果」のとおり。

4 全体講評

民間機関による第三者評価及び「教育支援センター（ほっとスクール）運営評価委員会」による訪問調査の結果、区内3か所のいずれのほっとスクールにおいても、「居場所機能」や「学習支援機能」、「社会適応支援機能」の支援機能を中心に、おおむね適切に運営されていることが確認された。

ほっとスクール城山では、豊かな自然環境と元幼稚園という建物構造を有効に活用し、児童・生徒が安心して通える環境づくりに努めている。また、学習支援については、他の2施設に比べ、児童・生徒一人一人の状態に応じた支援を丁寧に行っており、学校との連携も図られている。

ほっとスクール尾山台については、他の施設に比べ施設面の制約がある中で、併設の体育館を活用したスポーツタイムを施設の特徴として打ち出すほか、スタッフの努力と工夫により、小規模施設の利点を最大限に生かし、児童・生徒一人一人に寄り添ったきめ細やかな支援を行っている。

ほっとスクール希望丘については、運営法人のバックアップのもと、柔軟な人員・組織体制を組み合わせながら、これまで培ってきたノウハウや人的ネットワークを活用し、直営2施設とは異なる多様で自由度の高い活動を展開しながら、児童・生徒や保護者のニーズに対応しており、居場所支援としての機能を発揮している。

<運営の質の向上に向けて>

総じて、適切に運営されていることが確認されたが、さらなる運営の質の向上に向けては、いくつかの改善すべき課題も見受けられた。

まず、児童・生徒への支援面では、いずれの施設においても、一人一人に寄り添った支援を行っているが、学級復帰や社会的な自立に向けては一人一人の状態に応じ、見通しをもって計画的に支援を行い、その取組みを適切に評価、見直しを行っていく仕組みづくりが求められる。また、ほっとスクール尾山台においては、第三者評価の結果にもあるように、学習支援計画の作成が急がれる。

次に、運営面では、直営の2施設については、スタッフ個々のスキルに頼る点があり、スタッフ全体の資質や専門性の向上に向けた取組みが求められる。特に、研修体制については、民間委託施設に比べ、実施回数が少ないため、施設内外含め、研修の機会や内容の充実を図っていく必要がある。

民間委託施設においては、運営法人の支援のもと、多彩な研修を実施しており、スタッフの資質や専門性の向上に向けた取組みを行っているが、他方で、その内容等は法人に委ねている面が多いため、区の委託事業としての運営の質を確保する観点から、スタッフの資質も含め、区におけるチェック機能のあり方についても検討していく必要がある。

また、不登校の児童・生徒数が年々増加していることも踏まえ、定員の拡大や新たな施設の整備も視野に、ほっとスクールにおける受け入れ体制の強化も求められる。

<民間導入の効果について>

ほっとスクール希望丘については、先にも述べたとおり、他の2施設とは異なる、多様で柔軟な自由度の高い活動を展開しており、児童・生徒や保護者のニーズに対応している。この間の利用希望者の多さからも分かるように、これまで支援につながらなかった不登校の児童・生徒の新たな居場所としての役割を果たしており、民間活力の活用により、不登校支援の充実につながっていると考えられる。

また、第三者評価の結果にあるとおり、行政コストはほっとスクール希望丘が最も大きくなっているが、延べ通室生1人あたりの行政コストはほっとスクール希望丘が最も小さく、費用面から見ても、効率的に運営されており、民間導入の効果はあったものにとらえられる。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響もあり、直営施設と民間委託施設相互の連携や交流の機会が乏しく、それぞれのノウハウを共有し、相互に運営の質を高め合う取組みは不十分であった。今後は、直営施設と民間委託施設の連携や交流を積極的に行い、相乗効果を生み出すための仕組みづくりが求められる。

<今後の方向性について>

直営施設においては、学校や教育委員会と密接に連携を図り、学習支援や進路相談の充実など、直営施設としての強みを生かした取組みを展開しており、不登校の児童・生徒と保護者のニーズを満たす役割を果たしている。

こうした点を踏まえ、今後も区直営による運営と民間委託による運営を継続し、不登校の児童・生徒の多様なニーズに応えられるほっとスクールの運営を行っていく必要があるものとする。なお、民間委託の継続にあたっては、「居場所機能」や「学習支援機能」、「社会適応支援機能」について一定の水準を確保しつつ、民間事業者独自の多彩なアイデアの提案を求め、直営施設との連携の強化を図り、相互にノウハウを共有することで、ほっとスクール全体の質の向上につながる取組みの展開を求める。

世田谷区における不登校の児童・生徒数は年々増加傾向にあり、その背景や状況も様々である。そのため、児童・生徒一人一人の状態に応じた適切な支援が求められる。

今後の不登校施策の展開にあたっては、ほっとスクールと令和4年4月に開設を予定している不登校特例校との機能や求められる役割を明確にし、区立小中学校とほっとスクール、不登校特例校、教育委員会それぞれの果たすべき取組みを整理し、区における不登校施策の全体像を明示していく必要がある。

評価基準 A…良好な取り組みを実施している B…おおむね適切に実施している C…一部改善を要する点がある

評価項目	(1) 居場所機能	委員会評価
設問①	児童・生徒が安心して通えるために、どのような工夫を行っているのか。	A
設問②	児童・生徒の状態をどのように把握（アセスメント）しているか。また、支援計画を立て、スタッフ間で共有を図っているか	B
設問③	休みがちな児童・生徒への支援や働きかけはどのように行っているか。	B
設問④	児童・生徒からの相談に対して、どのような対応を行っているか。必要に応じて関係機関との連携を行っているか。	B
主な評価点	元幼稚園という環境を生かし、園庭での植栽や栽培を児童・生徒とともにいながら、安心して過ごせる雰囲気づくりを行っている。日々、児童・生徒の様子を注視し、朝と夕刻にスタッフ会議を開催し、スタッフ間で共有するとともに、会議録によりスタッフ間での引継ぎも行っている。また、必要に応じて、学校をはじめ、児童相談所や子ども家庭支援課とも連携を図っている。休みがちな児童・生徒には、保護者へ電話連絡を行うほか、「ほっとスクールだより」を送付し、通室の働きかけを行っている。	
主な改善点	児童・生徒一人一人の状態に応じ、見通しをもって計画的に支援を行い、適切な評価や見直しを行っていく必要がある。また、総合センターへの移転後においても、現在の安心して過ごせる環境を維持できる工夫を行う必要がある。	

評価項目	(2) 学習支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒一人一人の状況に応じた学習支援を行っているか。また、具体的にどのような学習支援を行っているか。	A
設問②	学習支援にあたり、目標や計画を定めて行っているか。また、目標達成や学習習熟度の評価をどのように行っているか。	B
設問③	学習意欲の醸成に向け工夫している点はあるか。	B
設問④	進路相談等、進学に向けどのような取り組みを行っているか。	A
主な評価点	スタッフが、児童・生徒一人一人の学力の状況を把握し、それぞれに応じた指導計画を作成している。また、必要に応じて個に合った教材を用意するなどの対応も行っている。また、1日の中で学習の時間を明確に設定しており、スタッフの声掛けと助言により促しを行っている。進路については、進路相談会で情報提供を行うほか、学習、作文、面接指導等の支援を実施しており、学校との情報共有も図っている。	
主な改善点	学習計画の目標達成状況や学習習熟度については、担当スタッフの個人的な判断に拠るところが大きく、組織的な検討や在籍校との連携の強化が求められる。	

評価項目	(3) 社会適応支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒の自主性や自立性の育成、自己肯定感の涵養に向け、どのような取り組みを行っているか。	A
設問②	コミュニケーション能力の育成に向け、どのような取り組みを行っているか。また、児童・生徒間の交流にあたり、どのようなことに配慮しているか。	B
設問③	どのような体験活動を行っているか。また、体験活動の充実に向け、どのような工夫を行っているか。参加しない児童・生徒へはどのような働きかけを行っているか。	A
主な評価点	多様な活動やイベントを実施し、児童・生徒の得意なことを生かせる役割を付すことで、主体的な取り組みができるよう工夫を行っている。また、その際、肯定的な声掛けを行うことをスタッフ間で共通認識を有しており、自主性や自己肯定感の涵養に努めている。	
主な改善点	様々な活動やイベントの機会を通じて社会適応支援を行っているが、適応指導として、より意図的かつ計画的な取り組みが今後求められる。また、地域住民や地域団体との交流についても積極的な展開が求められる。	

評価項目	(4) 学校との連携	委員会評価
設問①	児童・生徒の状況（通室日数、支援内容、様子等）について、どのような形で学校と連携（方法、頻度等）しているか。	B
設問②	進路指導の状況について、在籍校とどのように共有しているか。	B
主な評価点	毎月、児童・生徒の通室状況を在籍校に報告するとともに、必要に応じて電話等により情報共有を図るほか、スタッフによる在籍校訪問、及び在籍校の担任との連絡会を年1回開催している。	
主な改善点	進路指導において、一定程度の連携は見られるものの、学校側からの連携が乏しく、また、学校によって連携や情報共有の程度に差異があるため、積極的な連携体制が求められる。また、ほっとスクールとしても、日ごろからの連携体制の構築に向けた働きかけが必要である。	

評価項目	(5) 保護者への支援	委員会評価
設問①	保護者との情報共有はどのように行っているか。	B
設問②	保護者からの相談に対して、どのように対応しているか。	B
設問③	必要に応じて関係機関と連携した保護者への支援を行っているか。	B
主な評価点	特記なし	
主な改善点	保護者からの相談に対する支援体制の充実が求められる。	

評価項目	(6) 他のほっとスクールとの連携	委員会評価
設問①	他のほっとスクールとどのように連携を図っているか。	B
設問②	民間委託のほっとスクール「希望丘」の設置により、運営にどのような影響や効果があったか。(人的ネットワークや民間ノウハウの活用など)	B
設問③	区直営のほっとスクールとして、支援にどのような特色(民営との違い)を生かしているか。	B
主な評価点	新型コロナウイルス感染症の拡大以後は実施できていないが、3施設での合同会議や合同イベントを開催し、情報共有や交流を図っている。ほっとスクール尾山台とは同じ直営施設として、密に情報交換を行っており、また、スタッフに学校の元管理職がいる強みを生かし、在籍校への復帰や進路指導等の際に学校との連携が図られている。	
主な改善点	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響があるものの、ほっとスクール希望丘との連携や交流の機会が少なく、民間活力やノウハウを十分には活用できていない。相互に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。	

評価項目	(7) 職員・スタッフの資質向上に向けた取り組み	委員会評価
設問①	ほっとスクールのスタッフとして、求められる資質や専門性についてどのように捉えているか。	B
設問②	スタッフ間で指導・助言できる仕組みはありますか。また、どのような工夫を行っているか。	B
設問③	資質、専門性の向上に向け、どのような研修や取り組みを行っていますか。計画的に研修等を実施しているか。	B
設問④	他のほっとスクール職員との連携や交流による、スタッフの専門性や資質の向上に向けた取り組みを行っているか。また、どのような効果があったか。	B
主な評価点	児童・生徒一人一人に寄り添うことのできる共感的な感性がスタッフ間で共有されている。また、不登校に対する理解、体験活動や学習支援、子どもの特性理解や保護者との関係づくりなど、多角的な面から専門性の向上に努めている。また、月2回のスタッフ会議においてスーパーバイズを実施している。	
主な改善点	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあったが、研修機会が少ないため、さらなる研修機会の確保に努める必要がある。また、ほっとスクール尾山台とは合同研修を実施しているが、ほっとスクール希望丘との連携や交流の機会が少なく、民間活力やノウハウの共有ができていない。相互に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。	

総評		委員会評価
総評	<p>元幼稚園という環境を生かし、自然環境と建物構造を利活用しながら、児童・生徒が通いやすい環境づくりに努めている。また、スタッフの雰囲気も明るく、児童・生徒に寄り添った支援が進められている。</p> <p>特に、学習支援においては、他の施設に比べ、児童・生徒一人一人に応じた個別支援を的確に行っており、学校との連携も図られている。また、社会適応支援の面についても、学習活動や体験活動において、児童・生徒の自主性、社会性、自己肯定感との関連が明確に意識された取り組みがなされ、児童・生徒が自らの意思を表明した際には評価を行うなど、児童・生徒への支援に対し高い意識をもって取り組んでいる。</p> <p>一方で、支援の場面では、スタッフ個々の経験値や個性・感性に委ねられている点があるため、今後、さらなる支援の充実に向け、支援に対する評価と見直しの実施、スタッフ全体の資質や専門性の向上に向けた研修の充実が求められる。そのためにも、民間委託施設との連携をより密に行い、民間ノウハウや人的ネットワークの共有化が求められる。</p> <p>また、今後、教育総合センターへの移転後、環境変化に対する児童・生徒へのきめ細やかな支援が求められる。</p>	A

ほっとスクール「尾山台」訪問調査 運営評価委員会評価結果

別添 1 - 2

評価基準 A…良好な取り組みを実施している B…おおむね適切に実施している C…一部改善を要する点がある

評価項目	(1) 居場所機能	委員会評価
設問①	児童・生徒が安心して通えるために、どのような工夫を行っているのか。	B
設問②	児童・生徒の状態をどのように把握（アセスメント）しているか。また、支援計画を立て、スタッフ間で共有を図っているか	B
設問③	休みがちな児童・生徒への支援や働きかけはどのように行っているか。	B
設問④	児童・生徒からの相談に対して、どのような対応を行っているか。必要に応じて関係機関との連携を行っているか。	B
主な評価点	行事やゲーム等の開催など、人間関係が築きやすい環境づくり、スタッフが意識を持って取り組んでいる。また、緊張度が高い児童・生徒に対しては、早期になじめるようスタッフが寄り添って支援している。 児童・生徒の状況や課題をワークシートに記載するとともに、朝と夕刻にスタッフ会議を開催し、スタッフ間での引継ぎも行っている。休みがちな児童・生徒には、保護者へ電話連絡を行うほか、「ほっとスクールだより」を送付し、通室の働きかけを行っている。	
主な改善点	児童・生徒一人一人の状態に応じ、見通しをもって計画的に支援を行い、適切な評価や見直しを行っていく必要がある。	

評価項目	(2) 学習支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒一人一人の状況に応じた学習支援を行っているか。また、具体的にどのような学習支援を行っているか。	B
設問②	学習支援にあたり、目標や計画を定めて行っているか。また、目標達成や学習習熟度の評価をどのように行っているか。	C
設問③	学習意欲の醸成に向け工夫している点はあるか。	B
設問④	進路相談等、進学に向けどのような取り組みを行っているか。	A
主な評価点	児童・生徒一人一人の学習意欲に応じた指導を実施している。特に、学習意欲の低い児童・生徒に対しては、基礎学力の定着に力を入れており、自信の回復や達成感を得ることから、学習意欲の向上につなげている。 進路については、進路相談会で情報提供を行うほか、学習、作文、面接指導等の支援を実施している。また、学期ごとに二者面談を実施するなど、個別の相談体制も整っている。 中学校2年生に対しても進路に関する情報提供を行うなどの工夫も行っている。	
主な改善点	学習支援計画が作成されていないため、目標達成状況や学習習熟度の評価が十分にはなされていない。児童・生徒の状況に応じた学習支援計画の作成が求められる。 また、学習意欲の向上や動機付けに向けた更なる創意工夫が求められる。	

評価項目	(3) 社会適応支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒の自主性や自立性の育成、自己肯定感の涵養に向け、どのような取り組みを行っているか。	B
設問②	コミュニケーション能力の育成に向け、どのような取り組みを行っているか。また、児童・生徒間の交流にあたり、どのようなことに配慮しているか。	B
設問③	どのような体験活動を行っているか。また、体験活動の充実に向け、どのような工夫を行っているか。参加しない児童・生徒へはどのような働きかけを行っているか。	B
主な評価点	児童・生徒同士のかかわりを重視した活動やイベントを実施し、児童・生徒自ら主体的に取り組むための工夫を行っている。 集団行動が苦手な児童・生徒に対しては、遊びを重視した活動を行い、子どもたちが相互に関わりやすい雰囲気づくりを行うとともに、スタッフが個別に配慮しながら対応している。	
主な改善点	様々な活動やイベントの機会を通じて社会適応支援を行っているが、適応指導として、より意図的かつ計画的な取り組みが今後求められる。 また、地域住民や地域団体との交流についても積極的な展開が求められる。	

評価項目	(4) 学校との連携	委員会評価
設問①	児童・生徒の状況（通室日数、支援内容、様子等）について、どのような形で学校と連携（方法、頻度等）しているか。	B
設問②	進路指導の状況について、在籍校とどのように共有しているか。	B
主な評価点	毎月、児童・生徒の通室状況を在籍校に報告するとともに、必要に応じて電話等により情報共有を図るほか、スタッフによる在籍校訪問、及び在籍校の担任との連絡会を年1回開催している。	
主な改善点	進路指導において、一定程度の連携は見られるものの、学校側からの連携が乏しく、また、学校によって連携や情報共有の程度に差異があるため、積極的な連携体制が求められる。また、ほっとスクールとしても、日ごろからの連携体制の構築に向けた働きかけが必要である。	

評価項目	(5) 保護者への支援	委員会評価
設問①	保護者との情報共有はどのように行っているか。	B
設問②	保護者からの相談に対して、どのように対応しているか。	B
設問③	必要に応じて関係機関と連携した保護者への支援を行っているか。	B
主な評価点	特記なし	
主な改善点	保護者からの相談に対する支援体制の充実が求められる。	

評価項目	(6) 他のほっとスクールとの連携	委員会評価
設問①	他のほっとスクールとどのように連携を図っているか。	B
設問②	民間委託のほっとスクール「希望丘」の設置により、運営にどのような影響や効果があったか。(人的ネットワークや民間ノウハウの活用など)	B
設問③	区直営のほっとスクールとして、支援にどのような特色(民営との違い)を生かしているか。	B
主な評価点	新型コロナウイルス感染症の拡大以後は実施できていないが、3施設での合同会議や合同イベントを開催し、情報共有や交流を図っている。ほっとスクール城山とは同じ直営施設として、密に情報交換を行っており、また、スタッフに学校の元管理職がいる強みを生かし、在籍校への復帰や進路指導等の際に学校との連携が図られている。	
主な改善点	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響があるものの、ほっとスクール希望丘との連携や交流の機会が少なく、民間活力やノウハウを十分には活用できていない。相互に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。	

評価項目	(7) 職員・スタッフの資質向上に向けた取り組み	委員会評価
設問①	ほっとスクールのスタッフとして、求められる資質や専門性についてどのように捉えているか。	B
設問②	スタッフ間で指導・助言できる仕組みはありますか。また、どのような工夫を行っているか。	B
設問③	資質、専門性の向上に向け、どのような研修や取り組みを行っていますか。計画的に研修等を実施しているか。	B
設問④	他のほっとスクール職員との連携や交流による、スタッフの専門性や資質の向上に向けた取り組みを行っているか。また、どのような効果があったか。	B
主な評価点	教育相談、学習指導、心理学的支援、特別支援教育など、各スタッフがその強みを発揮し、指導を総合的に行っている。また、月2回のスタッフ会議におけるスーパーバイズの実施や内部研修を実施し、専門性の向上に努めている。	
主な改善点	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあったが、研修機会が少ないため、さらなる研修機会の確保に努める必要がある。また、ほっとスクール尾山台とは合同研修を実施しているが、ほっとスクール希望丘との連携や交流の機会が少なく、民間活力やノウハウの共有ができていない。相互に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。	

総評		委員会評価
総評	<p>他の施設に比べ、施設面の制約がある中で、スタッフの努力と工夫により、人間関係が築きやすい環境づくりを行い、児童・生徒に対してより寄り添った支援を行っている。また、併設の体育館を活用したスポーツタイムを施設の特色としており、児童・生徒の継続した通室につなげている。</p> <p>学習支援においては、スタッフが寄り添い学習意欲の醸成に努めているが、児童・生徒一人一人の状況に応じた目標設定や評価に至るプロセスが確立されていないため、学習支援計画の作成が求められる。</p> <p>また、ほっとスクール城山同様、支援の場面では、スタッフ個々の判断に委ねられている点が多いため、児童・生徒一人一人の状態に応じ、見通しをもった支援とその評価、見直しを行うとともに、スタッフ全体の資質や専門性の向上に向けた研修等の充実が求められる。</p> <p>民間委託施設とは異なるとの意識があり、連携に対する働きかけが少ないため、今後、民間委託施設との連携の充実を図り、民間ノウハウや人的ネットワークを活用することで、施設面の制約を補ったさらなる取り組みの展開が求められる。</p>	B

評価基準 A…良好な取り組みを実施している B…おおむね適切に実施している C…一部改善を要する点がある

評価項目	(1) 居場所機能	委員会評価
設問①	児童・生徒が安心して通えるために、どのような工夫を行っているのか。	B
設問②	児童・生徒の状態をどのように把握（アセスメント）しているか。また、支援計画を立て、スタッフ間で共有を図っているか	B
設問③	休みがちな児童・生徒への支援や働きかけはどのように行っているか。	B
設問④	児童・生徒からの相談に対して、どのような対応を行っているか。必要に応じて関係機関との連携を行っているか。	B
主な評価点	施設面で環境が恵まれており、自由な雰囲気もあることから、児童・生徒にとって自己開示しやすい環境となっている。説明会時に、スタッフ2名で児童・生徒と保護者それぞれにヒアリングを丁寧に行い、その状況を把握している。利用にあたりプレ体験を3回実施しており、その間スタッフが丁寧に対応することでスタッフとの信頼関係を構築し、安心できる環境を築いている。児童・生徒にとって脅威となる関りを行わないことを第一にしている。	
主な改善点	児童・生徒一人一人の状態に応じ、見通しをもって計画的に支援を行い、適切な評価や見直しを行っていく必要がある。また、児童・生徒の自主性を重んじる一方で、休みがちな児童・生徒への働きかけや支援の強化が求められる。	

評価項目	(2) 学習支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒一人一人の状況に応じた学習支援を行っているか。また、具体的にどのような学習支援を行っているか。	B
設問②	学習支援にあたり、目標や計画を定めて行っているか。また、目標達成や学習習熟度の評価をどのように行っているか。	B
設問③	学習意欲の醸成に向け工夫している点はあるか。	B
設問④	進路相談等、進学に向けどのような取り組みを行っているか。	B
主な評価点	児童・生徒の興味や意思を把握したうえで、学期ごとに個別学習計画を作成している。学習が苦手な児童・生徒に対しては、興味のあることから、学びの意欲を醸成する取り組みを行っている。また、学習アプリ「キュービナ」を活用した学習支援や、人的ネットワークを活用し、キャリア形成につながる講座も実施している。中学校の進路指導時期に応じた指導を実施しており、「15ミーティング」や「進路マップの制作」など、独自の取り組みを展開している。	
主な改善点	学習支援にあたっては、目標達成に向けた動機付け等の働きかけ、習熟度の評価については、より積極的な取り組みが求められる。独自の取り組みも踏まえながら、進路指導を実施しているが、その実現に向けた学習支援はさらなる取り組みが求められる。区の仕様において、学習支援にかかるスタッフの割合を明確に位置付けるなどの対応も考えられる。	

評価項目	(3) 社会適応支援機能	委員会評価
設問①	児童・生徒の自主性や自立性の育成、自己肯定感の涵養に向け、どのような取り組みを行っているか。	A
設問②	コミュニケーション能力の育成に向け、どのような取り組みを行っているか。また、児童・生徒間の交流にあたり、どのようなことに配慮しているか。	B
設問③	どのような体験活動を行っているか。また、体験活動の充実に向け、どのような工夫を行っているか。参加しない児童・生徒へはどのような働きかけを行っているか。	B
主な評価点	イベント実施の際には、児童・生徒による実行委員会を立ち上げ、企画から準備、運営に至るまで、子ども同士の話し合いにより実施しており、児童・生徒の自主性や主体性を重んじた取り組みを行っている。また、スタッフはファシリテーターとしての役割を担い、運営を支援している。	
主な改善点	児童・生徒の自主性や主体性を重んじる取り組みを行っているが、適応指導としての目的が明確、意図的かつ計画的な体験活動の実施に向けては、さらなる取り組みが求められる。また、地域住民や地域団体との交流についても積極的な展開が求められる。	

評価項目	(4) 学校との連携	委員会評価
設問①	児童・生徒の状況（通室日数、支援内容、様子等）について、どのような形で学校と連携（方法、頻度等）しているか。	B
設問②	進路指導の状況について、在籍校とどのように共有しているか。	B
主な評価点	毎月、児童・生徒の通室状況を在籍校に報告するとともに、必要に応じて電話等により情報共有を図るほか、在籍校の担任との連絡会を年1回開催している。	
主な改善点	進路指導において、一定程度の連携は見られるものの、学校側からの連携が乏しく、また、学校によって連携や情報共有の程度に差異があるため、積極的な連携体制が求められる。また、ほっとスクールとしても、日ごろからの連携体制の構築に向けた働きかけが必要である。	

評価項目	(5) 保護者への支援	委員会評価
設問①	保護者との情報共有はどのように行っているか。	B
設問②	保護者からの相談に対して、どのように対応しているか。	B
設問③	必要に応じて関係機関と連携した保護者への支援を行っているか。	B
主な評価点	特記なし	
主な改善点	保護者からの相談に対する支援体制の充実が求められる。	

評価項目	(6) 他のほっとスクールとの連携	委員会評価
設問①	他のほっとスクールとどのように連携を図っているか。	B
設問②	区営のほっとスクールとの連携等により、運営にどのような影響や効果があったか。(人的ネットワークや民間ノウハウの活用など)	B
設問③	民営のほっとスクールとして、支援にどのような特色(区営との違い)を生かしているか。	A
主な評価点	新型コロナウイルス感染症の拡大以後は実施できていないが、3施設での合同会議や合同イベントを開催し、情報共有や交流を図っている。また、区営2施設より学校との連携にかかる手法を学び、運営の質の向上に努めている。これまで法人として培ってきた人的ネットワークやノウハウを活用し、区営2施設とは異なる、民間ならではの自由度の高い取り組みを展開しており、児童・生徒にとって通いやすい環境を築いている。	
主な改善点	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響があるものの、他のほっとスクールとの連携や交流の機会が少なく、区営2施設に対し、民間活力やノウハウを十分に提供・共有しきれていない。連携や共有に向け、積極的に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。	

評価項目	(7) 職員・スタッフの資質向上に向けた取り組み	委員会評価
設問①	ほっとスクールのスタッフとして、求められる資質や専門性についてどのように捉えているか。	B
設問②	スタッフ間で指導・助言できる仕組みはありますか。また、どのような工夫を行っているか。	A
設問③	資質、専門性の向上に向け、どのような研修や取り組みを行っていますか。計画的に研修等を実施しているか。	A
設問④	他のほっとスクール職員との連携や交流による、スタッフの専門性や資質の向上に向けた取り組みを行っているか。また、どのような効果があったか。	B
主な評価点	この間、民間として培ったノウハウが蓄積されており、不登校支援に対する理解力、指導力がスタッフ間に浸透している。また、法人からの組織的指導や支援の体制が整っており、民間ならではの柔軟性や機動力がある。毎日2回ミーティングを実施しており、施設長を中心とした指導・助言体制が確保されているほか、研修体制も整っている。	
主な改善点	他のほっとスクールとの連携や交流の機会が少なく、民間活力やノウハウを区営施設と十分に共有できていない。相互に働きかけを行うとともに、区としても連携や交流に向けた支援を行う必要がある。また、運営スタッフの資質や専門性の向上に向けた取り組みについて、区としても法人と連携を図りながら、実施内容や状況を適宜確認する必要がある。	

総評		委員会評価
総評	<p>施設が新しく、若者支援センターや体育施設も併設されており、他の2施設に比べて恵まれた環境にあるため、全体として明るく楽しい雰囲気があり、児童・生徒が通いやすい環境にある。</p> <p>運営法人としての特色を前面に出した取り組みを行っており、児童・生徒と作る居場所を意識し、児童・生徒にとってプレッシャーとなるような関りを行わないことを第一としている。児童・生徒の自主性を重んじており、これまで法人として培ったノウハウやネットワークを発揮しながら、他の2施設にはない多様で自由度の高い活動を展開している。そのため、居場所支援としての機能を十分に発揮し、自宅に閉じこもりがちな児童・生徒を通室につなげる役割を担っている。</p> <p>学習支援の面においては、他の2施設に比べると学校との連携が薄いですが、「すべての活動が学び」という考えに基づき、柔軟かつ多様な活動を展開し、直営にはない特色ある支援を行うという意味では一定のニーズを満たしていると考えられる。</p> <p>民営としての組織体制や運営方針に基づき柔軟かつ機動的な活動を展開し、多様なニーズに応えた適応指導の提供という点では、民間委託の導入効果はみられるが、直営施設への波及効果は少ないため、今後、直営施設との連携や交流を強化し、相互にノウハウ等を共有することで、ほっとスクール全体の質の向上につなげていく必要がある。</p>	B